

考古資料整備活用業務

# 阿 良 久 遺 跡

—— 第5・6次発掘調査報告書 ——

令和6年2月

郡山市教育委員会



考古資料整備活用業務

# 阿 良 久 遺 跡

—— 第5・6次発掘調査報告書 ——

令和6年2月

郡山市教育委員会



# 序 文

郡山市は、福島県のほぼ中央に位置し、豊かな自然に恵まれ、その地理的特徴から、原始・古代より交通の結節点として東西南北から、さまざまな地域の文化が集まり、それらを礎として多様な文化が形成されてきました。

文化財は、地域の歴史や文化を理解する上で欠くことのできないものであり、地域文化の向上・発展の基礎となるものであります。その中でも、埋蔵文化財は文字の無い時代や文献資料の少ない地域の歴史や文化を解明するための貴重な資料です。

郡山市教育委員会では、本市の歴史や文化を解明する貴重な財産である埋蔵文化財を後世に遺し、継承していくことが現代に生きる私たちの大きな責務であるとの認識のもと、埋蔵文化財の保存と活用に努めているところであります。

本書は、平成15年に実施した区画整理に伴う阿良久遺跡の第5次並びに第6次の発掘調査の成果をまとめたものです。阿良久遺跡は、古墳時代から平安時代の散布地として登録されていますが、これまでの調査によって縄文時代の土器や土坑が確認されていることから、遡った時代から人々によって使われていた土地であることがわかってきました。

これらの調査成果を周知し、活用できるよう報告書として後世に残し、今後、地域の歴史解明の基礎資料や研究資料として、広く皆様に活用していただきますとともに、埋蔵文化財の保存と活用について御理解をなお一層深めていただければ幸いに存じます。

結びに、発掘調査実施から報告書作成にあたり、御尽力を賜りました関係各位の皆様に敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げ序文といたします。

令和6年2月

福島県郡山市教育委員会  
教育長 小野 義明

# 調 査 要 項

遺 跡 名	阿良久遺跡（あらくいせき）
所 在 地	福島県郡山市大槻町字東阿良久
発掘調査面積	第5次調査：1,500㎡ 第6次調査：2,500㎡
発掘調査期間	第5次調査：平成15年(2003)1月20日～平成15年(2003)3月31日 第6次調査：平成15年(2003)7月28日～平成15年(2003)11月30日
契 約 期 間	第5次調査：平成15年(2003)1月20日～平成15年(2003)3月31日 第6次調査：平成15年(2003)7月28日～平成16年(2004)3月26日 整 理 報 告：令和5年(2023)6月14日～令和6年(2024)2月29日
調 査 委 託 者	第5次調査：郡山市御前南土地地区画整理組合 第6次調査：郡山市御前南土地地区画整理組合 整 理 報 告：郡山市
調 査 主 体 者	第5次調査：郡山市教育委員会 第6次調査：郡山市教育委員会 整 理 報 告：郡山市教育委員会
調 査 担 当 者	第5次調査：財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 第6次調査：財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 整 理 報 告：公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター
調 査 員	第5次調査：押山雄三・田母神恵 第6次調査：佐久間正明 整 理 報 告：垣内和孝
補 助 員	第5次調査：宇佐見栄子・佐藤矢衣子・森薫 第6次調査：佐藤宏美・国井イツ子・坂梨佐知子・長澤明子・松本喜美子 整 理 報 告：今泉淳子・菅田義克

# 例 言

1. 本書は、福島県郡山市大槻町に所在する阿良久遺跡の記録保存を目的とした第5・6次発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査の費用は国庫補助金・県費・市費・郡山市御前南土地地区画整理事業負担金、整理報告の費用は国庫補助金・市費よりなる。整理報告は、未報告となっている遺跡発掘調査の成果を公開することを目的とした考古資料整備活用業務として実施した。
3. 本書は、公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センターが編集し、郡山市教育委員会が発行した。
4. 本書の執筆は、整理報告を担当した調査員が行なった。
5. 挿図の作成は、発掘調査・整理報告に参加した調査員・補助員が行なった。
6. 遺構写真は発掘調査に参加した調査員、遺物写真は整理報告を担当した調査員が撮影した。
7. 本書第1図は、基図として国土地理院発行1/25,000地形図「郡山西部」を使用した。
8. 本書第2図は、基図として発掘調査実施時の1/2,500県中都市計画図を使用した。
9. 座標値は、日本測地系平面直角座標第Ⅸ系による数値である。
10. 調査に関わる記録・資料および出土遺物は郡山市教育委員会の保管である。
11. 阿良久遺跡発掘調査の既刊報告書として、財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団編、郡山市教育委員会発行の下記文献がある。
  - 『民間宅地造成関連 阿良久遺跡 第1次発掘調査報告』平成9年(1997)
  - 『御前南土地地区画整理事業関連 阿良久遺跡 1区調査報告』平成9年(1997)
  - 『御前南土地地区画整理事業関連 阿良久遺跡 2区調査報告』平成10年(1998)
  - 『御前南土地地区画整理事業関連 阿良久遺跡 2・3区調査報告』平成10年(1998)
12. 本書に掲載した阿良久遺跡第5次発掘調査の実施に際し、以下のように既往の発掘調査次数を整理するとともに、第5次発掘調査以降の遺構番号を第1次発掘調査からの累積の番号とした。
  - 平成8年度(1996)実施 民間宅地造成関連第1次発掘調査 → 第1次発掘調査
  - 平成8年度(1996)実施 郡山市御前南土地地区画整理事業関連1区 → 第2次発掘調査
  - 平成9年度(1997)実施 郡山市御前南土地地区画整理事業関連2区 → 第3次発掘調査
  - 平成9年度(1997)実施 郡山市御前南土地地区画整理事業関連3区 → 第4次発掘調査

# 目 次

序 文

調査要項

例 言

目 次

## 第1章 環境と概要

第1節 遺跡の環境 .....	1
第2節 調査成果の概要 .....	4

## 第2章 第5次調査

第1節 調査経過 .....	6
第2節 遺 構 .....	6
第3節 遺 物 .....	26

## 第3章 第6次調査

第1節 調査経過 .....	36
第2節 遺 構 .....	36
第3節 遺 物 .....	50

写真図版

報告書抄録

# 第1章 環境と概要

## 第1節 遺跡の環境

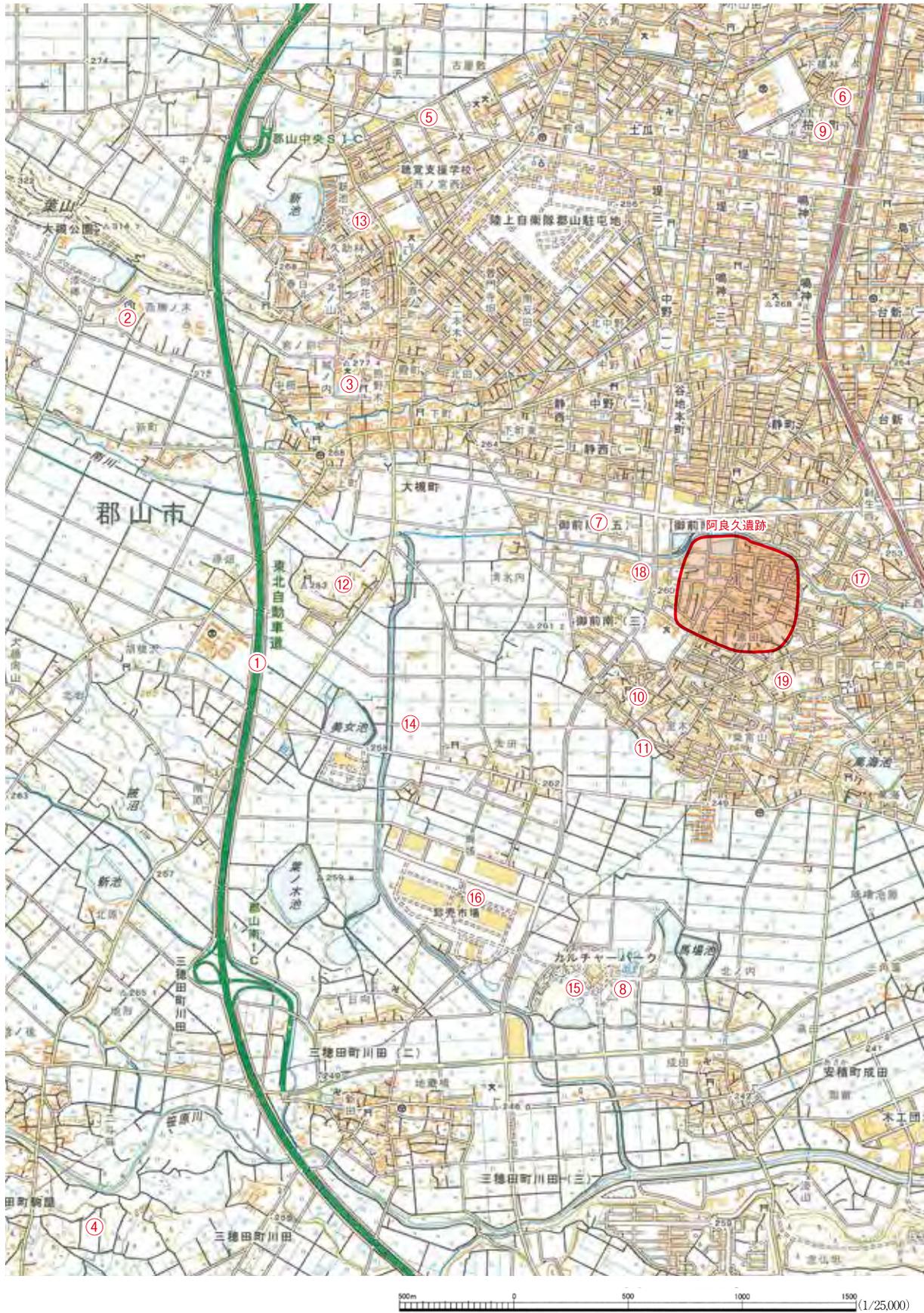
阿良久遺跡は、福島県郡山市大槻町に所在し、郡山市の中心市街地からは西へ5kmほど離れている。郡山市の中心市街地は郡山盆地に広がり、阿良久遺跡はこの盆地の南西側に位置する。郡山盆地は断層盆地と山間盆地の中間的な特性を持ち、その大部分は更新世中期の堆積物とされる郡山層からなる。大槻町の周辺には、奥羽山脈に源を発する逢瀬川などによって大槻扇状地が形成されている。そして郡山層と大槻扇状地とが、郡山台地と呼ばれる比較的平坦な地形を形成する。阿良久遺跡の位置は大槻扇状地の扇端付近にあたり、遺跡は浅い開析谷に囲まれた標高253~260mの微高地上に立地する。現在では、遺跡の範囲の多くは宅地化している。

以下では、阿良久遺跡周辺の中世までの代表的な遺跡を概観する。最も古い時期の遺跡は①壇ノ腰遺跡で、ナイフ形石器などがみつまっている。旧石器時代にはすでに、人類がこの地域を生活域としていたことになる。続く縄文時代では、②大槻八頭遺跡や③城の内遺跡で縄文早期後半の集落がみつまっている。比較的広い面積を発掘調査した大槻八頭遺跡では、縄文土器ばかりでなく多様な石器が出土しており、安定した定住生活の営まれていたことが確認できた。壇ノ腰遺跡では縄文中期、④一人子遺跡では晩期の集落が確認されている。弥生時代では、一人子遺跡で前期の土器が出土し、⑤福良沢遺跡や⑥柏山遺跡で中期の墳墓がみつまっている。

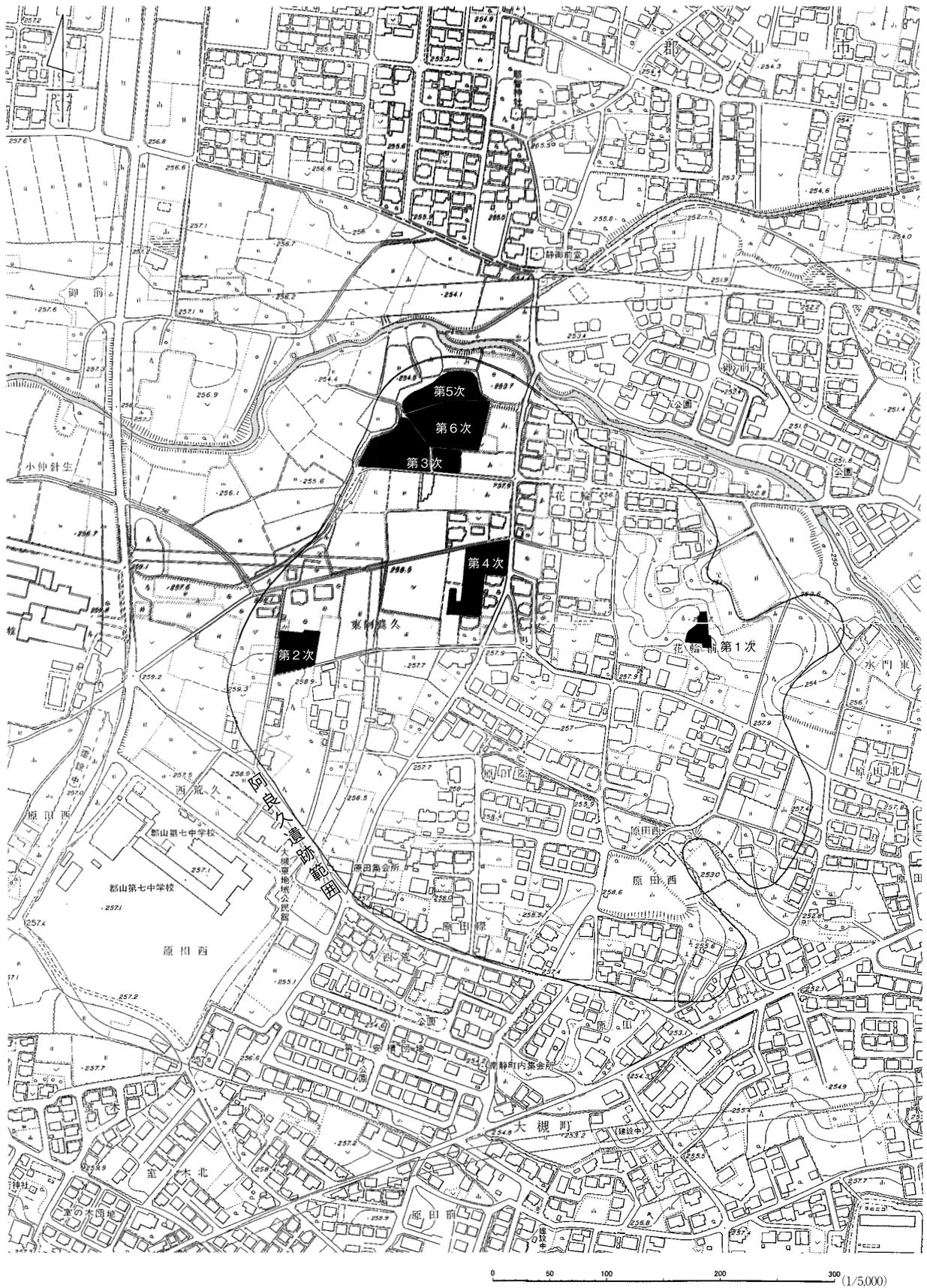
阿良久遺跡の周辺において、発掘調査で詳細の判明した遺跡が多くなるのは古墳時代以降である。③城の内遺跡は前期から後期まで継続する拠点的な集落とみられ、⑦清水内遺跡では中期前半の大規模な集落がみつかった。清水内遺跡の集落の一面には、祭場とみられる方形区画がある。渡来系の要素が色濃く認められる点も、同集落の特徴である。⑧東丸山遺跡では、前期の集落と古墳群が確認されている。中期以降の古墳には、⑨阿弥陀壇古墳群・⑩柴宮山古墳群・⑪麦塚古墳・⑫堂山古墳群・⑬大槻古墳群などがある。集落は後期になると数が多くなり、代表的な遺跡として⑭太田遺跡や⑮丸山遺跡などがある。阿良久遺跡の周辺は、郡山市域でも古墳時代の遺跡が集中しており、この地域を基盤とした豪族の存在が想定できる。

奈良・平安時代の遺跡はさらに多く確認でき、集落が広く拡散した様子がうかがえる。⑯肩張遺跡では、企画的な配置を示す掘立柱建物群がみつかるとともに、比較的多くの墨書土器や硯が出土した。また、⑰愛宕台窯跡・⑱針生窯跡・⑲原田窯跡など、古代安積郡の郡衙に瓦を供給した瓦窯が集中して所在するのも、この地域の特徴である。古代の安積郡において、この地域が特別な役割を担っていたことがうかがえる。古墳時代の豪族の系譜をひく有力者の存在が、その背景にあることは容易に想像できるだろう。⑦清水内遺跡では、瓦の生産に関わった集落がみつまっている。

中世になると、③城の内遺跡の範囲内に大槻城が取り立てられる。城主の大槻氏は、鎌倉時代に安積郡の地頭となった伊東氏の庶流とされる。奥羽仕置後、大槻城は会津蒲生領の支城となるが、すぐに廃される。文禄3年(1594)の「蒲生領高目録」によれば、大槻村の石高は2,599石余である。



第1図 阿良久遺跡の位置



第2図 発掘調査区的位置

## 第2節 調査成果の概要

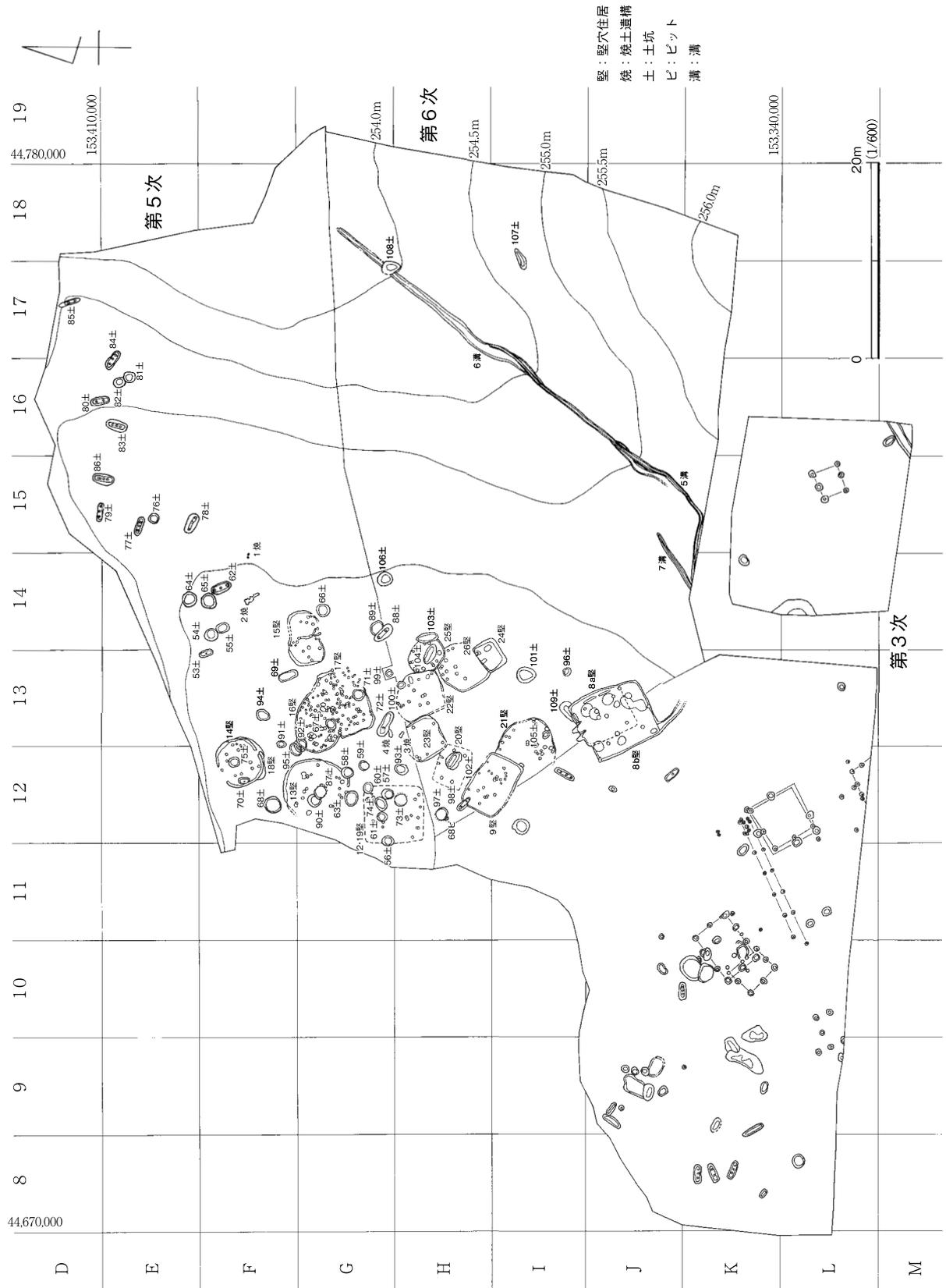
例言に示したように、第5次調査の実施時に、既往の発掘調査の呼称を整理して変更するとともに、第5次調査以降の遺構番号を第1次調査からの累積の番号とした。第5・6次調査区は、阿良久遺跡の範囲の北端であり、微高地上の北先端付近にあたる。調査の結果、縄文時代の集落・狩猟場および平安時代の集落を確認した。

縄文時代の集落は、早期後半・前期前半・前期後半・晩期中葉という具合に、断続して営まれていた。遺構には竪穴住居・焼土遺構・土坑がある。竪穴住居の時期別の内訳は、早期後半が12・15・19・21・22・23号、前期後半が16号、晩期中葉が13・14・18号となる。17・25・26号は出土遺物が僅少で判断できないが、早期後半か前期前半のどちらかであろう。9号は遺物が混在し、判断が難しい。竪穴住居の位置は、どの時期も微高地上の北先端付近である。早期後半が集落の中心的な時期で、それ以外は数棟の竪穴住居からなる小規模な集落であったと思われる。火災で廃絶したとみられる晩期中葉の14号では、一对の耳飾りが出土した。耳飾りの周りに、別遺構の掘り込みは認められない。よって火災時には、竪穴住居内に耳飾りを装着した人物が居たか、もしくは遺体が存在したことになる。焼土遺構は、竪穴住居と同様な立地にある。竪穴住居の炉の残欠か、屋外での焚火などの痕跡と考えられる。

土坑には、いくつかのタイプがある。平面が円形基調で壁の立ち上がりがオーバーハングする部分のある54・58・60・63・64・66・68・73・87・89・97号と、形状が円筒形になる55・56・57・59・61・65・67・71・75・76・81・82・90・91・92・93・95・96・99・100・105号の多くは、貯蔵穴として機能したと考えられる。このタイプの土坑の大半は、竪穴住居と同じく微高地の北先端付近に位置する。平面が長円形もしくは長方形を基調とし、下半部がしっかり掘り込まれて底面に杭などを設置した逆茂木の痕跡が確認できた53・62・70・72・77・78・79・80・83・84・85・86・88・98号と、底面に逆茂木などの痕跡は認められないものの、これと似た形状の102・104号は、狩猟用の落とし穴と考えられる。このタイプの土坑は、微高地上の北先端付近とそこから北東に派生する尾根上に位置する。

平安時代の集落は、第3次調査（調査時の2区）でみつかった集落の続きである。竪穴住居は8a・8b・20・24号である。いずれも平安時代前期の9世紀と思われるが、小型の8a号と大型の8b号が同一場所において重複しているように、新旧の2時期がある。新しい時期が8a・20・24号、古い時期が8b号である。建物の配置や主軸の方向などから、8b号は第3次調査（調査時の2区）でみつかった掘立柱建物群との関連が想定できる。北東に開く谷地形の底に伸びる5・6・7号溝は、8b号の排水溝につながる可能性がある。溝の流路が、位置をずらしながら機能したのであろう。8b号は比較的規模が大きく、豊富な遺物が出土した。その中には、「三宅舗」や「上」と判読できる墨書土器がある。阿良久遺跡の周辺には愛宕台窯跡・針生窯跡・原田窯跡といった瓦窯が存在し、その製品は安積郡衙とみられる清水台遺跡に供給されている。「三宅舗」の墨書土器は、郡衙に連なる公的な施設の存在をうかがわせる。

以上で触れたほか、形状が不整な土坑が9基とピットが1基みつかった。土坑の大半は時期や用途などが判然としないが、ピットからは縄文晩期中葉の土器が出土しており、当該期における何らかの営為の痕跡とみられる。



第3図 遺構配置

## 第2章 第5次調査

### 第1節 調査経過

平成15年(2003)1月20日に郡山市教育委員会と財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団とのあいだで締結した埋蔵文化財発掘調査業務委託契約に基づき、同日に財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団が発掘調査に着手した。まず重機を使用して表土の除去を行ない、それが終了した場所から人力による遺構の検出および掘り込みを進めた。調査区内の層序は、L I(表土)、L II・III(黒色系の遺物包含層)、L IV(黄色系の地山)である。

遺構の図化は、20分の1および10分の1の縮尺で行ない、写真は35mmカラーリバーサルフィルムで撮影した。1月末の時点での遺構の検出数は竪穴住居4棟、土坑2基である。2月末の時点での進捗状況は、遺構の検出数が竪穴住居8棟、土坑20基で、そのうち調査が終了した遺構は竪穴住居4棟、土坑16基である。発掘調査に伴うすべての作業が終了したのは、3月31日である。

### 第2節 遺 構

第5次調査では、竪穴住居を8棟、焼土遺構を4基、土坑を43基確認した。以下、遺構ごとに概要を報告する。なお、遺構の番号は、既往の調査分を含め、第1次調査から本章の第5次調査までの遺構を整理して、一連の番号とした。

**12号竪穴住居** 調査区北西側の微高地上の北先端付近、G・H-12グリッドで確認した。19号竪穴住居とほぼ同位置で重複する。全体に削平が及んでおり、竪穴の壁は残っていない。わずかに遺存した竪穴堆積土のℓ1には沼沢パミスを含む。竪穴と想定される範囲から19基の小穴(P)を確認した。竪穴の中央付近には平面が不整形に焼土化した部分があり、炉と考えられる。

**13号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、F・G-12グリッドで確認した。全体に削平が及び、竪穴の壁は残っていないものの、円弧状に壁溝がめぐり、おおよその形状は把握できる。竪穴は円形基調の平面で、その範囲内から30基の小穴(P)を確認した。竪穴の中央付近には、浅い窪みを伴う炉が設けられている。

**14号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、F-12グリッドで確認した。18号竪穴住居とほぼ同位置で重複する。南東側を中心に竪穴の壁が円弧状に遺存しており、竪穴の平面は円形基調であったとわかる。堆積土中に炭化材や焼土の集中がみられ、焼失により廃絶したことがうかがえる。竪穴の中央付近には炉が設けられ、竪穴の範囲内からは10基の小穴(P)を確認した。

**15号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、F・G-13・14グリッドで確認した。竪穴の平面は、東西に長い円形基調で、その中心付近でややくびれる。この部分を境にして床の高さに高低差があり、東側の床がわずかに低い。床がやや高い西側に、炉と思われる平面が不整形の焼土化が認められる。竪穴の範囲内において、28基の小穴(P)を確認した。

**16号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-13グリッドで確認した。17号竪穴住居と重複する。竪穴の平面は、東西に長い円形基調である。竪穴の範囲内から多数の小穴(P)を確認したが、17号竪穴住居と重複する部分のものについては帰属の判断が難しい。床に4カ所の焼土化が認められ、そのうちの1つである焼土3には明確な窪みが伴う。これら4カ所の焼土の多くは、炉として機能したとみられる。その他、竪穴範囲内の西側に2カ所の焼土の集中が確認できた。

**17号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-13グリッドで確認した。16号竪穴住居と重複する。この重複部分の竪穴の壁が失われているが、西および南の壁は直線的であり、竪穴の平面は東西に長い方形であったとわかる。竪穴の範囲内から多数の小穴(P)を確認したが、16号竪穴住居と重複する部分のものについては帰属の判断が難しい。

**18号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、F-12グリッドで確認した。14号竪穴住居とほぼ同位置で重複する。一部途切れた部分があるものの、円形基調に壁溝がめぐる。竪穴の範囲内から、5基の小穴(P)を確認した。竪穴のほぼ中央付近に、炉とみられる平面が不整形の窪みがあるものの、明確な焼土化は確認できなかった。

**19号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、G・H-12グリッドで確認した。12号竪穴住居とほぼ同位置で重複する。全体に削平が及んでおり、竪穴の南壁のみがわずかに遺存する。この南壁の平面が直線的であることから、竪穴の平面は方形基調と考えられる。想定できる竪穴の範囲内から、12基の小穴(P)を確認した。同じくその中央からやや南西に偏った場所において、炉とみられる平面が不整形の焼土化を確認した。

**1号焼土遺構** 調査区の中央付近、東向き斜面上部のF-14グリッドで確認した。ごく狭い範囲の焼土化が東西に2つ並ぶ。上部が削平により失われており、焼土化した深部が遺存したものと思われる。

**2号焼土遺構** 調査区の中央付近、微高地の北縁辺にあたるF-14グリッドで確認した。斜面に平行するように、焼土化が北西から南東の方向に不整形に続く。ただし焼土化が深部にまで及ぶのは北西部分に限られ、南東部分の焼土化はごく薄い。

**3・4号焼土遺構** 調査区西側の微高地上の北先端付近、G・H-13グリッドで確認した。3号焼土と4号焼土とが南北に2基並列する。それぞれは比較的広い範囲が焼土化しており、別個の遺構と判断したが、両者の間は攪乱により掘削されているため、3号焼土と4号焼土とが繋がり、大きな1つの焼土を形成していたことも否定できない。

**53号土坑** 調査区西側、微高地の北縁辺にあたるF-13グリッドで確認した。平面は長円形で、壁の立ち上がりは急角度である。長軸が斜面と直交する。底面の中央付近に小穴が1基ある。堆積土に沼沢パミスを含む層がある。

**54号土坑** 調査区西側、微高地の北縁辺にあたるF-14グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度であり、部分的にオーバーハングする。

**55号土坑** 調査区西側、微高地の北縁辺にあたるF-14グリッドで確認した。平面はややつぶれた円形で、壁の立ち上がりは急角度である。

**56号土坑** 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度である。ℓ1に沼沢パミスを含む。

57号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。平面は円形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度だが、北壁の上部を中心にテラス状に開く。ℓ1・2に沼沢パミスを含む。

58号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度であり、部分的にオーバーハングする。ℓ1に沼沢パミスを含む。

59号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度である。北西部分の壁が攪乱により乱れている。ℓ5以外の堆積土各層に沼沢パミスを含む。

60号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度であり、多くの部分でオーバーハングする。ℓ1に沼沢パミスを含む。

61号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度である。ℓ1・2に沼沢パミスを含む。

62号土坑 調査区の中央付近、微高地の北縁辺にあたるF-14グリッドで確認した。平面は長円形で、壁の立ち上がりは急角度であり、上部では開き気味になる。長軸はやや西に傾いた南北方向である。底面に浅い小穴が3基並ぶ。

63号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。北西側が大きく失われている。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度であり、多くの部分でオーバーハングする。ℓ1・2に沼沢パミスを含む。

64号土坑 調査区の中央付近、微高地の北縁辺にあたるE-14グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度であり、部分的にオーバーハングする。

65号土坑 調査区の中央付近、微高地の北縁辺にあたるF-14グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度であり、部分的にオーバーハングする。堆積土に沼沢パミスを含む層がある。

66号土坑 調査区の中央付近、微高地の北縁辺にあたるG-14グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度であり、部分的にオーバーハングする。

67号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-13グリッドで確認した。平面はやや崩れているものの円形基調で、壁の立ち上がりは急角度であり、部分的にオーバーハングする。

68号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、E-12グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは急角度であり、部分的にオーバーハングする。

69号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、F-13グリッドで確認した。平面は長軸が南北方向となる方形を基調とし、壁の立ち上がりは緩やかで、深さは浅い。

70号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、F-12グリッドで確認した。平面は長軸が南北方向となる長方形であり、壁の立ち上がりは急角度だが、上部は開き気味となる。底面の中央付近に小穴が1基ある。

71号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-13グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは緩やかであり、深さはごく浅い。

72号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-13グリッドで確認した。長軸が東西方向となり、平面は上部が長円形、底部が長方形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度である。底面の西側に偏った

位置に、小穴が1基確認できた。

73号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-12グリッドで確認した。平面は円形で、壁はおおむねオーバーハングして立ち上がる。

74号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。平面は長円形で、壁の立ち上がりは急角度である。

75号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、F-12グリッドで確認した。平面は円形を基調とするもののいびつな形状で、壁の立ち上がりは緩く、深さはごく浅い。

76号土坑 調査区の中央付近、北東に傾斜する尾根斜面のE-15グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは緩やかである。

77号土坑 調査区の中央付近、北東に傾斜する尾根斜面のE-15グリッドで確認した。長軸が東西方向となり、壁の立ち上がりは急角度である。底面に小穴が3基並ぶ。

78号土坑 調査区の中央付近、北東に傾斜する尾根斜面のE-15グリッドで確認した。長軸が東西方向となり、壁の立ち上がりは急角度である。底面に小穴が4基並ぶが、東端部のものはごく浅い。

79号土坑 調査区の中央付近、北東に傾斜する尾根斜面のD-15グリッドで確認した。長軸が東西方向、平面は方形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度である。底面に小穴が3基並ぶ。

80号土坑 調査区の東側、北東に傾斜する尾根斜面のD・E-16グリッドで確認した。長軸が南北方向、平面は方形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度である。底面に小穴が2基並ぶ。ℓ1に沼沢パミスを含む。

81号土坑 調査区の東側、北東に傾斜する尾根斜面のE-16グリッドで確認した。平面は円形を基調とし、壁の立ち上がりは緩やかで、底面は平坦にならない。深さはごく浅い。ℓ1に沼沢パミスを含む。

82号土坑 調査区の東側、北東に傾斜する尾根斜面のE-16グリッドで確認した。平面は円形を基調とし、壁の立ち上がりは緩やかである。深さはごく浅い。ℓ1に沼沢パミスを含む。

83号土坑 調査区の東側、北東に傾斜する尾根斜面のE-16グリッドで確認した。長軸が南北方向、平面は方形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度である。底面に小穴が3基並ぶ。

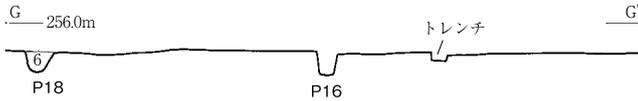
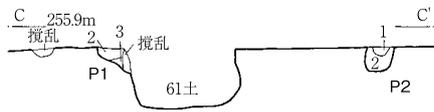
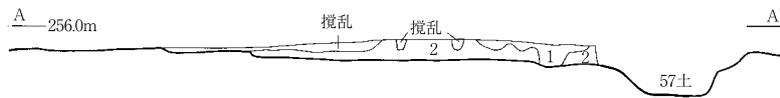
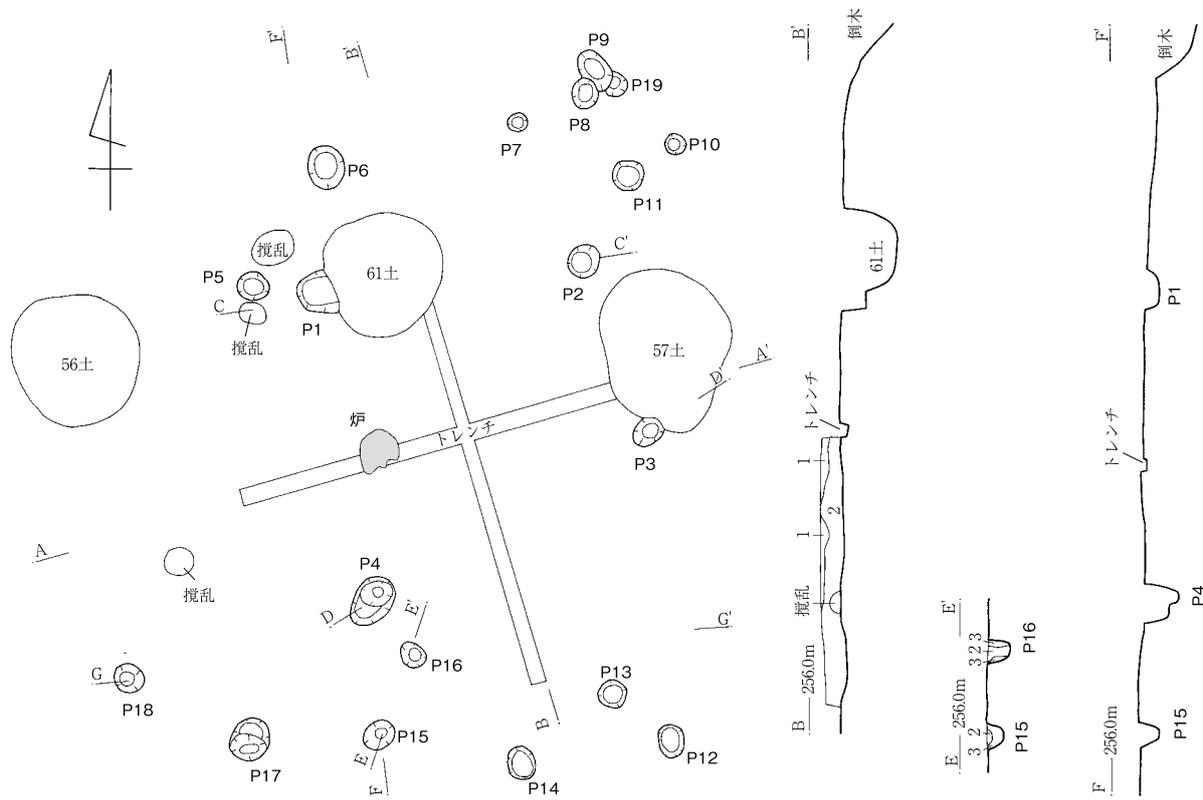
84号土坑 調査区の東側、北東に傾斜する尾根斜面のE-16・17グリッドで確認した。長軸が東西方向、平面は方形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度である。底面に小穴が3基並ぶ。

85号土坑 調査区の東側、北東に傾斜する尾根斜面のD-17グリッドで確認した。北側の深さはごく浅く、斜面の土砂とともに流失したと思われる。長軸が南北方向となる細長い形状で、遺存部分の壁の立ち上がりは急角度である。底面の中程付近と南側に小穴があり、そのうち前者は南壁が階段状になる。

86号土坑 調査区の東側、北東に傾斜する尾根斜面のD・E-15グリッドで確認した。長軸が南北方向、平面は方形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度である。底面に小穴が4基並ぶ。

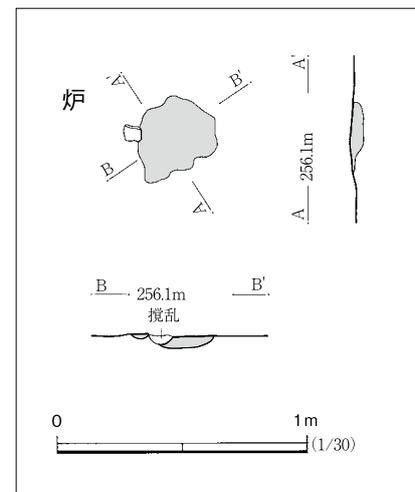
87号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。平面は円形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度で、多くの場所でオーバーハングする。

88号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-14グリッドで確認した。南東側は第6次調査区に含まれるが、ここで併せて報告する。平面は長方形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度である。底面に小穴が2基並ぶ。

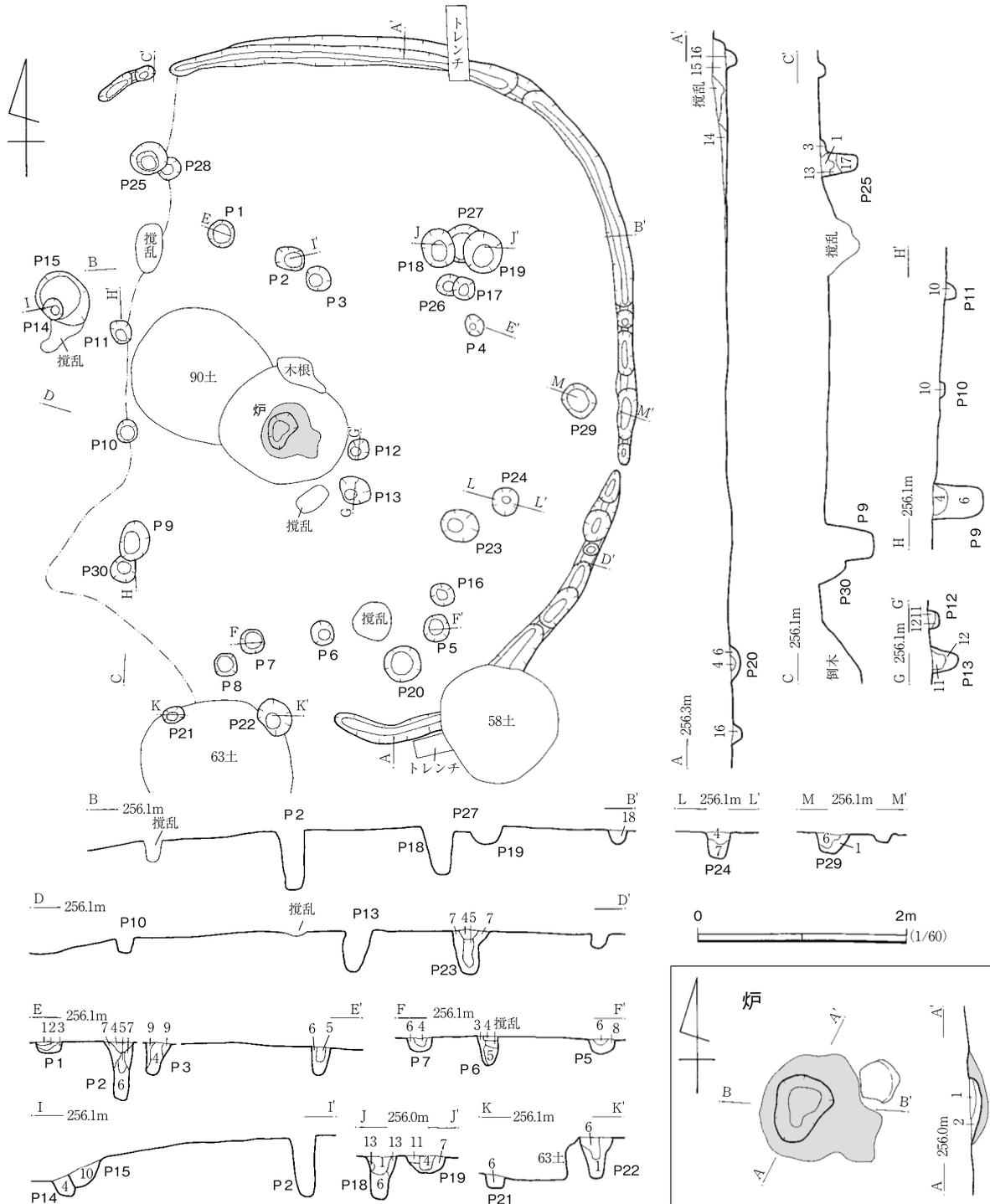


12号竪穴住居

1. 黒色土 (沼沢バミスを含む)
  2. 褐色土 (しまり良い、炭化物少量含む)
- P 1 ~ 4・15・16・18
1. 暗褐色土 (沼沢バミス微量含む)
  2. 暗褐色土 (炭化粒微量含む)
  3. 褐色土 (ローム粒多量含む)
  4. 暗黄褐色土 (ローム粒多量含む)
  5. 暗褐色土 (ローム粒含む)
  6. 暗褐色土 (炭化物少量含む)

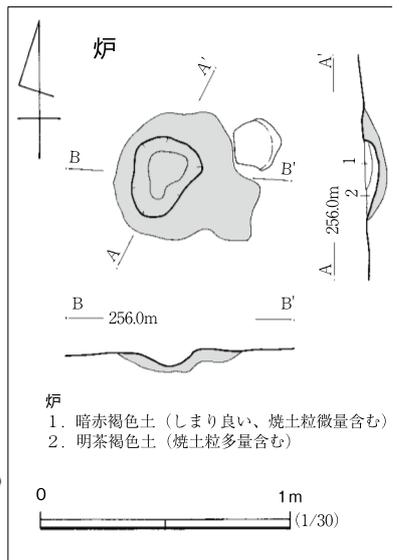


第4図 12号竪穴住居

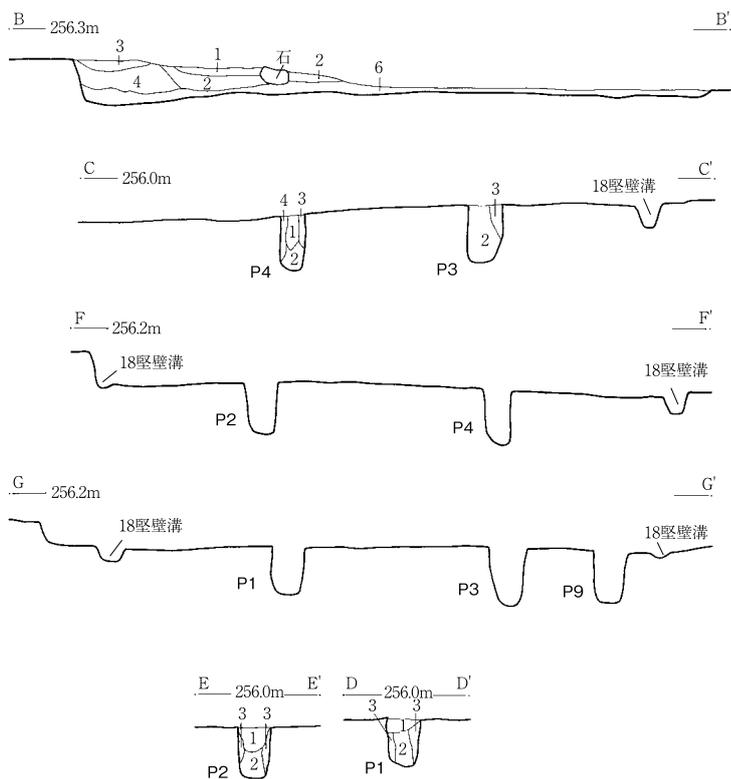
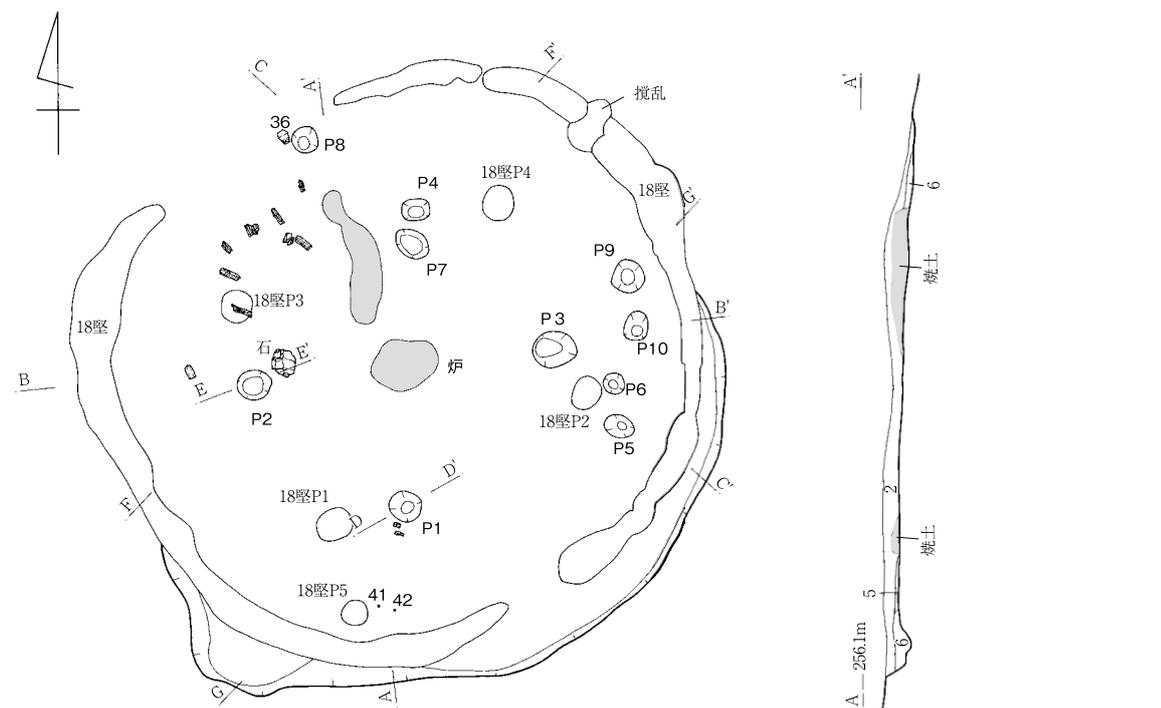


13号竪穴住居

- |                           |                                   |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 1. 褐色土 (ローム粒多量含む)         | 10. 褐色土 (しまり良い、炭化物含む)             |
| 2. 暗褐色土 (焼土粒・炭化粒少量含む)     | 11. 淡褐色土 (しまり良い、粘質)               |
| 3. 褐色土 (ø1よりも明るい)         | 12. 暗褐色土 (ø4よりも暗い、炭化物・焼土粒含む)      |
| 4. 暗褐色土 (炭化粒少量含む)         | 13. 暗褐色土 (ø12よりもやや明るい、炭化物・焼土粒含む)  |
| 5. 暗褐色土 (ø4よりも明るい)        | 14. 黄褐色土 (ロームブロック)                |
| 6. 暗褐色土 (ø5よりも明るい、軟質)     | 15. 暗褐色土 (沼沢パミス少量含む)              |
| 7. 暗褐色土 (ø6よりも明るい、ローム粒含む) | 16. 暗茶褐色土 (しまり弱い、沼沢パミス少量含む)       |
| 8. 暗褐色土                   | 17. 暗褐色土 (ø15よりも暗い、炭化物・沼沢パミス少量含む) |
| 9. 暗褐色土 (ø6よりも明るい、ローム粒含む) | 18. 褐色土 (ローム粒少量含む)                |

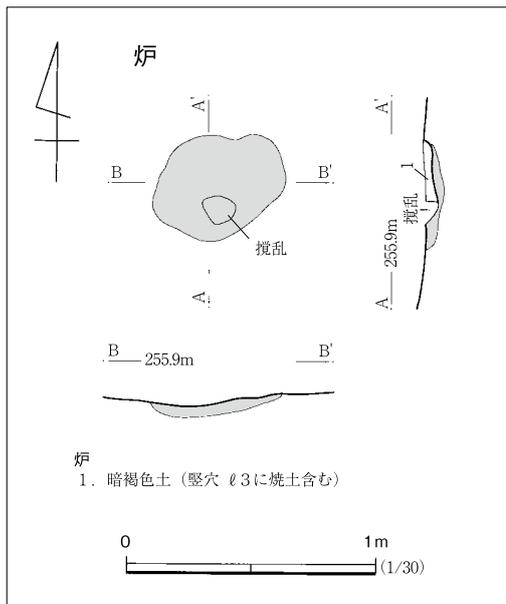


第5図 13号竪穴住居



14号壁穴住居

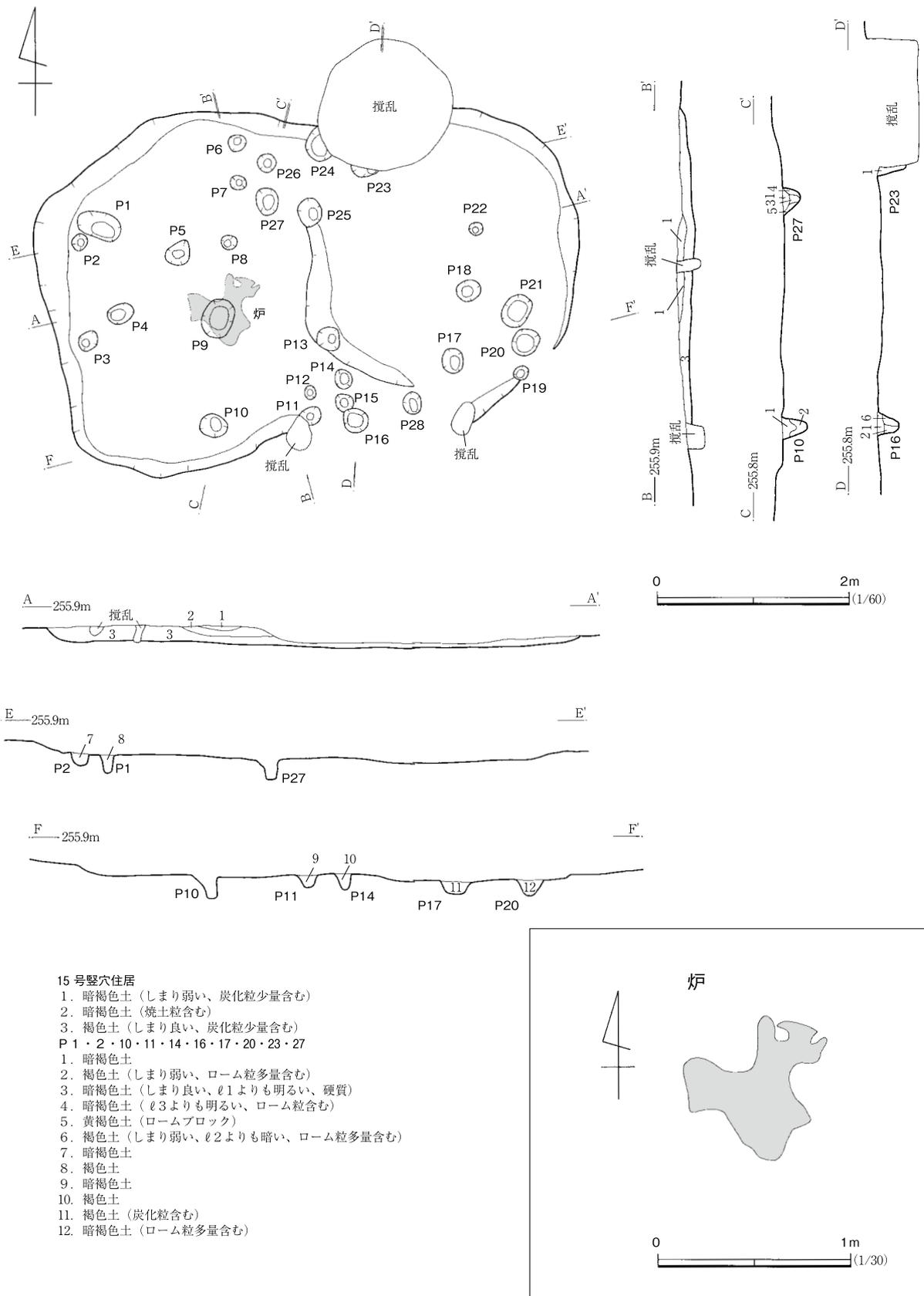
1. 暗褐色土 (しまりあり、炭化粒少量含む)
  2. 暗褐色土 (しまり弱い、ローム粒・炭化粒少量含む)
  3. 褐色土 (ローム粒少量含む)
  4. 褐色土 (ローム粒・焼土粒・炭化粒少量含む)
  5. 暗褐色土 (ローム粒少量含む)
  6. 暗褐色土 (焼土粒・炭化粒少量含む)
- P1~4
1. 暗褐色土 (炭化粒含む)
  2. 暗褐色土 (しまり弱い、色調やや明るい)
  3. 褐色土 (しまり弱い、ローム粒多量含む)
  4. 黄褐色土



炉

1. 暗褐色土 (壁穴 3に焼土含む)

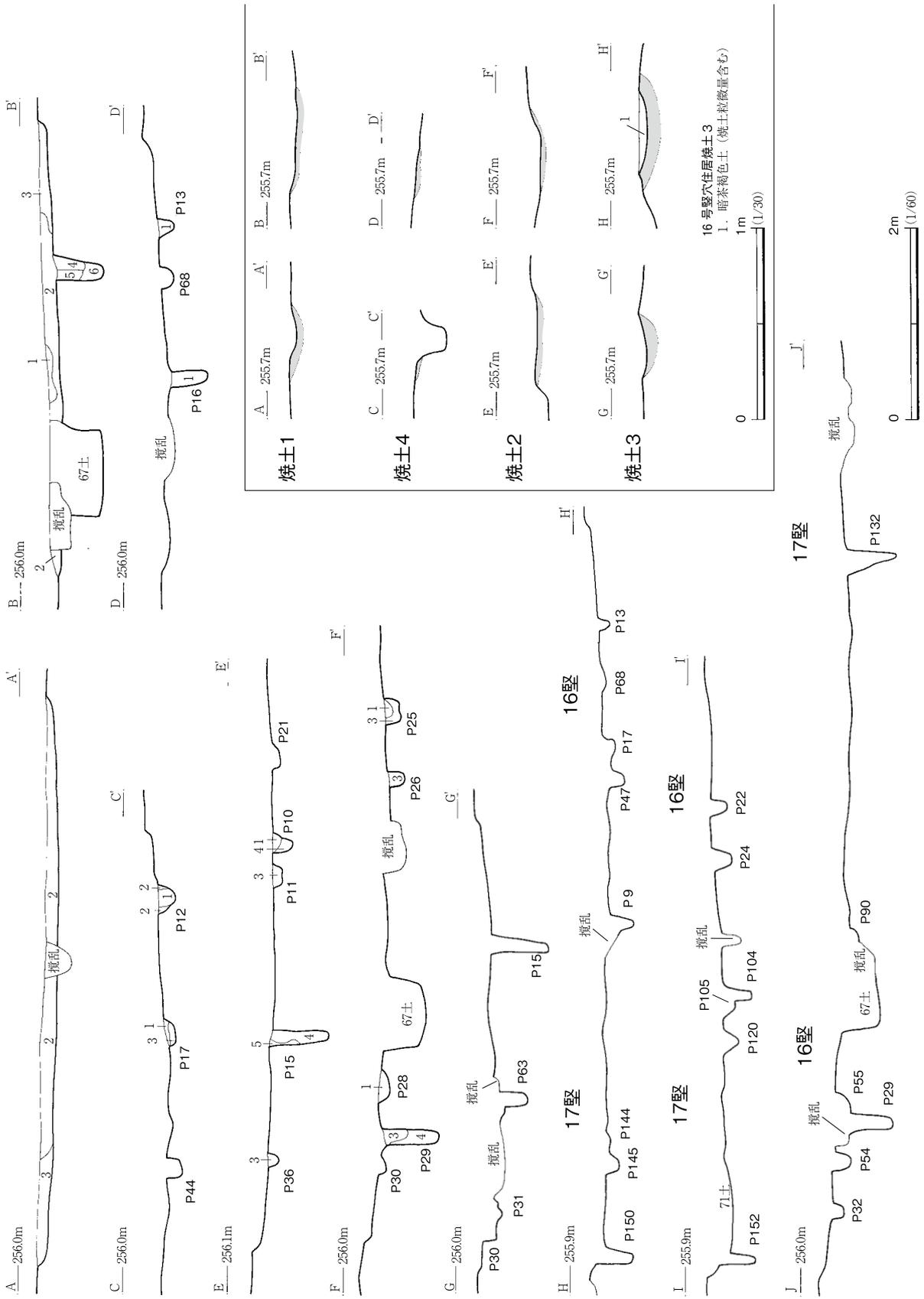
第6図 14号壁穴住居



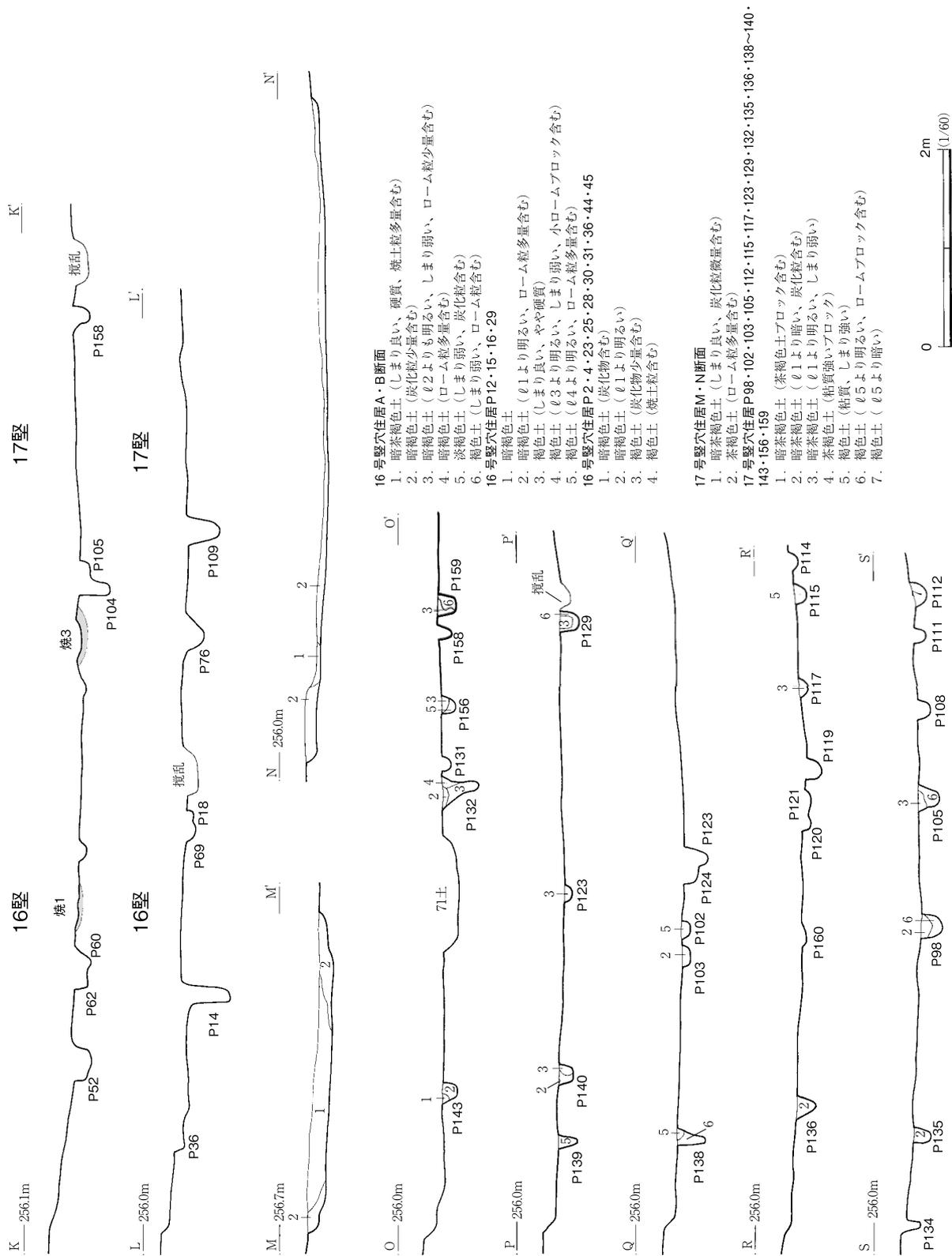
第7図 15号堅穴住居



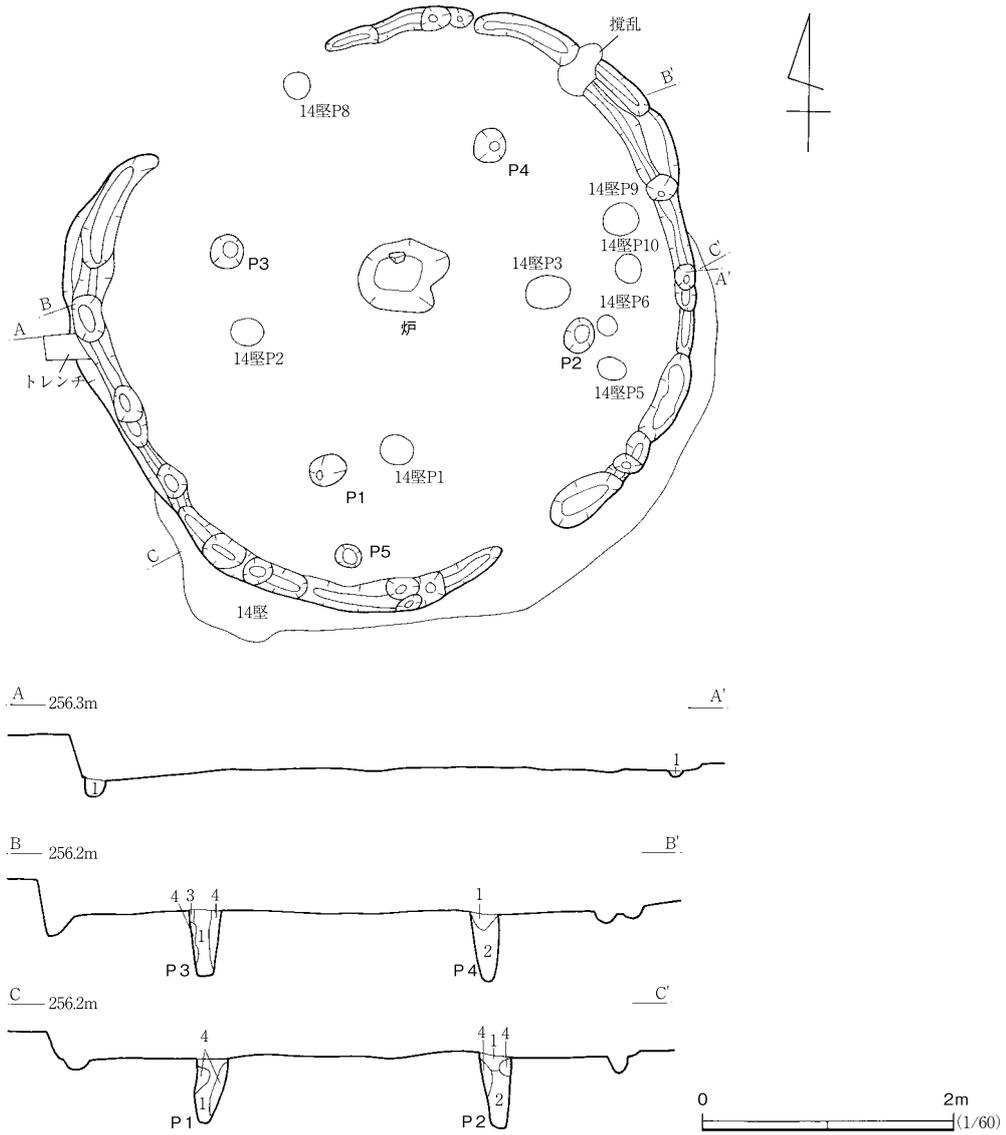
第8图 16·17号堅穴住居平面



第9图 16·17号竖穴住居断面



第10図 16・17号竪穴住居断面(2)

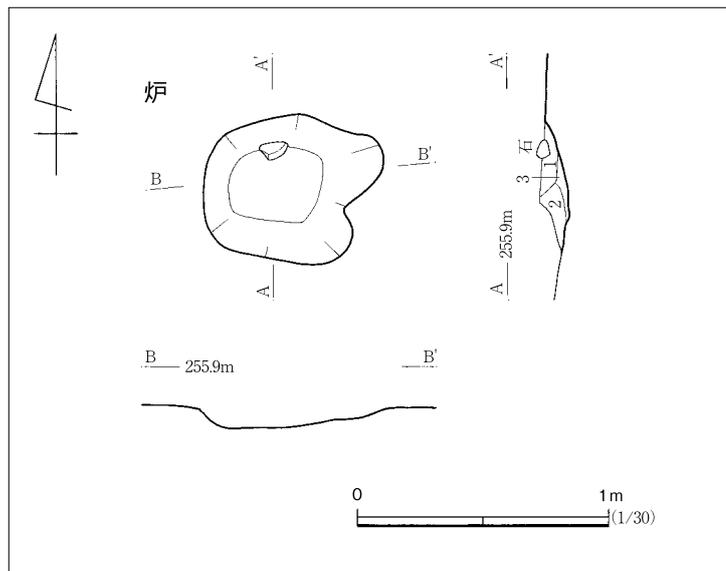


18号竪穴住居

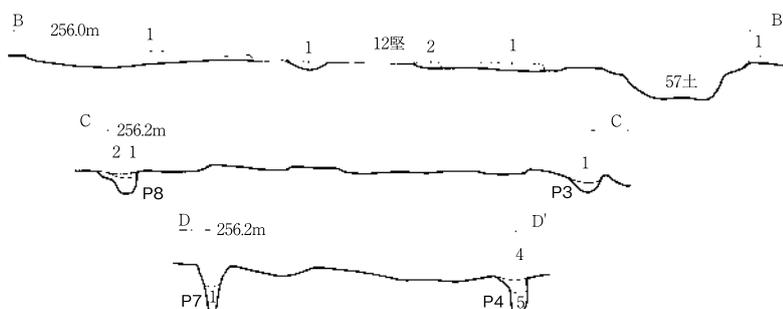
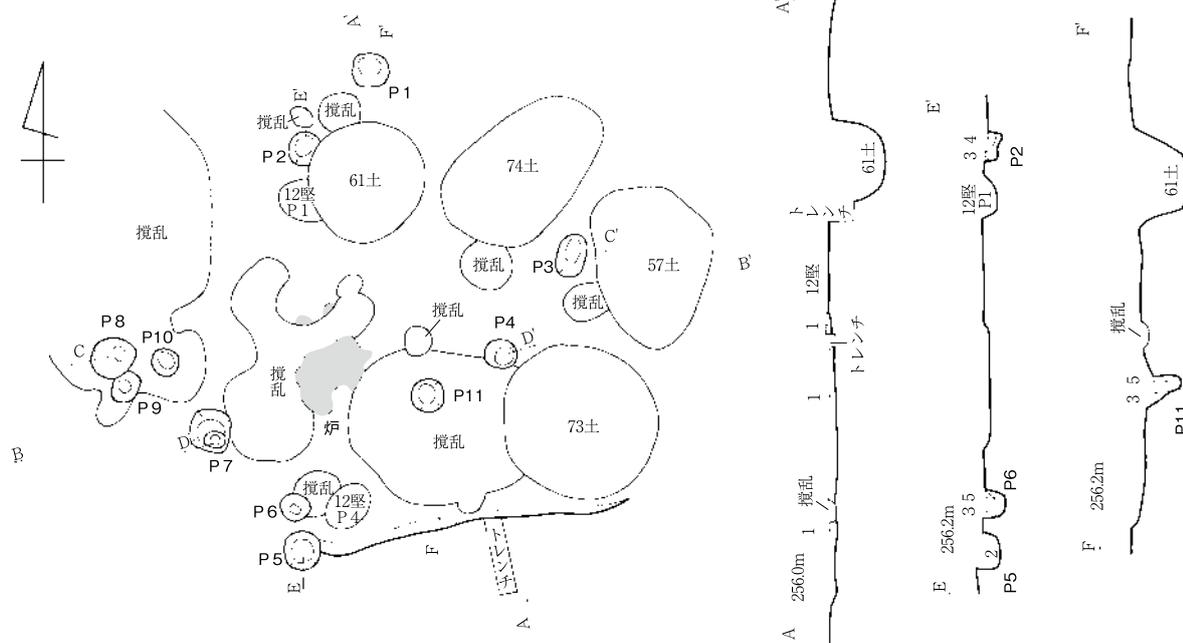
- 1. 褐色土 (しまり弱い)
- P1~4
  - 1. 暗褐色土 (炭化粒微量含む)
  - 2. 茶褐色土 (しまり弱い、ローム粒含む)
  - 3. 黄褐色土
  - 4. 褐色土 (しまり弱い、ローム粒多量含む)

炉

- 1. 褐色土
- 2. 褐色土
- 3. 褐色土 (ロームブロック多量含む)



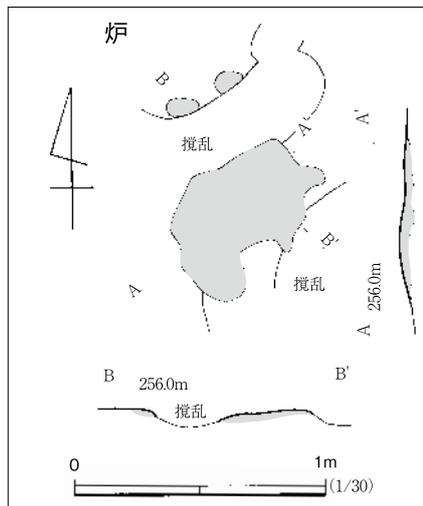
第11図 18号竪穴住居



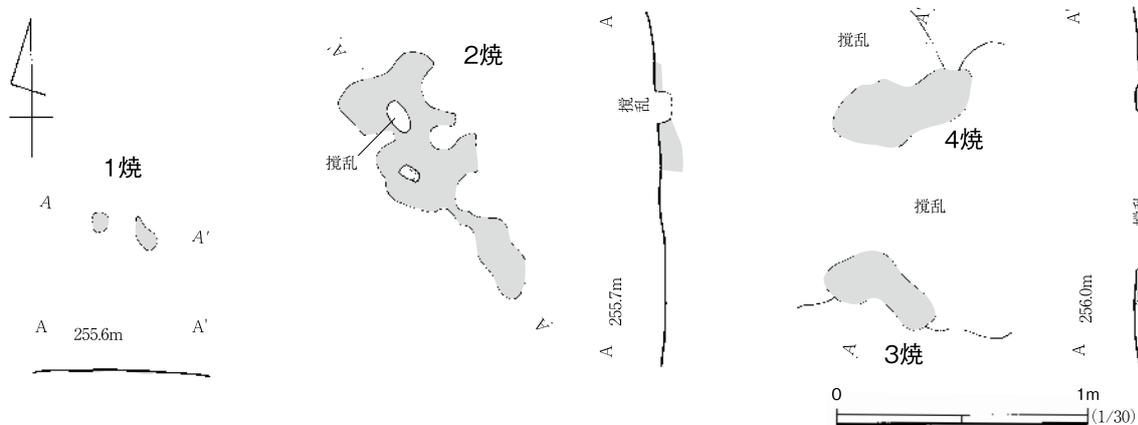
19号竪穴住居

1. 明褐色土 (しまり良い、硬質、炭化物微量含む)
  2. 明褐色土 (層1より暗い、しまり良い、硬質)
- P2~8・11
1. 暗褐色土 (炭化粒・沼沢パミス微量含む)
  2. 褐色土 (炭化粒微量含む)
  3. 暗褐色土 (層1より明るい、ローム粒含む)
  4. 褐色土 (層2より暗い、炭化粒微量含む)
  5. 褐色土 (層2より明るい、しまり弱い)

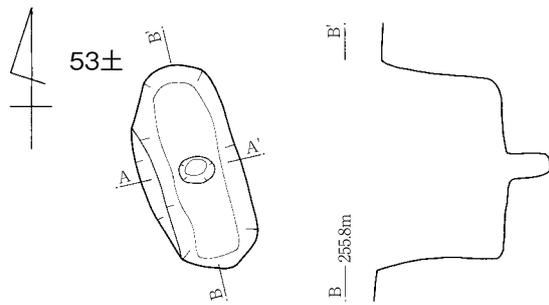
0 2m (1/60)



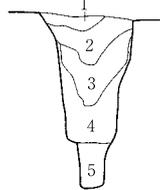
第12図 19号竪穴住居



第13図 1~4号焼土遺構

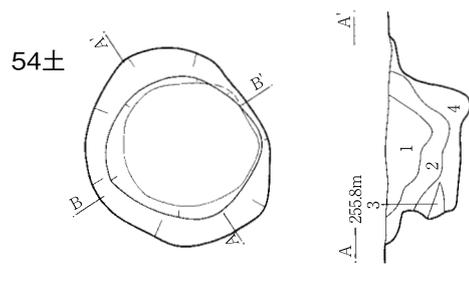


A 255.8m A'



53号土坑

1. 暗茶褐色土
2. 暗褐色土 (沼沢バミス少量含む)
3. 暗褐色土 (層2より明るい、沼沢バミス含む)
4. 黄褐色土
5. 黄褐色土 (しまりなし)

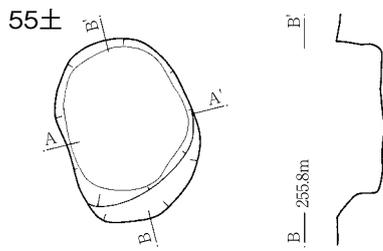


B 255.8m B'

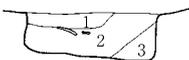


54号土坑

1. 暗褐色土 (やや粘質、しまりよい)
2. 褐色土 (ローム粒含む、しまりなし)
3. 黄褐色土 (ロームブロック多量含む、しまりよい)
4. 暗褐色土 (ローム粒少量含む、しまりなし)

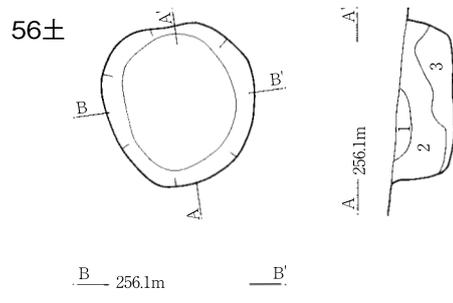


A 255.8m A'



55号土坑

1. 褐色土 (やや粘質、しまりよい)
2. 暗褐色土 (しまり弱い)
3. 褐色土 (ローム粒多量含む)

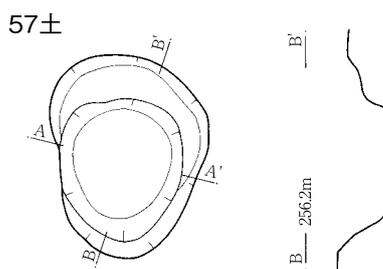


B 256.1m B'



56号土坑

1. 黒色土 (沼沢バミス含む)
2. 暗褐色土 (しまり弱い、ローム粒多量含む)
3. 褐色土 (しまり弱い、粘質、ローム粒多量含む)

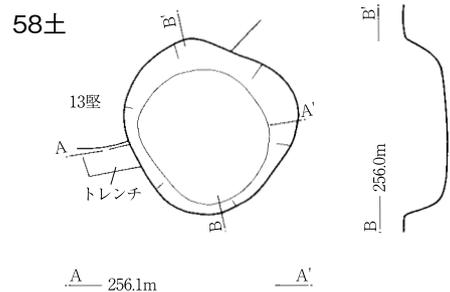


A 256.2m A'

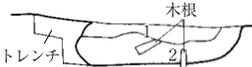


57号土坑

1. 褐色土 (沼沢バミス含む)
2. 暗褐色土 (沼沢バミス含む)
3. 明褐色土 (ローム粒多量含む)



A 256.1m A'

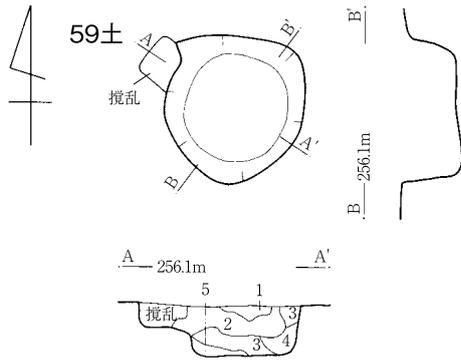


58号土坑

1. 暗褐色土 (沼沢バミス少量含む)
2. 褐色土 (炭化物少量、ローム粒多量含む)

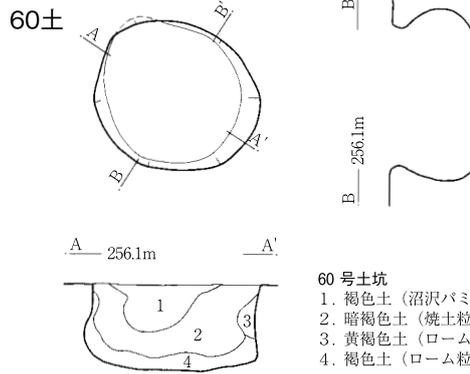


第14図 53~58号土坑



59号土坑

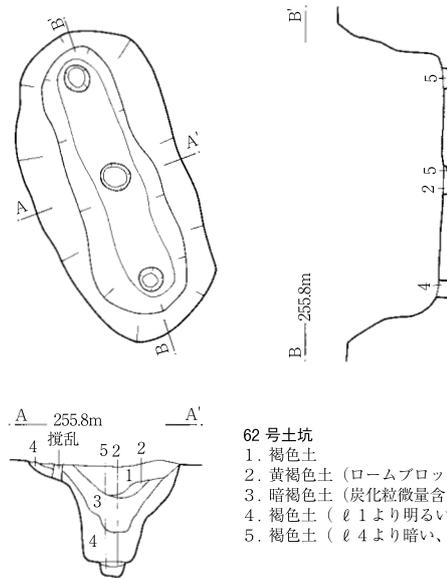
1. 暗褐色土 (沼沢バミス少量含む)
2. 褐色土 (沼沢バミス微量含む)
3. 暗褐色土 (ℓ 1より明るい、沼沢バミス少量含む)
4. 暗褐色土 (ℓ 1より暗い、沼沢バミス少量含む)
5. 褐色土 (ℓ 2より明るい、ローム粒多量含む)



60号土坑

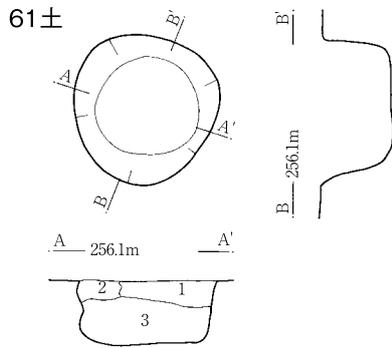
1. 褐色土 (沼沢バミス含む)
2. 暗褐色土 (焼土粒微量含む)
3. 黄褐色土 (ロームブロック、崩落土)
4. 褐色土 (ローム粒多量含む)

62号土坑



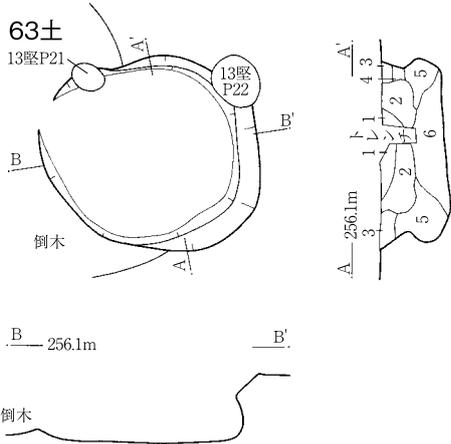
62号土坑

1. 褐色土
2. 黄褐色土 (ロームブロック)
3. 暗褐色土 (炭化粒微量含む)
4. 褐色土 (ℓ 1より明るい、ローム粒多量含む)
5. 褐色土 (ℓ 4より暗い、炭化粒微量含む)



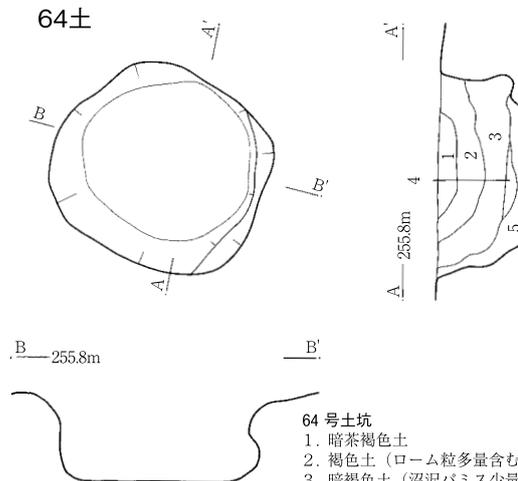
61号土坑

1. 暗褐色土 (沼沢バミス含む)
2. 暗褐色土 (ℓ 1より明るい)
3. 褐色土 (しまり弱い、ロームブロック多量含む)



63号土坑

1. 褐色土 (沼沢バミス含む)
2. 暗褐色土 (沼沢バミス含む)
3. 褐色土
4. 黄褐色土 (ロームブロック、崩落土)
5. 暗褐色土 (しまり弱い、ロームブロック含む)
6. 褐色土 (しまり弱い、ロームブロック含む)

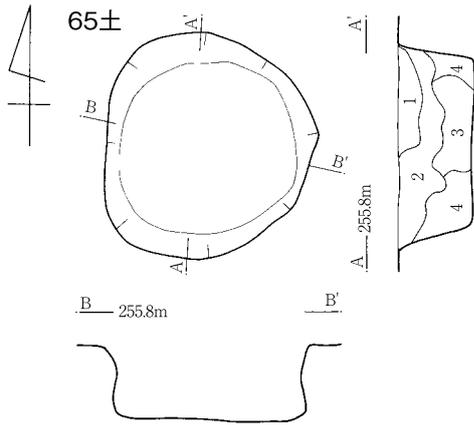


64号土坑

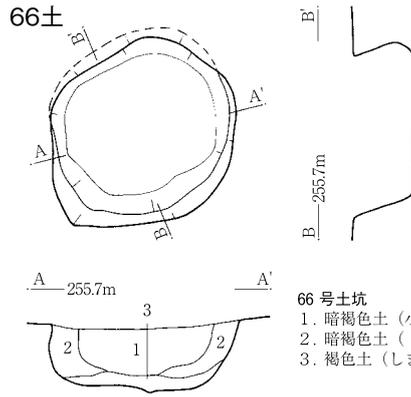
1. 暗茶褐色土
2. 褐色土 (ローム粒多量含む)
3. 暗褐色土 (沼沢バミス少量含む)
4. 黄色土 (ロームブロック)
5. 暗褐色土 (ℓ 3より明るい、ローム粒含む)



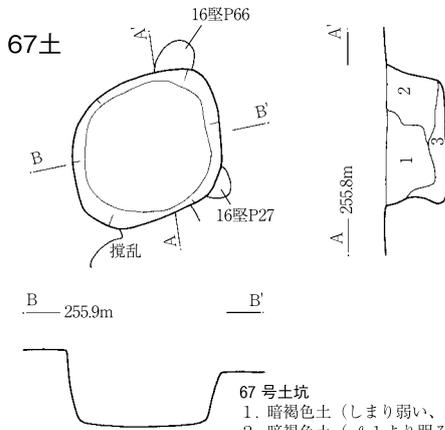
第15図 59~64号土坑



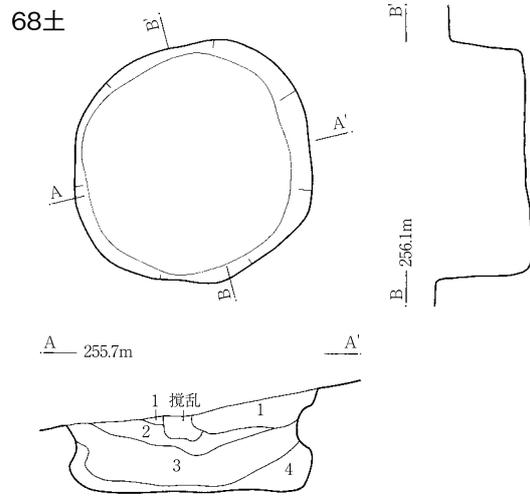
- 65号土坑
1. 褐色土 (ローム粒含む)
  2. 褐色土 (沼沢バミス・炭化粒含む)
  3. 褐色土 (ℓ 1より暗い、ℓ 2より明るい、しまりよい)
  4. 暗褐色土 (しまり弱い、ローム粒含む)



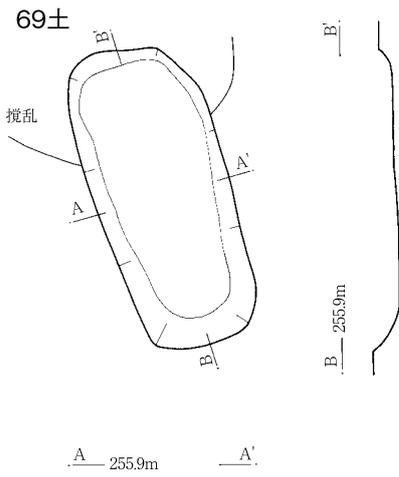
- 66号土坑
1. 暗褐色土 (小石・ロームブロック少量含む)
  2. 暗褐色土 (ℓ 1より明るい、炭化粒微量含む)
  3. 褐色土 (しまりよい、小石・ローム粒含む)



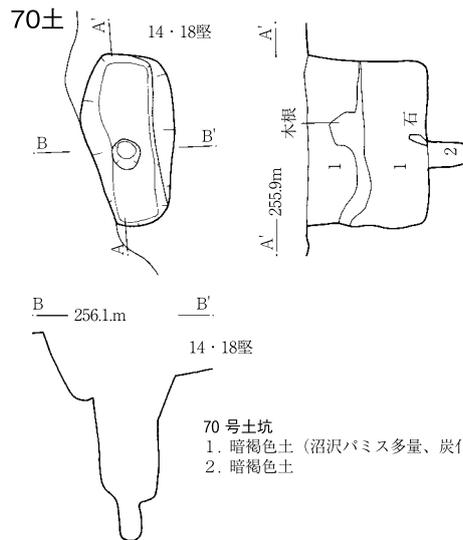
- 67号土坑
1. 暗褐色土 (しまり弱い、炭化物少量含む)
  2. 暗褐色土 (ℓ 1より明るい、やや粘質)
  3. 褐色土 (粘質、ロームブロック含む)



- 68号土坑
1. 暗褐色土 (炭化粒・ローム粒少量含む)
  2. 茶褐色土 (しまり弱い、ローム粒多量含む)
  3. 暗褐色土 (ℓ 1より暗い、しまり弱い、炭化粒微量含む)
  4. 褐色土 (しまり弱い、ローム粒多量含む)



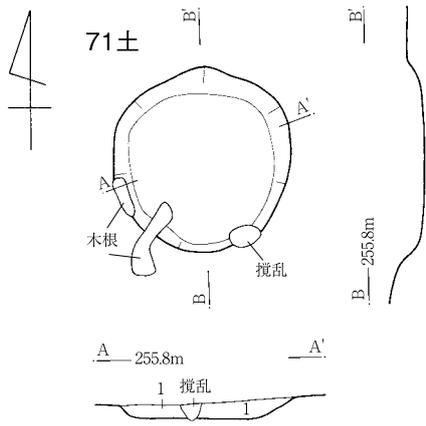
- 69号土坑
1. 暗褐色土 (炭化粒微量含む)
  2. 褐色土 (ローム粒多量含む)



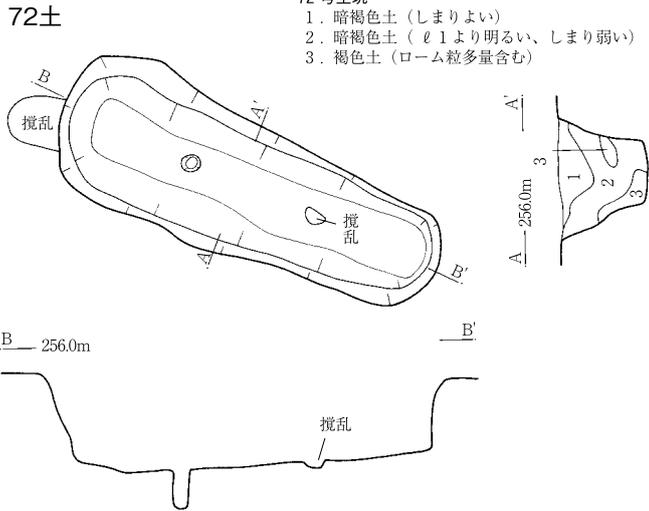
- 70号土坑
1. 暗褐色土 (沼沢バミス多量、炭化粒微量含む)
  2. 暗褐色土



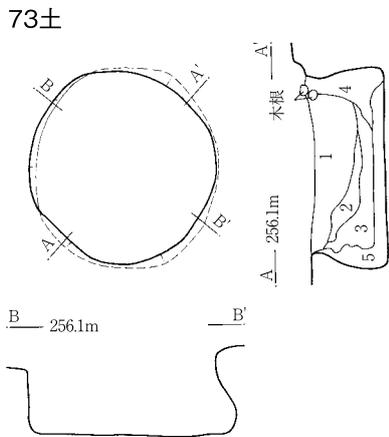
第16図 65~70号土坑



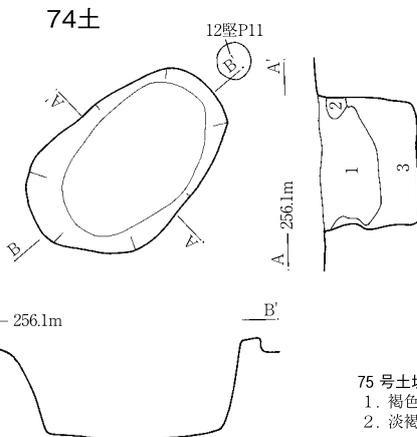
71号土坑  
1. 淡褐色土 (焼土粒少量、炭化粒微量、ローム多量含む)



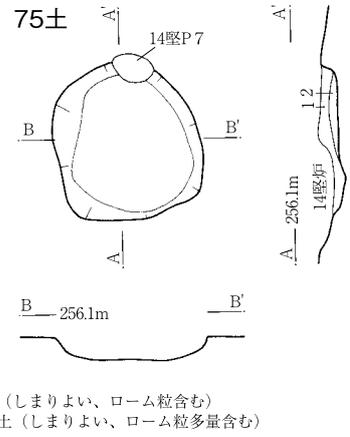
72号土坑  
1. 暗褐色土 (しまりよい)  
2. 暗褐色土 (ℓ1より明るい、しまり弱い)  
3. 褐色土 (ローム粒多量含む)



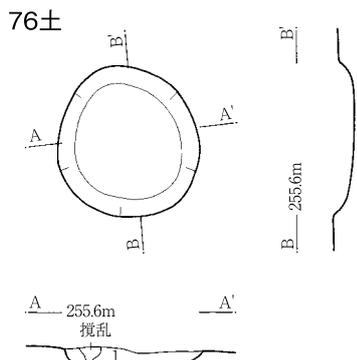
73号土坑  
1. 暗褐色土 (ローム粒・炭化粒微量含む)  
2. 黄褐色土 (しまり弱い、炭化粒含む)  
3. 暗褐色土 (ローム粒・炭化粒少量含む、ℓ1より暗い)  
4. 暗褐色土 (ℓ3とロームブロックの混合)  
5. 淡黄褐色土 (炭化粒少量含む)



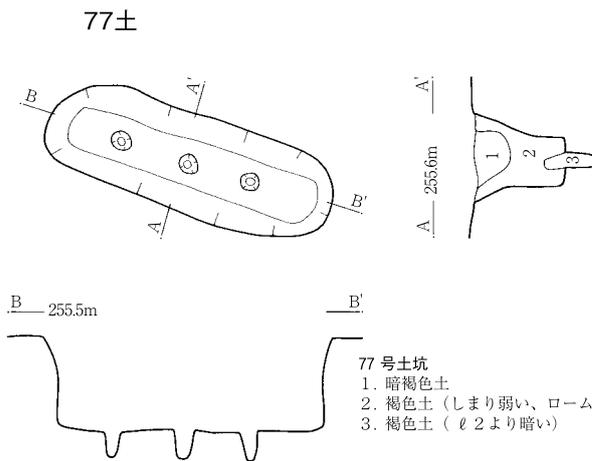
74号土坑  
1. 暗褐色土 (炭化粒・ローム粒微量含む)  
2. 黄色土 (ロームブロック)  
3. 淡黄色土 (小石・炭化粒微量含む)



75号土坑  
1. 褐色土 (しまりよい、ローム粒含む)  
2. 淡褐色土 (しまりよい、ローム粒多量含む)



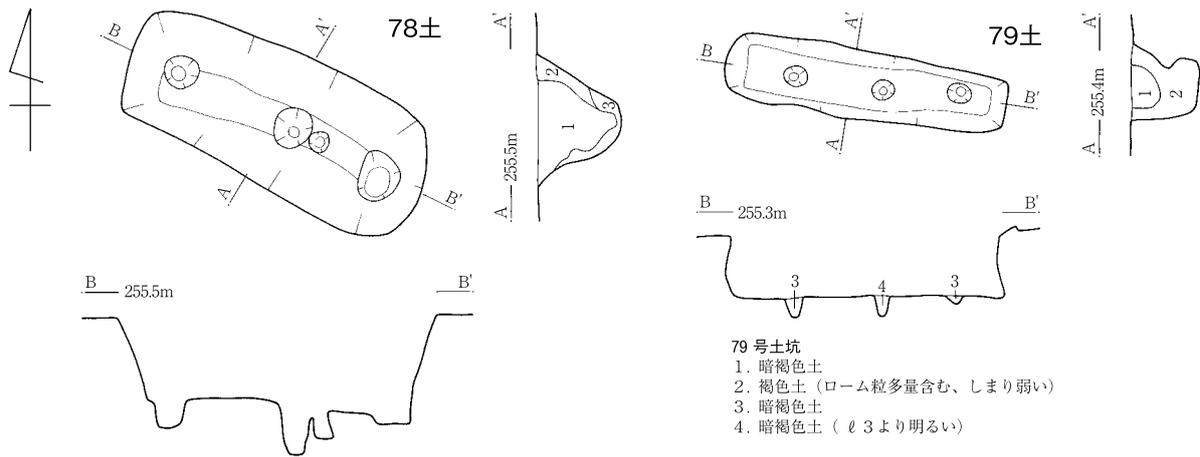
76号土坑  
1. 褐色土 (ローム粒多量含む)



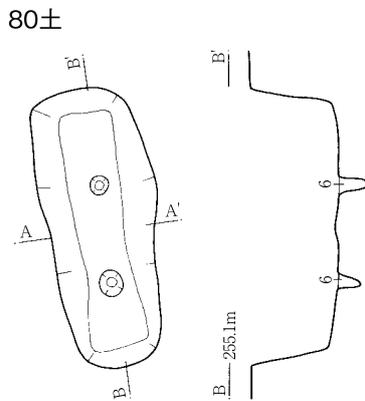
77号土坑  
1. 暗褐色土  
2. 褐色土 (しまり弱い、ローム粒多量含む)  
3. 褐色土 (ℓ2より暗い)



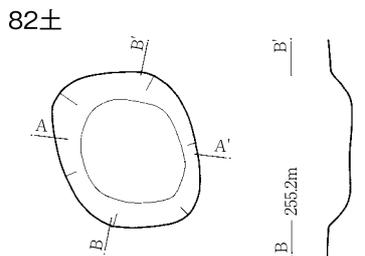
第17図 71~77号土坑



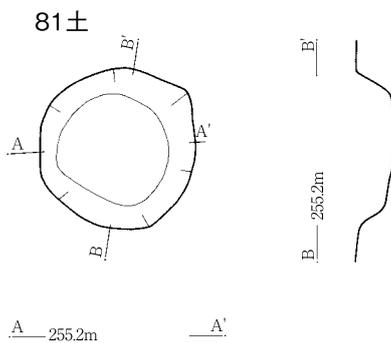
- 78号土坑**  
 1. 暗褐色土  
 2. 褐色土 (しまりよい、ローム粒含む)  
 3. 黄褐色土 (汚れたローム、崩落土)



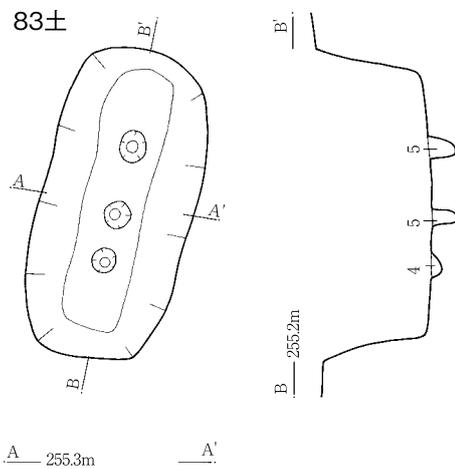
- 80号土坑**  
 1. 褐色土 (沼沢バミス少量含む)  
 2. 暗褐色土  
 3. 淡褐色土 (ロームブロック含む)  
 4. 淡褐色土 (ℓ3より明るい、炭化粒微量含む)  
 5. 黄色土 (ロームブロック)  
 6. 褐色土 (小砂利含む)



- 82号土坑**  
 1. 暗褐色土 (沼沢バミス少量含む)  
 2. 褐色土 (しまりよい、やや硬質、ローム粒多量含む)



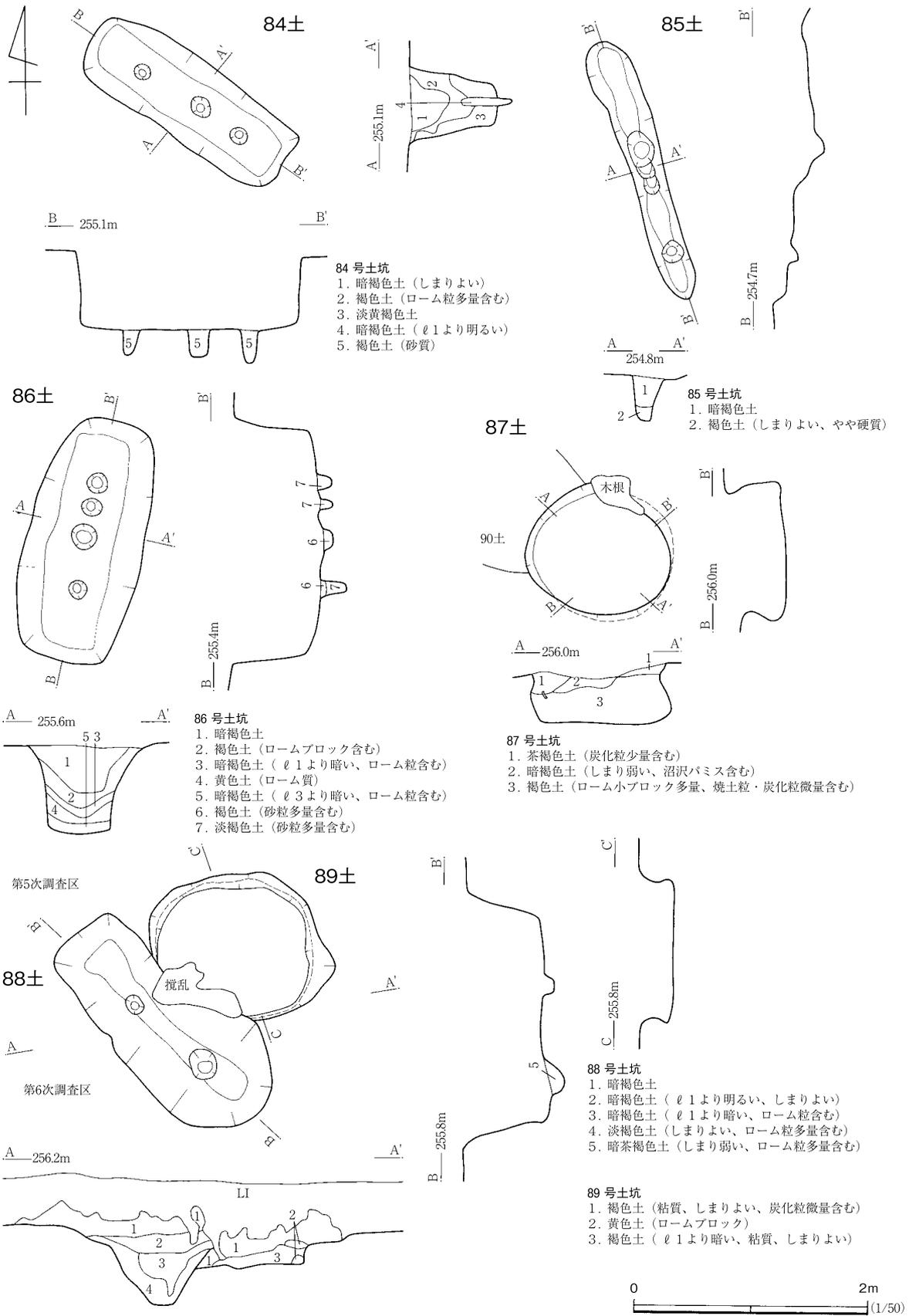
- 81号土坑**  
 1. 暗褐色土 (沼沢バミス少量含む)  
 2. 褐色土 (しまりよい、やや硬質、ローム粒多量含む)



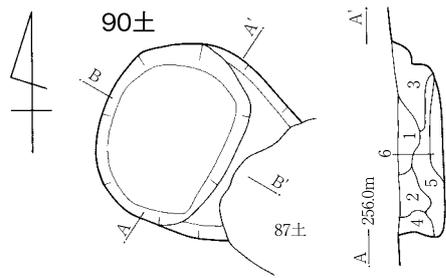
- 83号土坑**  
 1. 暗褐色土  
 2. 黄色土 (ローム質)  
 3. 暗褐色土 (ℓ1より明るい)  
 4. 淡褐色土 (砂質)  
 5. 褐色土 (砂質)



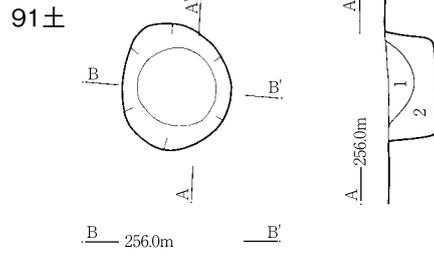
第18図 78~83号土坑



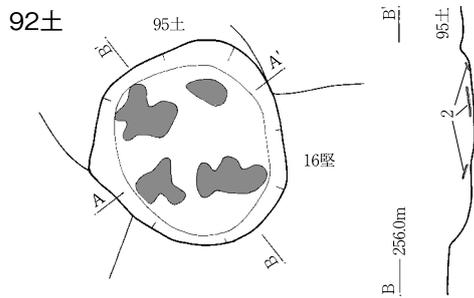
第19図 84~89号土坑



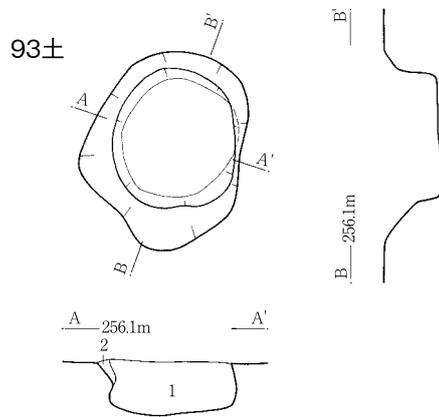
- 90号土坑**
1. 褐色土 (ローム粒多量含む)
  2. 暗褐色土 (ローム粒含む)
  3. 暗褐色土 (ℓ2より暗い、炭化粒含む)
  4. 淡褐色土 (ローム粒多量含む)
  5. 褐色土 (ℓ1より暗い、炭化粒少量含む)
  6. 褐色土 (ℓ5より暗い、炭化粒少量含む)



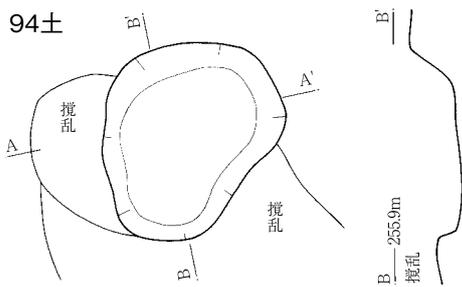
- 91号土坑**
1. 暗褐色土
  2. 暗褐色土 (ℓ1より明るい、ローム粒多量含む)



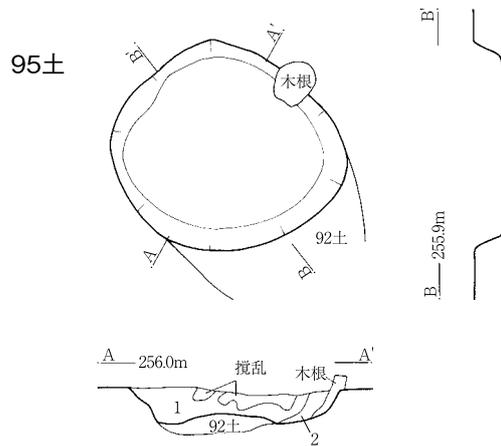
- 92号土坑**
1. 褐色土 (焼土粒・炭化粒含む)
  2. 炭化物



- 93号土坑**
1. 暗褐色土 (炭化粒微量含む)
  2. 暗褐色土 (ℓ1より明るい、ローム粒含む)



- 94号土坑**
1. 褐色土 (ローム粒多量含む)



- 95号土坑**
1. 褐色土
  2. 黄褐色土 (ローム粒多量含む、しまり弱い)



第20図 90~95号土坑

89号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-14グリッドで確認した。南東壁の一部が第6次調査区に含まれるが、ここで併せて報告する。平面は円形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度であり、多くの場所でオーバーハングする。

90号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。平面は円形を基調とするものの不整な形状で、壁の立ち上がりは急角度のところと緩やかなところがある。底面は水平にならず、全体的に南東側へ傾くとともに、北西部がやや窪む。

91号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12・13グリッドで確認した。平面は円形を基調とし、壁の立ち上がりは急角度である。

92号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、F・G-12・13グリッドで確認した。重複する95号土坑により堆積土の大半が失われている。平面は円形を基調とし、壁の立ち上がりは緩やかである。底面に炭化物の顕著な堆積が認められる。

93号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-12グリッドで確認した。平面は円形を基調とするものの、上部はいびつな形状に開く。壁の立ち上がりは下部で急角度である。

94号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、E-13グリッドで確認した。平面は不整な形状で、壁の立ち上がりは急角度のところと緩やかなところがある。

95号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、F・G-12・13グリッドで確認した。平面は円形を基調とするもののいびつな形状で、壁の立ち上がりは緩やかである。底面は平坦にならない。

### 第3節 遺物

第5次調査で出土したのは、縄文土器・弥生土器・石器である。このうち縄文土器は、早期後半・前期前半・前期後半・晩期中葉に大別できる。以下、まずは遺構出土の遺物を遺構ごとに報告し、続いて遺構外から出土した遺物を種類別・時期別に報告する。なお、出土遺物の無かった遺構や、特徴的な遺物の出土しなかった遺構については立項していない。

12号竪穴住居 縄文土器19点(1~19)、石器1点(20)を図示した。縄文土器はすべて胎土に繊維を含む。7は炉面に密着して出土した。1~8は外面にランダムな太い撚糸が施される。不明瞭ながらも、内面に条痕の認められる破片を含む。8は口縁下に高い隆帯がめぐり、その上部に竹管による刺突がある。9は内外面に撚糸が施される。10は撚糸の地文と半裁竹管による幾何学的な文様があり、内面は条痕が顕著である。11は8と似た形状だが、外面に地文の撚糸は認められず、沈線による矢羽根状の文様が描かれる。12は横位に細い撚糸がみられる。13~15は半裁竹管による文様、16は縦位の縄圧痕が施される。17~19は地文に縄文が施され、17にはコンパス文、19には綾織文がみられる。20のスクレイパーは、長側縁に刃がつけられている。

13号竪穴住居 縄文土器6点(22~27)、石器1点(21)を図示した。21の凹石は、床面に密着して出土した。22~25は浅鉢で、このうち23・24・25は同一個体の可能性がある。いずれも肩部にメガネ状付帯文がめぐり、体部に磨消縄文による文様帯がある。26は細い撚糸が施される。27は沈線間に短沈線を充填し、三角陰刻文を交互に配置する。

**14号竪穴住居** 縄文土器12点(28~39)、弥生土器1点(40)、土製耳飾り2点(41・42)、石器4点(43~46)を図示した。41の耳飾りと46の敲石は床面に密着して出土した。28は胎土に少量の繊維を含み、浅い沈線による施文と太さの異なる竹管による大小の刺突がみられる。29は頸部に無文帯を形成し、口縁端部には細かな凹凸がある。30の地文は撚糸とみられるが、節が大きく縄文のようにもみえる。31・32は折り返された口縁部に横位の撚糸、胴部には縦位の撚糸が施される。33~36は縦位の撚糸、37は網目状の撚糸である。36は、輪積の境で剥離した部分を若干調整して口縁とし、再利用しているようである。38・39は平行する沈線による文様があり、38はそれが工字文を形成し、地文として細い撚糸がみられる。40は細い沈線が平行に施される。41・42の耳飾りには赤彩の痕跡が認められる。43・44の石鏃はいずれも凸基有茎の形状である。45・46は、棒状の石材の先端を敲打に利用した敲石である。長側面の一部に磨痕が認められる45は、磨石としても利用しているようである。

**15号竪穴住居** 縄文土器8点(47~54)を図示した。すべての破片が胎土に繊維を含む。不明瞭なものもあるが、大半の破片で内面に条痕が認められる。47は、口縁部外縁に刻みがみられ、横方向の沈線と竹管による刺突が施される。48は、X字状の文様が描かれ、その交点に竹管による刺突を加える。これと同様の文様がみられる49は、竹管の先端を斜め方向に連続的に刺突し、口縁部内縁に刻みを施す。50は刻みの施された横位の隆線と、その上位に連続する刺突がある。51には補修孔があり、外面に顕著な条痕がみられる。52~54は大小の竹管による刺突で文様を描く。53・54には凸形の突起があり、その中心から、断面が三角形を志向する隆線・稜線がまっすぐ下へのびる。

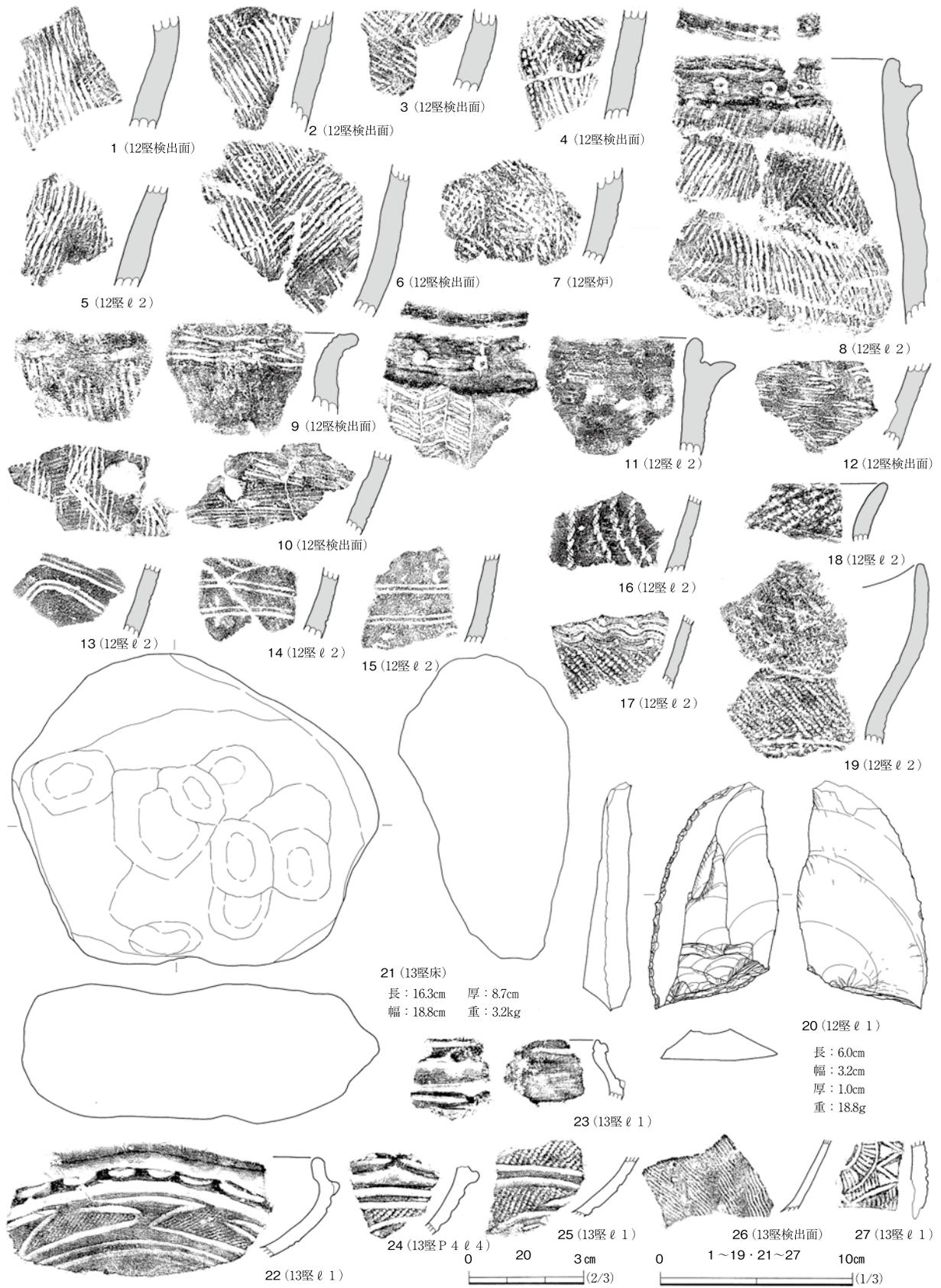
**16号竪穴住居** 縄文土器11点(55~65)を図示した。55は胎土に少量の繊維を含み、口縁に突起が付くようである。56も胎土に繊維を含み、複節とみられる縄文が施される。57は、横方向に太い沈線がめぐり、58は、外反する口縁の直下に、半裁竹管による深い刺突が横方向に連続する。59は、太い半裁竹管による変形爪形文が横方向に続き、その下位に細い沈線による菱形状の文様が描かれる。60の文様は59の下半部に似る。61・62は、細い粘土紐の貼り付けによる連続山形文が横方向に続く。地文は細い撚糸であり、63・64はその地文のみの破片であろう。65は地文の縄文のみである。

**17号竪穴住居** 縄文土器2点(66・67)を図示した。いずれも胎土に少量の繊維を含む。66は波状口縁とみられ、口縁の内外端部に刻みがあり、四角形を志向した文様と連続する刺突が施される。67は、櫛歯状工具による沈線と連続する刺突がみられる。

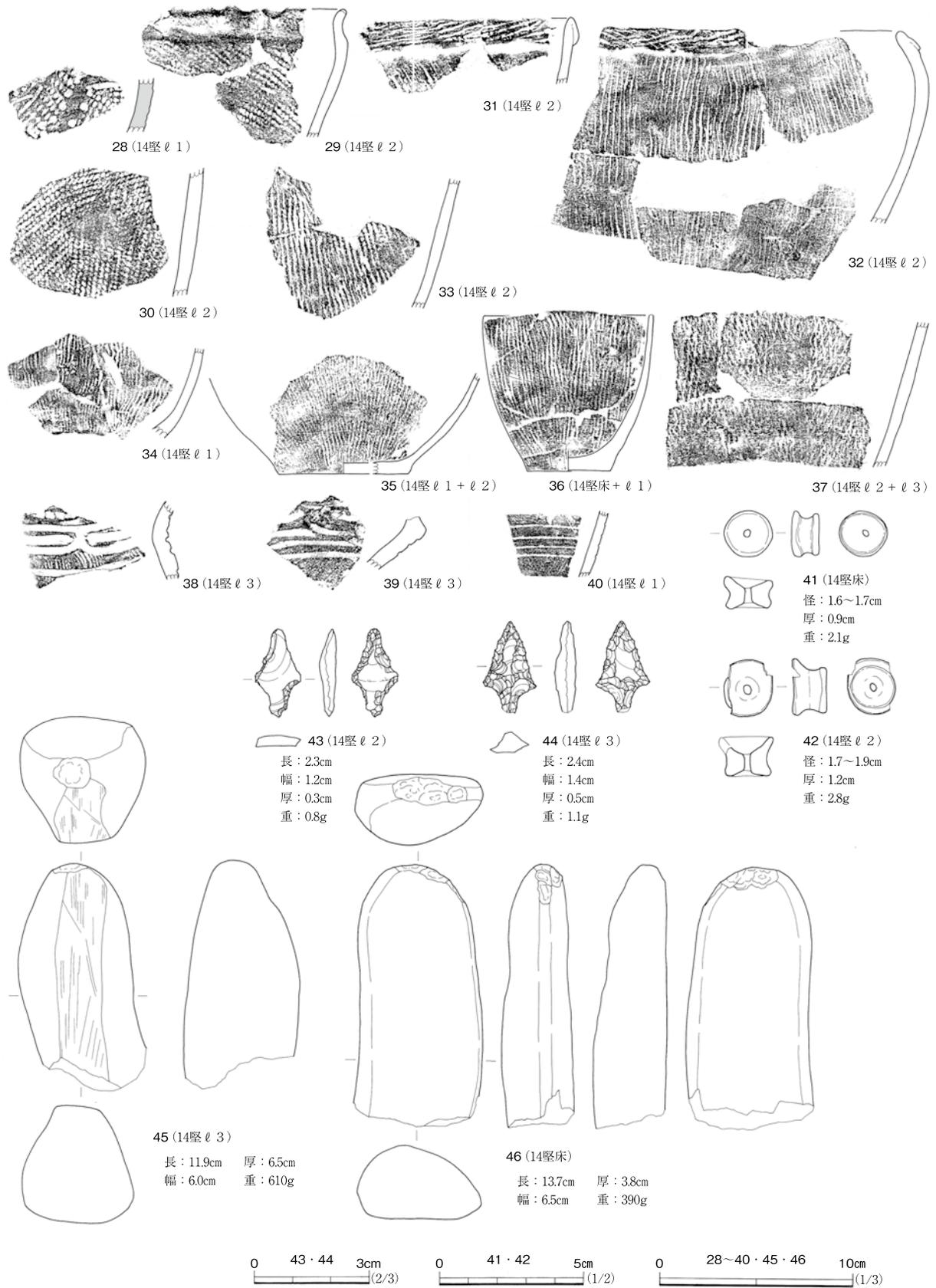
**19号竪穴住居** 縄文土器6点(68~73)を図示した。いずれも胎土に繊維を含むが、73は含有量が少ない。68~72は外面に太い撚糸がランダムに施される。73は、半裁竹管の押し引き沈線がみられる。

**焼土遺構** 縄文土器2点(74・75)を図示した。74は3・4号焼土遺構、75は4号焼土遺構の出土である。74・75ともに胎土に繊維を含む。74は大小の竹管による刺突で文様を描き、75は外面に条痕が認められる。

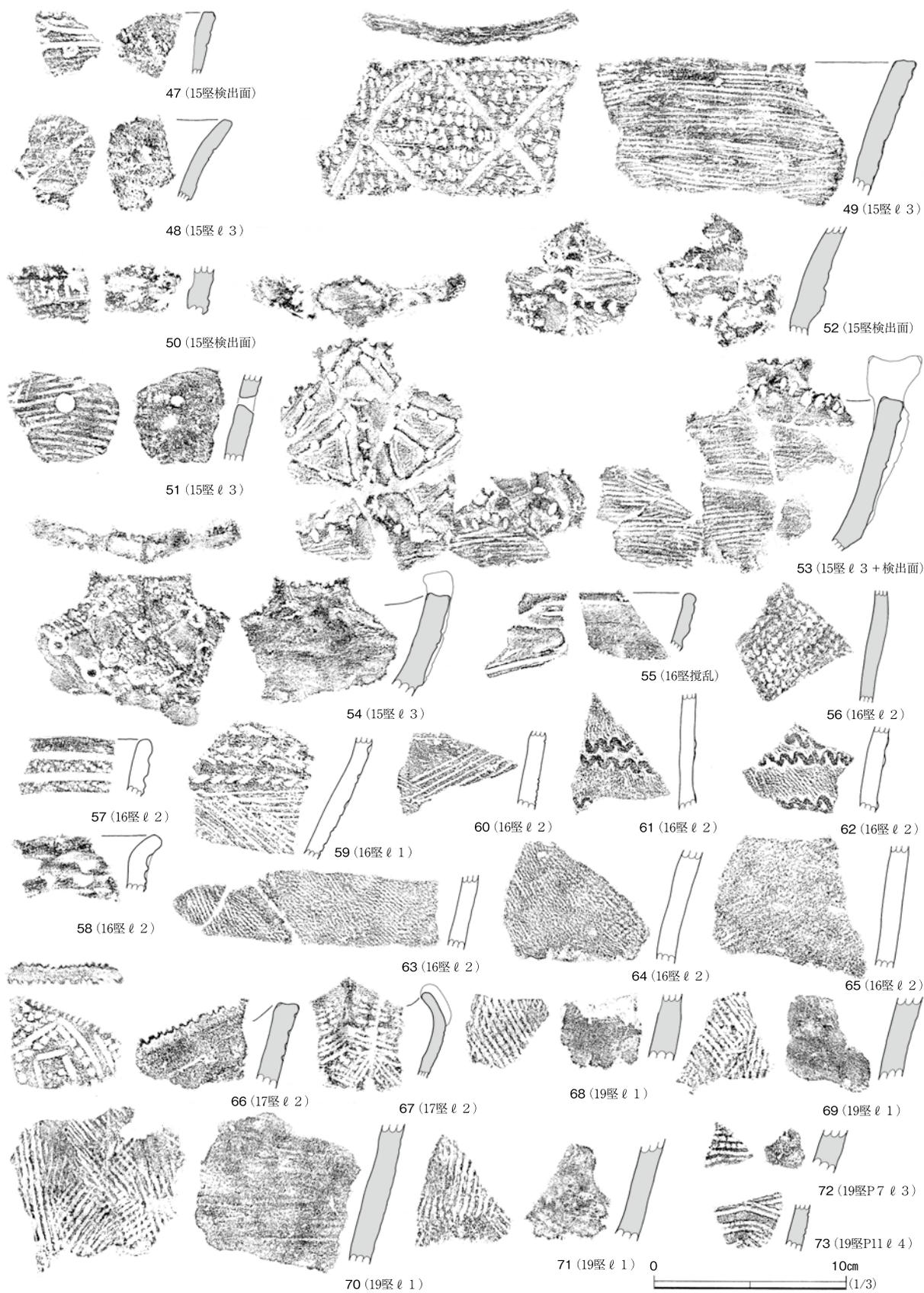
**土坑** 縄文土器27点(76~82・84~89・91~98・100~105)、石器3点(83・90・99)を図示した。76・77は55号土坑の出土である。いずれも胎土に繊維を含む。76は口縁部外縁に刻みが施され、77は内外面に横方向の条痕が認められる。78は57号土坑の出土である。胎土に繊維を含み、外面に縄文が施される。79・80は59号土坑の出土である。79は胎土に繊維を含む。口縁部に小突起が付き、外面は細い竹管による刺突で施文される。80は地文の縄文のみ認められる。81は63号土坑の出土である。胎土に



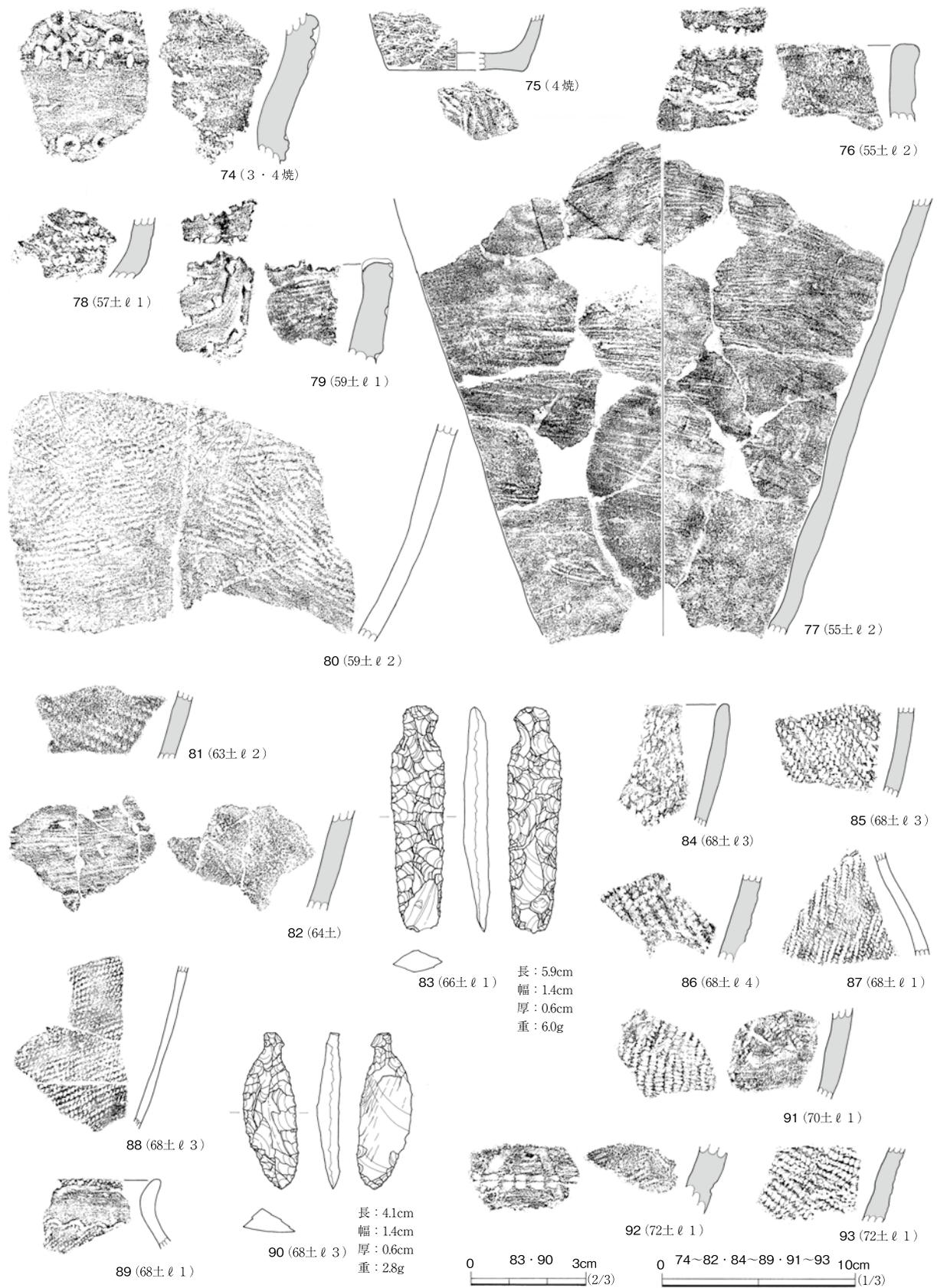
第21図 12・13号竖穴住居出土遺跡物



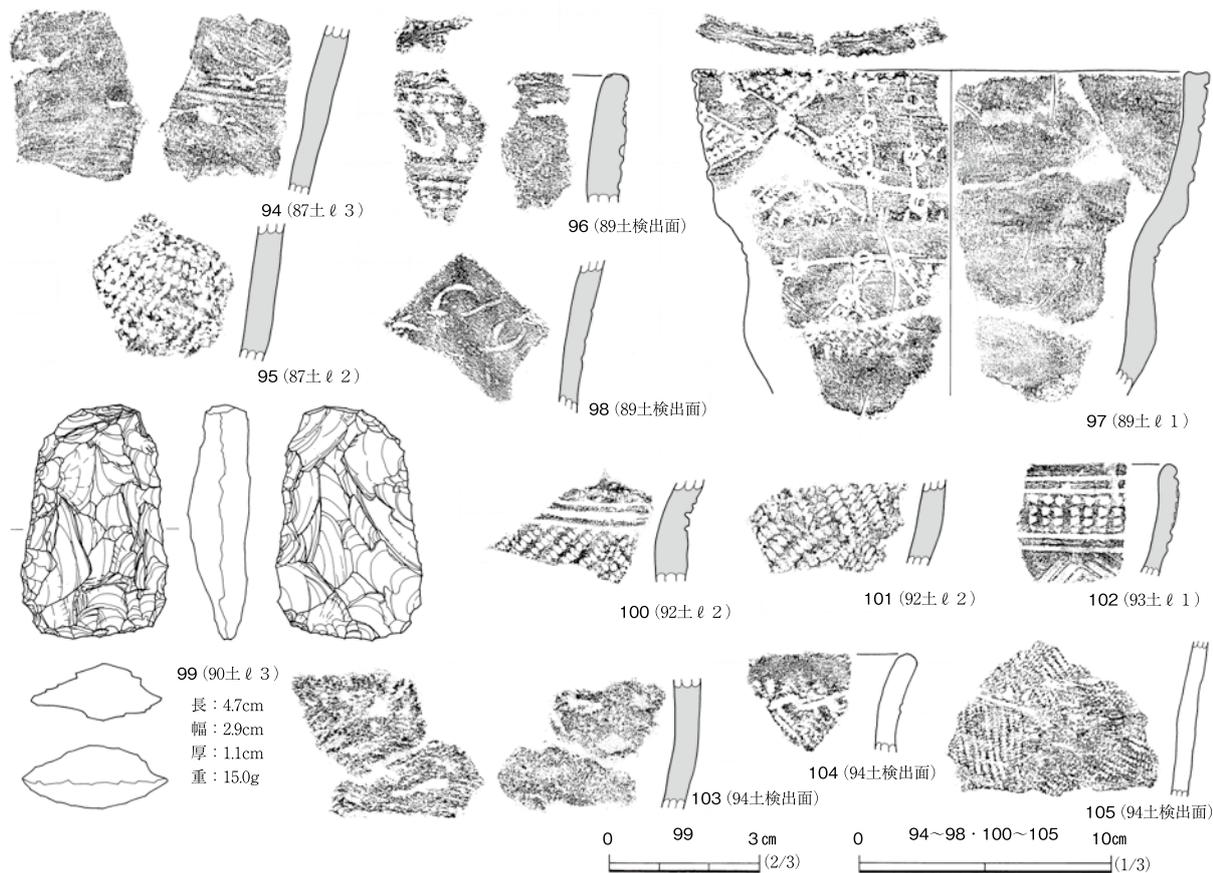
第22図 14号堅穴住居出土遺跡物



第23図 15・16・17・19号竖穴住居出土遺跡物

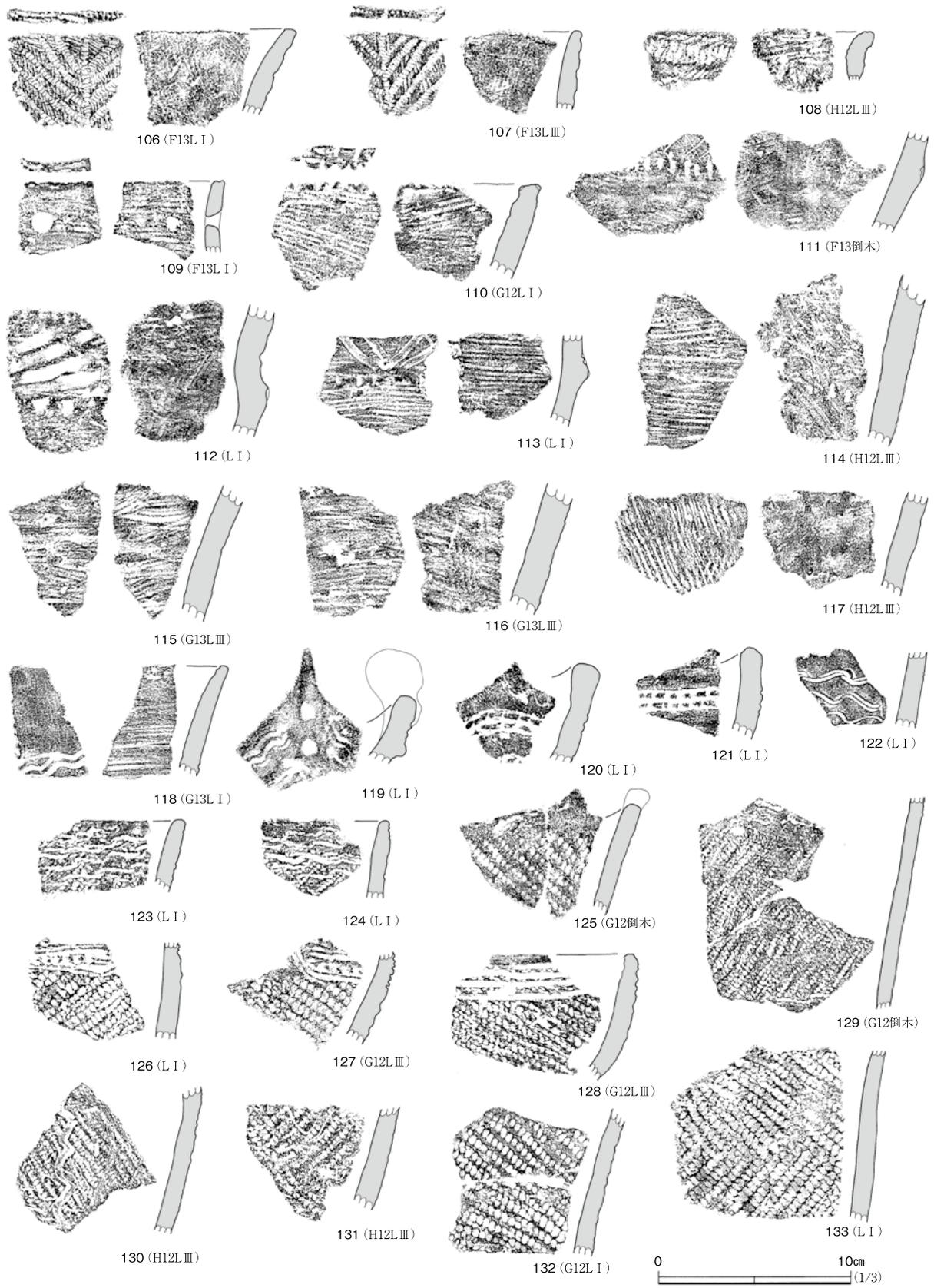


第24図 焼土遺構・土坑出土遺物 (55~72土)

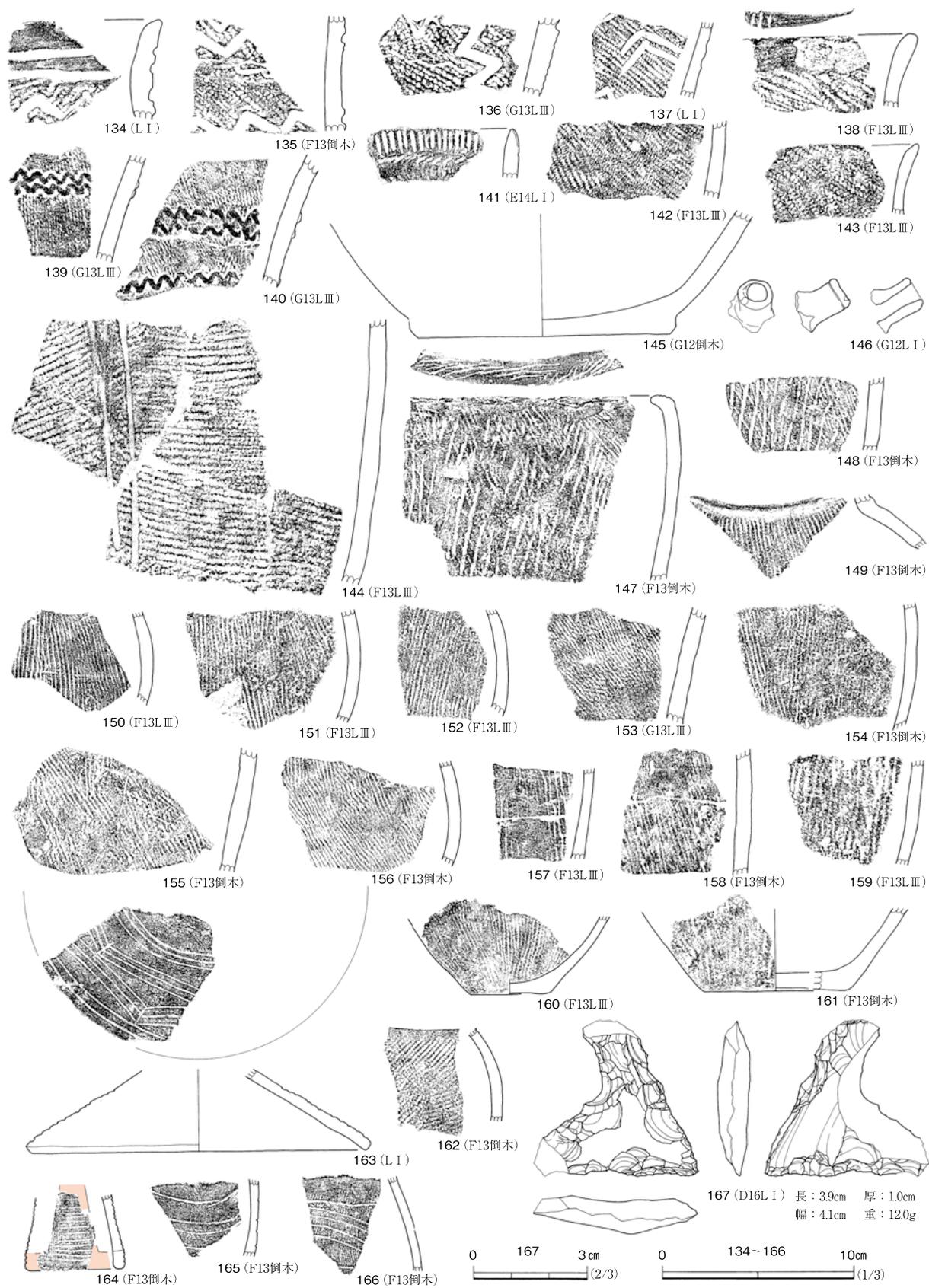


第25図 土坑出土遺物 (87~94土)

繊維を含み、地文の縄文のみ認められる。82は64号土坑の出土である。胎土に繊維を含み、外面の条痕は明瞭だが、内面は不明瞭である。83は66号土坑出土の石匙である。84~90は68号土坑の出土である。84~86は胎土に繊維を含み、84・85は複節縄文のように見える。87・88は地文の縄文のみが認められる。89は口縁端部と胴部に節の細かい縄文が、頸部の下位に綾線文が横方向に施される。90は石匙である。91は70号土坑の出土である。胎土に繊維を含み、内面にも部分的に縄文が認められる。92・93は72号土坑の出土である。いずれも胎土に繊維を含む。72はX字状の文様を描いた後に、細い2本の竹管で横方向の連続する刺突を施す。93は地文の縄文のみ認められる。94・95は87号土坑の出土である。いずれも胎土に繊維を含む。94は内外面に条痕が認められ、95は地文の縄文のみである。96~98は89号土坑の出土である。いずれも胎土に繊維を含む。96は口縁部の内外端部に刻みを施し、外面は細い竹管による刺突が顕著である。97は、太い竹管による刺突を細い沈線ですらないで区画をつくり、そのいくつかを細い竹管の刺突で充填する。98はS字状連鎖文が施される。99は90号土坑出土のスクレイパーである。100・101は92号土坑出土である。いずれも胎土に繊維を含む。100は、頸部の横走する3本の沈線とその下位の胴部に地文の縄文がみられる。101は縄文が羽状になる。102は93号土坑の出土である。2本の沈線により横方向の帯状区画を形成し、そのなかに櫛歯状工具による連続する刺突が充填され、この区画の下位には沈線で山形の文様を描かれているようである。103~105は94号土坑の出土である。103は胎土に繊維を含み、不明瞭ながら外面に条痕が認められる。104は頸部に横方向の綾線文がみられ、105は地文の縄文のみである。



第26図 遺構外出土縄文土器（早期後半・前期前半）



第27図 遺構外出土縄文土器（前期後半・晚期中葉）・弥生土器・石器

遺構外 縄文土器57点（106～162）、弥生土器4点（163～166）、石器1点（167）を図示した。縄文土器のうち、106～118が早期後半、119～133は前期前半、134～145は前期後半、146～162は晩期中葉であろう。106～133は胎土に繊維を含む。106・107は、口縁端部に絡条体圧痕、口縁部外面に絡条体圧痕による矢羽根状の文様が描かれ、内面には条痕が認められる。108は、口縁部外面に軸の太い絡条帯圧痕が横位に、内外面に撚糸が施される。109・110は内外に条痕が認められ、口縁端部に刻みをいれる。109には外面から穿孔した補修孔とみられる貫通孔がある。111は、細い竹管による刺突の施された横位の隆線、その上位には細線による斜格子状の文様が描かれ、内面には条痕が認められる。112は、指頭によるとみられる圧痕が連続的に施された横位の隆線、その上位に指頭によるとみられる斜位の沈線があり、内面には条痕が認められる。113は、刻みのある横位の隆線、その上位には竹管による刺突と、そこを起点に引かれた篋状工具による2本の沈線がみられ、内面には条痕が認められる。114～116は内外面に横方向を基調に条痕が認められる。117は外面に撚糸がランダムに施される。118は外面にコンパス文、内面に条痕が認められる。119は、突起から垂下する隆線に指頭によるとみられる押圧があり、口縁に沿ってコンパス文が施される。120・121は三角形の突起が付き、半裁竹管を2本同時に押し引きして文様を描く。122はS字状連鎖文、123・124は瓦葺状撚糸文である。125～133は縄文が地文となる。126・127は、半裁竹管による横位の区画に半裁竹管による刺突を充填する。128は、平口縁に沿って4本の平行沈線を引く。129は破片の上下に綾線文、130はヘラ状工具による縦位の鋸歯状の施文、131は波状の細線がみえる。133は縄文が羽状になる。134～137は、縄文の地文上に沈線による幾何学的な文様が描かれる。138は、口縁がわずかに隆起した小突起に刻みが施される。139・140は、細かい撚糸の地文上に粘土紐を貼り付けて連続山形文とする。141は口縁上部に縦方向の刻み目をいれ、その下位には変形爪形を横方向に施す。142～144は縄文を地文とし、144には2本の平行する縦位の沈線が引かれる。145は比較的大きな底部付近の破片だが、文様は認められない。146は注口である。147・148は網目状撚糸文が施される。117では口縁部が内側へ折り曲げられ、その上面には撚糸が施される。149～161は撚糸、162は縄文を地文とする。163～166の弥生土器は、平行沈線により文様が描かれる。164は赤採された高坏の脚部、166は地文に細い撚糸が施される。167は不定形だが石匙と判断した。

## 第3章 第6次調査

### 第1節 調査経過

平成15年(2003)7月28日に郡山市教育委員会と財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団とのあいだで締結した埋蔵文化財発掘調査業務委託契約に基づき、同日に財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団が発掘調査に着手した。まず重機を使用して表土の除去を行ない、それが終了した場所から人力による遺構の検出および掘り込みを進めた。調査区内の層序は、第5次調査と同じく、L I (表土)、L II・III (黒色系の遺物包含層)、L IV (黄色系の地山) である。

遺構の図化は、20分の1および10分の1の縮尺で行ない、写真は35mmカラーリバーサルフィルムで撮影した。9月末の時点での進捗状況は、遺構の検出数が竪穴住居9棟、土坑11基、溝1条で、そのうち調査が終了した遺構が竪穴住居5棟、土坑9基である。その後、11月30日までには発掘調査に伴うすべての作業が終了した。

### 第2節 遺 構

第6次調査では、竪穴住居を9棟、土坑を14基、ピットを1基、溝を3条確認した。ただし、竪穴住居のうち、8号と9号は西に隣接する第3次調査区(調査時の2区)で一部を調査しており、その続き部分である。遺構の番号は、第5次調査からの連番である。以下、遺構ごとに概要を報告する。

**8号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、I・J-12・13グリッドで確認した。第3次調査(調査時の2区)で確認した1号竪穴住居の続き部分である。第5次調査時に、既往の調査でみつかった遺構を一連の番号に整理した際、遺構番号を8号に変更した。第3次調査時は認識できなかったが、今回の第6次調査で竪穴の全体像が把握できたことにより、2棟の竪穴が重複していることが判明した。新しい時期の竪穴を8a号、古い時期の竪穴を8b号とした。両竪穴とも平面は方形である。竪穴北壁に明瞭な段差があることと、8a号の竪穴範囲の内側に8b号の壁溝が確認できたことから、両竪穴は少し方向をずらして構築されていることがわかる。8a号北壁のほぼ中央に設置された竈の遺存状態は良好である。その下層から8b号に伴う竈の痕跡がみつき、8b号→8a号の構築順であることが確認できた。8b号の南西側は、第3次調査(調査時の2区)で調査した部分である。北壁のほぼ中央に設置された竈は、8a号の構築により壊されており、燃焼部焼土面と煙道の一部が遺存するのみである。P1・2・12・19の4基が支柱穴である。竪穴の南西コーナーから排水用の溝が伸びる。溝は途中で失われているが、竪穴東側の谷部を北東方向に下る5～7号溝に接続する可能性がある。

**9号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、H・I-12グリッドで確認した。第3次調査(調査時の2区)で確認した2号竪穴住居の続き部分である。第5次調査時に、既往の調査でみつかった遺構を一連の番号に整理した際、遺構番号を9号に変更した。竪穴の平面は東西に長い方形であり、しっかりとした壁が遺存する。床より25基の小穴(P)を確認した。炉になるような明瞭な焼土面は未確認で

ある。堆積土の ①・③に沼沢パミスを含む。

**20号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-12グリッドで確認した。遺構検出の段階で床が露出した状態であり、竪穴の壁は完全に失われている。支柱穴であるP2～5の4基の平面的な配置から、東西に長い方形平面であったと思われる。竪穴の北壁が想定できる部分に、竈袖の残欠と竈燃焼部の焼土面が確認できた。竈前の床が部分的に硬化する。

**21号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、I-12・13グリッドで確認した。東側半分ほどの壁が部分的に遺存し、その平面形状によって東西に長い円形の竪穴と予想できる。竪穴範囲内において、21基の小穴(P)を確認した。竪穴の南北規模が最大となるあたりの中心付近に、炉とみられる焼土化が認められる。

**22号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-12・13グリッドで確認した。竪穴の平面は方形基調である。竪穴の範囲内において、14基の小穴(P)を確認した。竪穴の中心からやや西に偏った場所に、炉とみられる焼土化が認められる。

**23号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-12・13グリッドで確認した。竪穴の平面は方形基調である。竪穴の範囲内において、6基の小穴(P)を確認した。竪穴の中心からやや西に偏った場所に、炉とみられる焼土化が認められる。

**24号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、H・I-13・14グリッドで確認した。竪穴の平面は東西にやや長い方形である。竈が北壁に構築されており、その位置は、壁に向かって中心よりやや右に偏る。竈は解体されているとみられ、袖部は片袖のみの遺存である。柱穴は未確認である。

**25号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-13・14グリッドで確認した。竪穴の平面はややつぶれた円形である。竪穴の範囲内において、12基の小穴(P)を確認した。炉は確認できなかった。竪穴と重複する104号土坑により失われた可能性がある。

**26号竪穴住居** 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-13・14グリッドで確認した。竪穴の平面は円形を基調とする。竪穴の範囲内において、11基の小穴(P)を確認した。炉は確認できなかった。竪穴と重複する倒木により失われた可能性がある。

**96号土坑** 調査区西側の微高地上の北先端付近、I-13グリッドで確認した。円形基調の平面で、壁の立ち上がりは緩やかである。堆積土に多量のロームブロックを含む。

**97号土坑** 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-12グリッドで確認した。平面は円形である。壁の立ち上がりは急角度で、部分的にオーバーハングする。

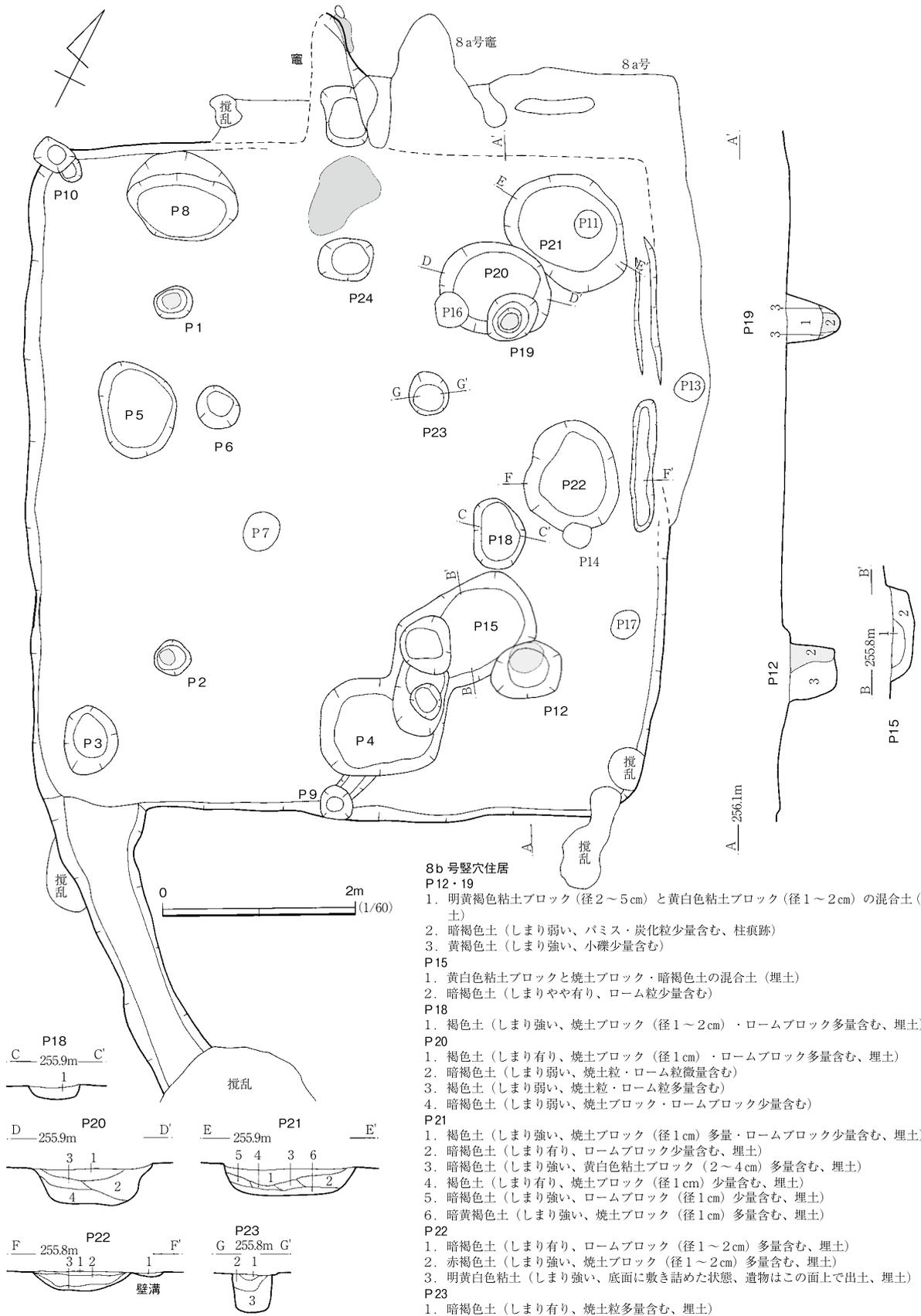
**98号土坑** 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-12グリッドで確認した。平面は長円形である。壁の立ち上がりは急角度で、上部がやや開く。底面に2基の小穴が長軸方向に並ぶ。

**99号土坑** 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-13グリッドで確認した。円形基調の平面で、壁の立ち上がりは急角度である。

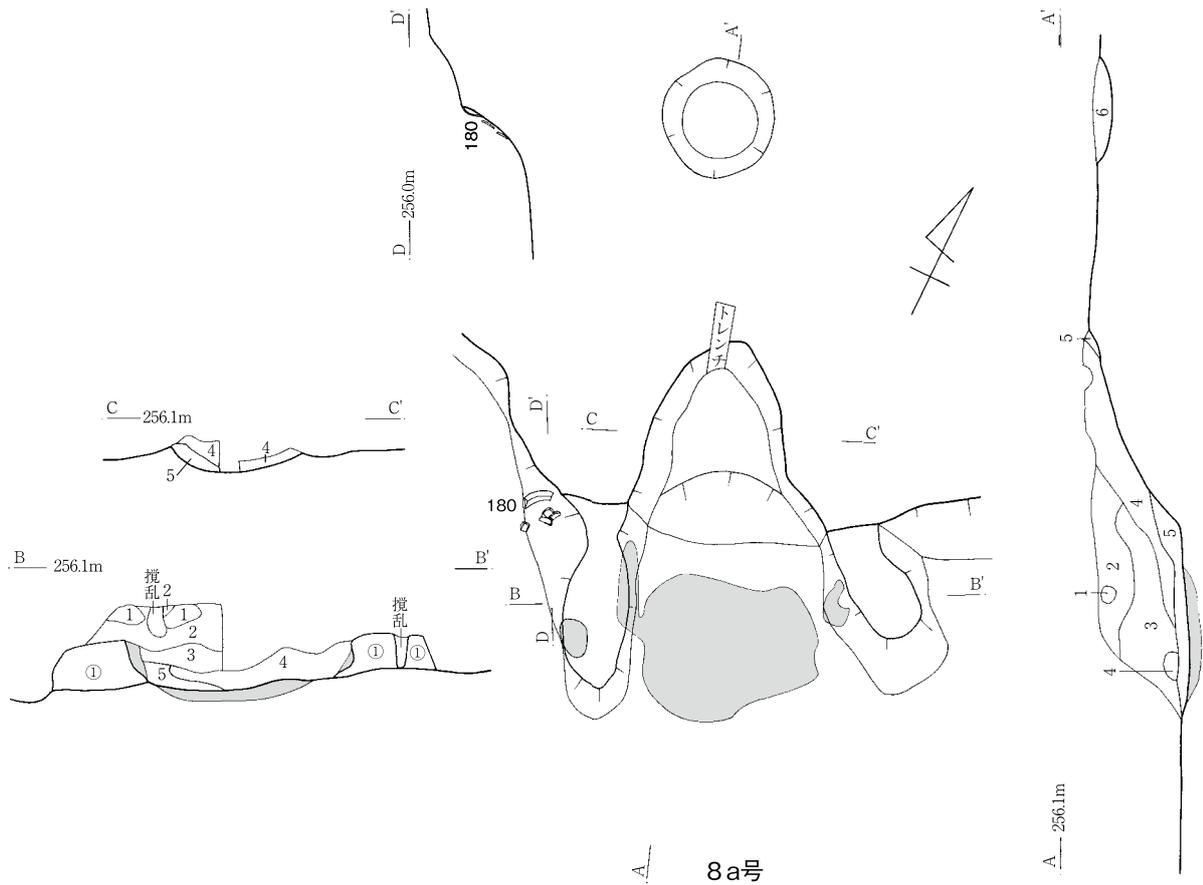
**100号土坑** 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-13グリッドで確認した。円形基調の平面で、壁の立ち上がりはおおむね急角度である。

**101号土坑** 調査区西側の微高地上の北先端付近、I-13グリッドで確認した。平面は不整形で、壁の立ち上がり角度は一定しない。

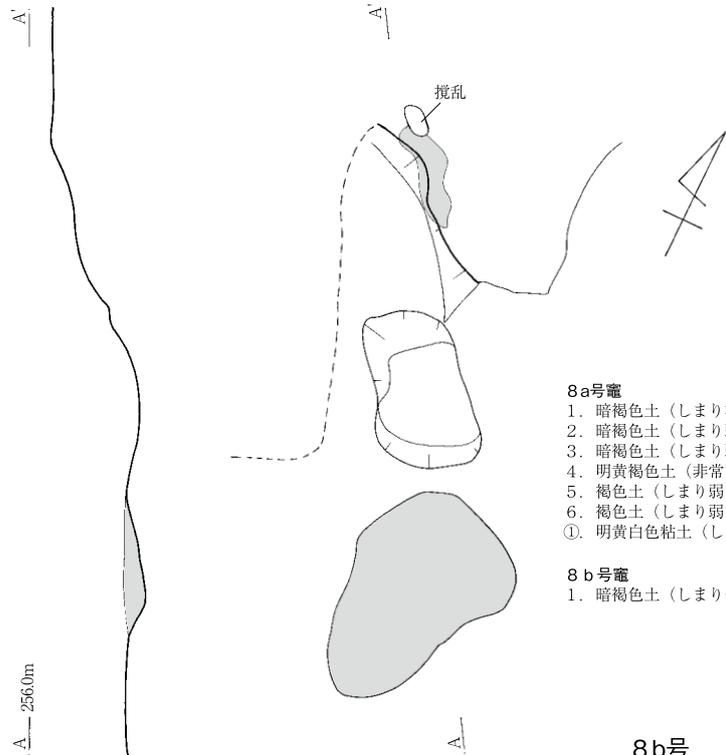




第29図 8b号竪穴住居



8a号



8a号竈

1. 暗褐色土 (しまり有り、パミス・明黄褐色粘土粒・焼土粒少量含む)
2. 暗褐色土 (しまり弱い、パミス・明黄褐色粘土粒微量含む)
3. 暗褐色土 (しまり弱い、 $\phi 2$ と $\phi 4$ ブロックの混合土)
4. 明黄褐色土 (非常に強くしまる、混入物なし、天井部が明瞭な形で崩落)
5. 褐色土 (しまり弱い、焼土ブロック (径1cm) 多量含む)
6. 褐色土 (しまり弱い、パミス・焼土ブロック (径1cm)・ローム粒少量含む)
- ①. 明黄白色粘土 (しまり非常に強い、砂粒を混入する)

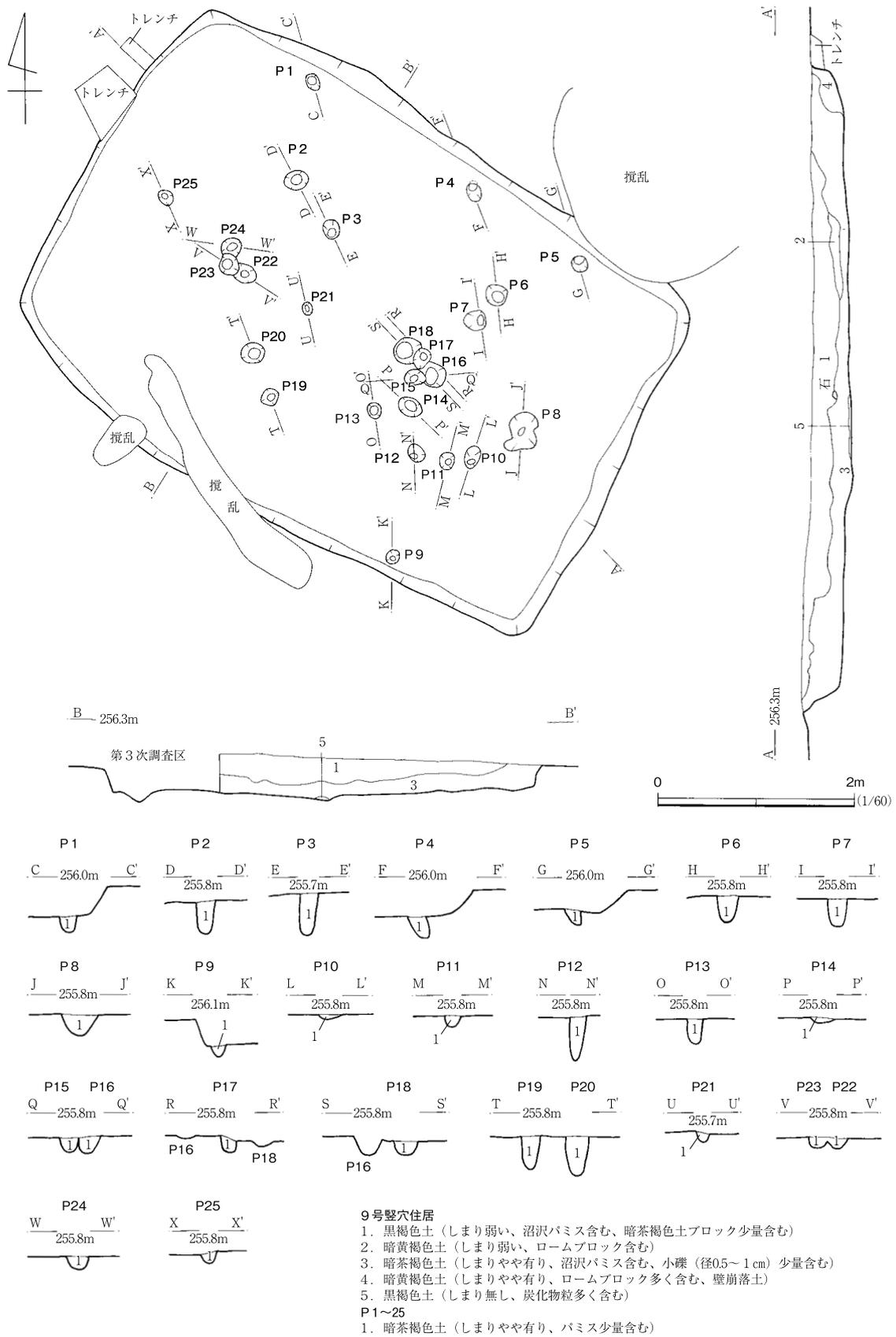
8b号竈

1. 暗褐色土 (しまりやや有り、焼土粒・ローム粒少量含む)

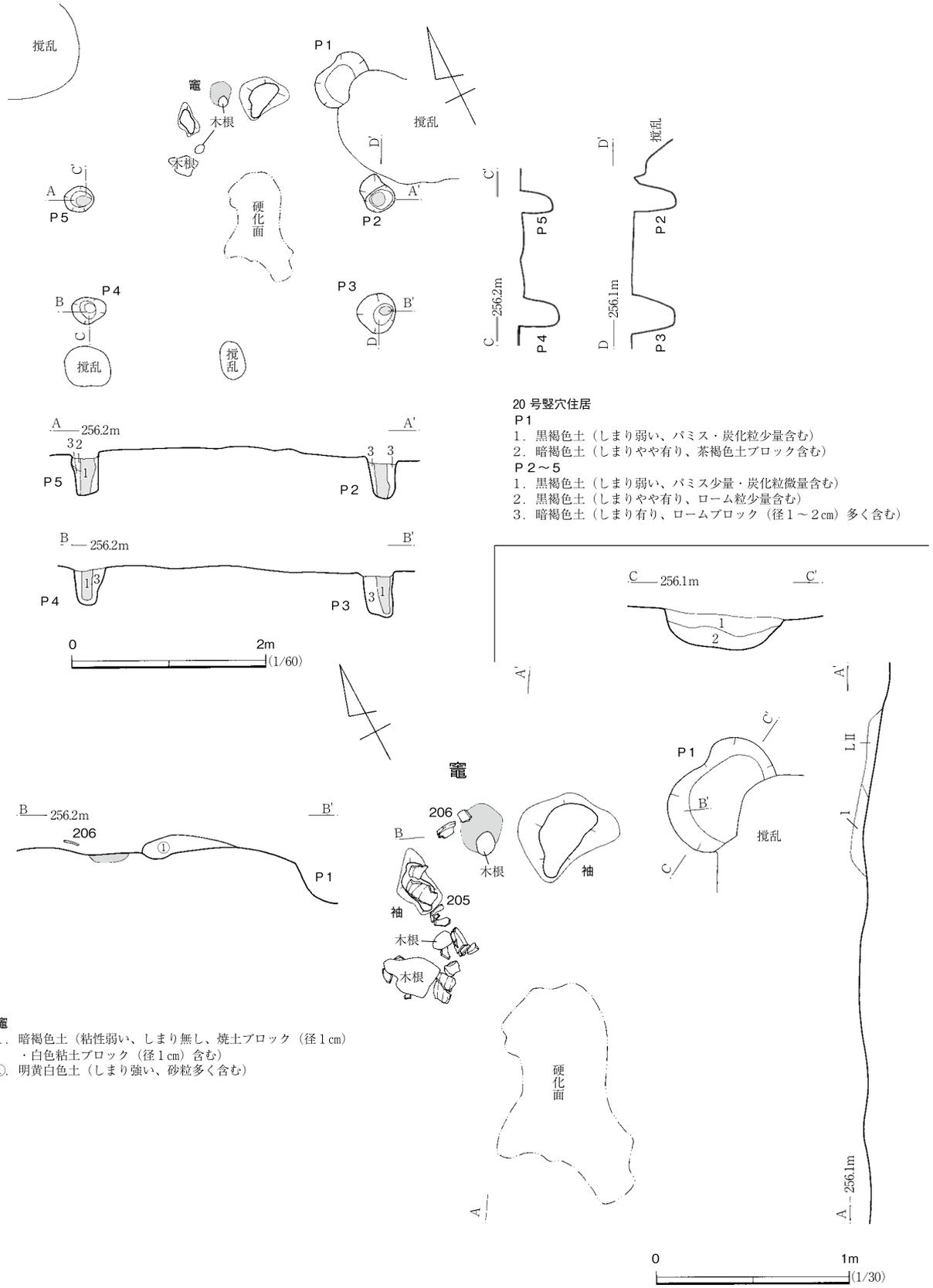
8b号



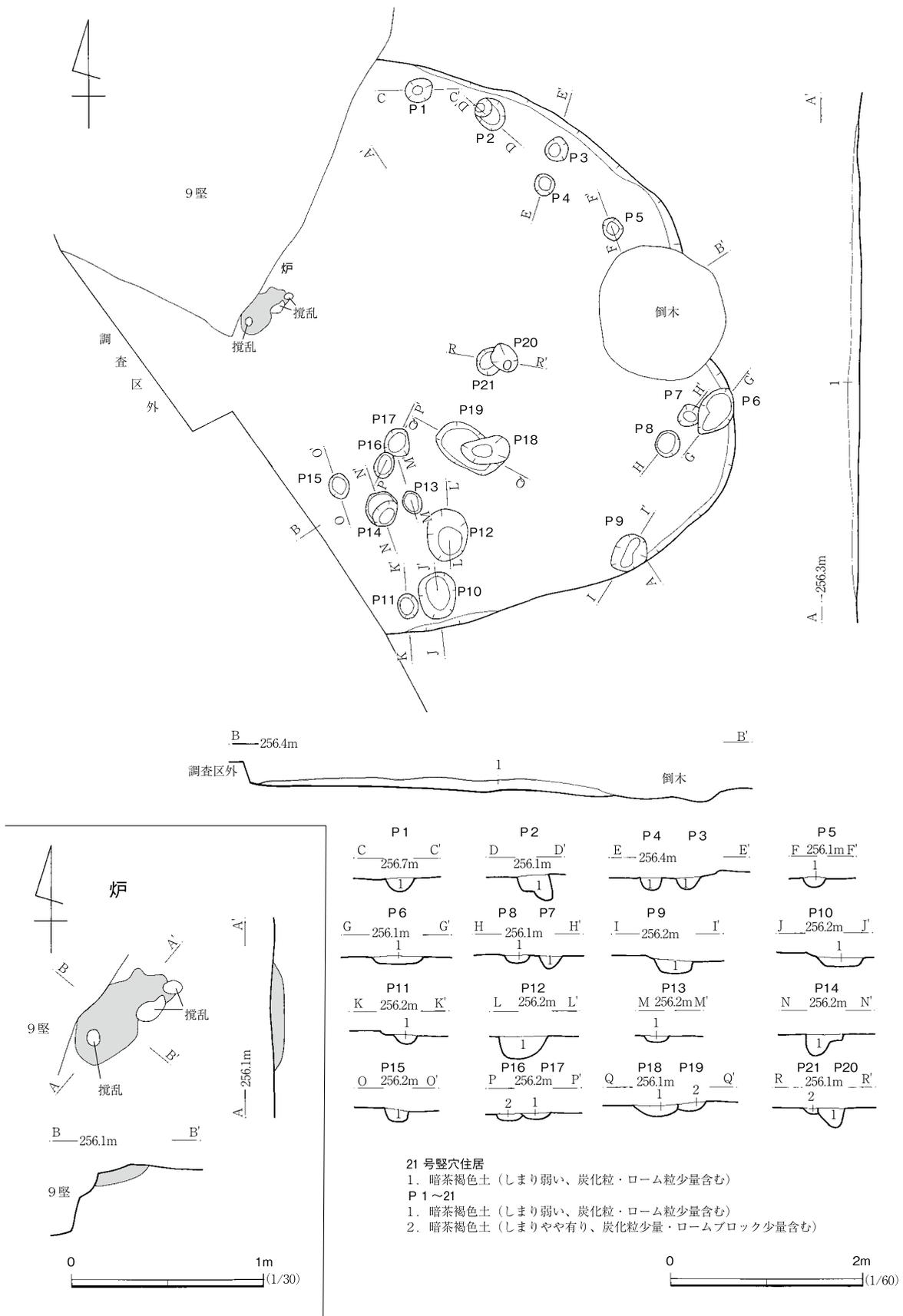
第30図 8a・b号堅穴住居竈



第31図 9号堅穴住居

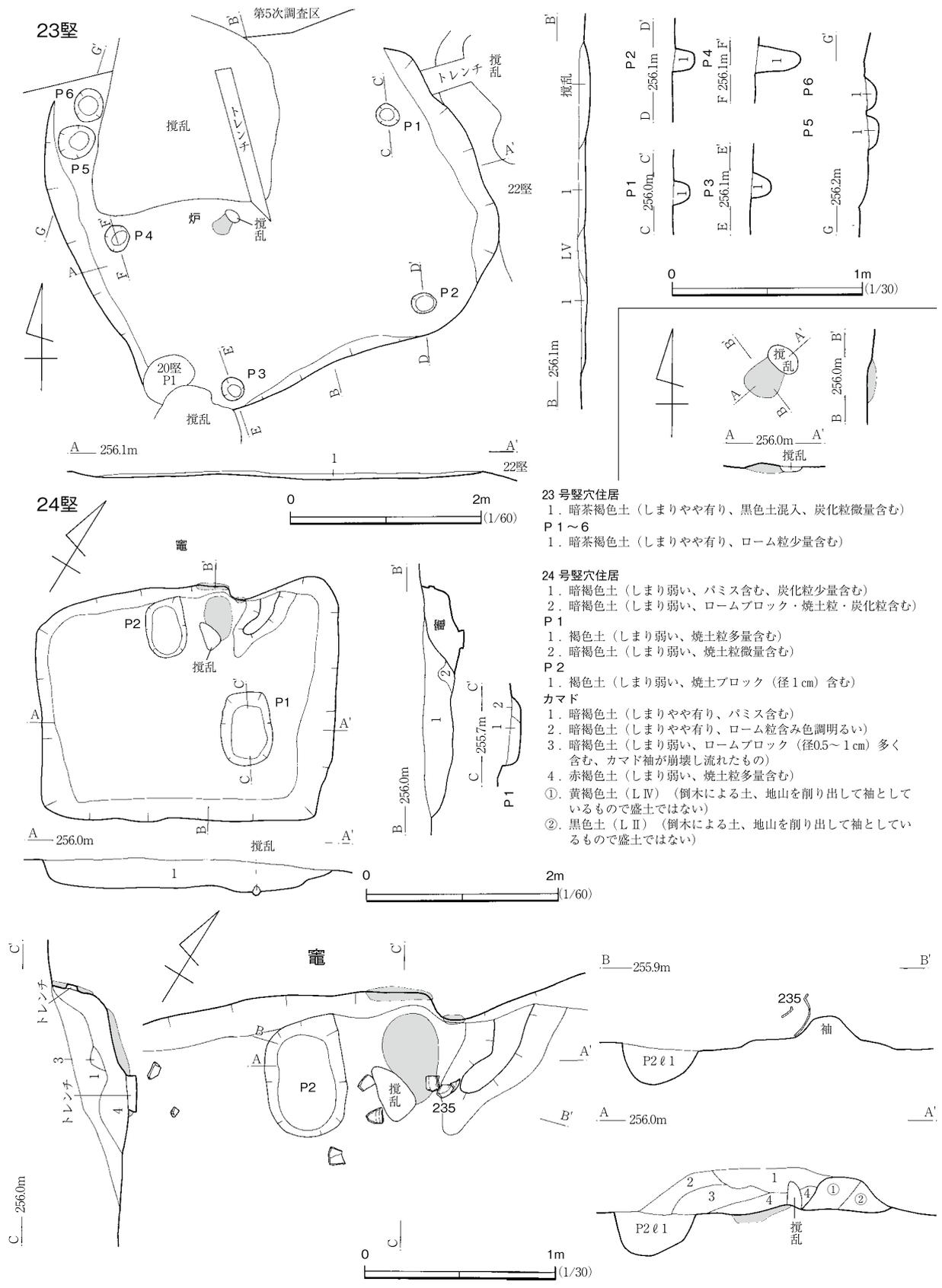


第32図 20号堅穴住居

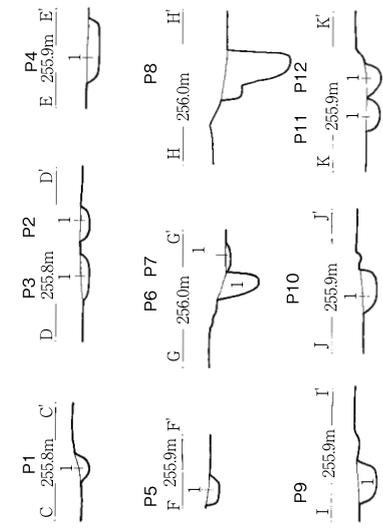
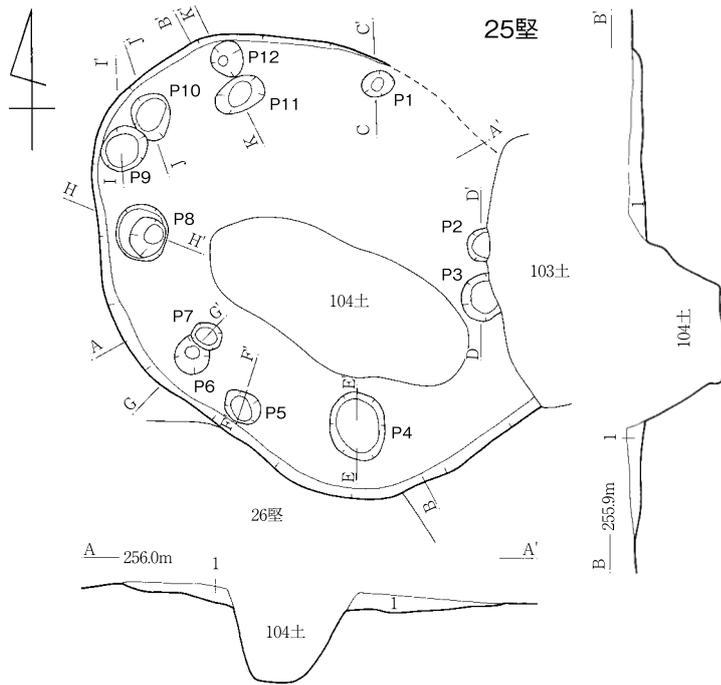


第33図 21号堅穴住居

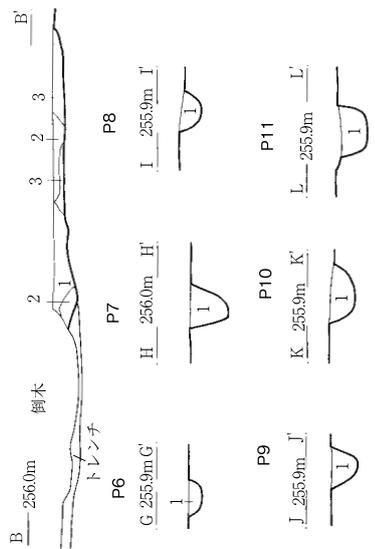
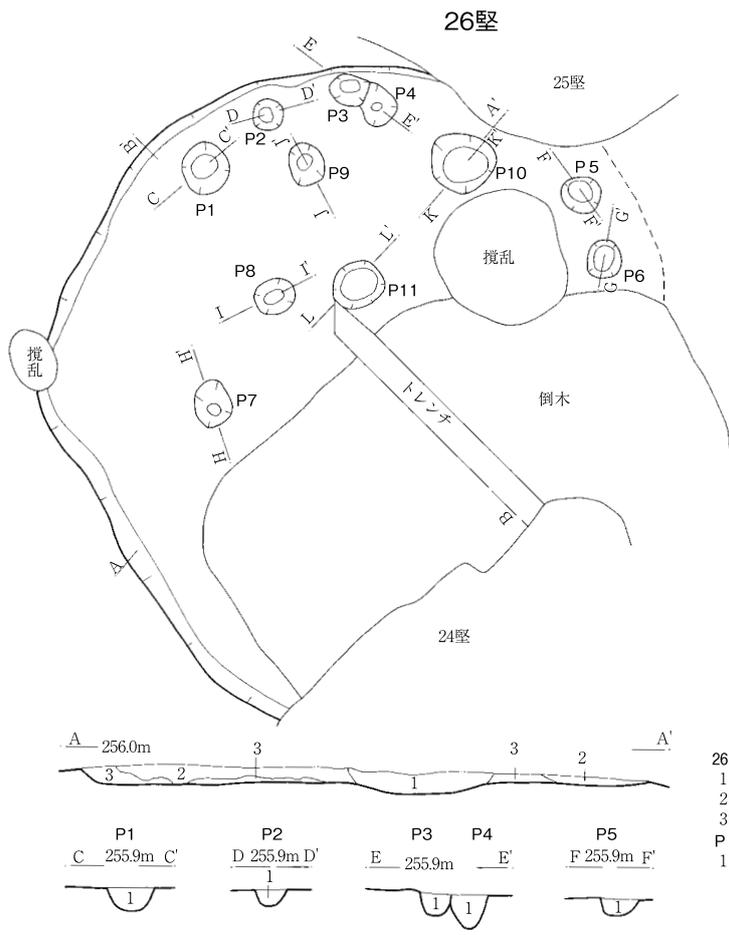




第35図 23・24号堅穴住居



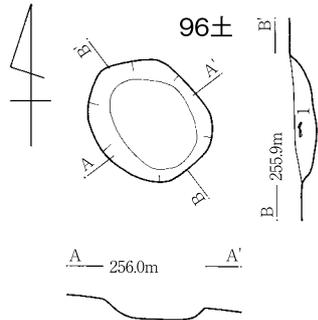
25号竪穴住居  
 1. 暗茶褐色土 (しまり弱い、炭化物粒微量含む)  
 P1~12  
 1. 暗茶褐色土 (しまり弱い、ローム粒少量含む)



26号竪穴住居  
 1. 黒色土 (しまり弱い、沼沢バミス・ローム粒少量含む)  
 2. 暗茶褐色土 (しまり弱い、ローム粒・炭化物粒微量含む)  
 3. 茶褐色土 (しまり弱い、ローム粒微量含む)  
 P1~11  
 1. 茶褐色土 (しまり弱い、ローム粒少量含む)

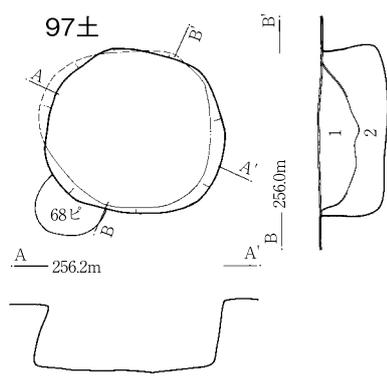


第36図 25・26号竪穴住居



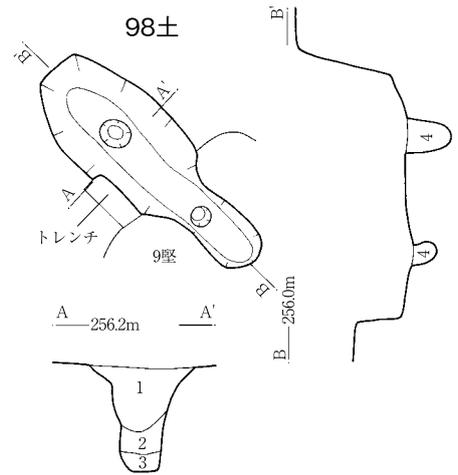
96号土坑

1. 暗褐色土 (しまり弱い、ロームブロック多く含む)



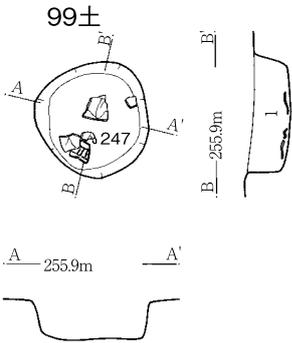
97号土坑

1. 黒褐色土 (しまり弱い、炭化物・焼土粒少量含む)
2. 黒褐色土 (しまりやや有り、ローム粒少量含む)



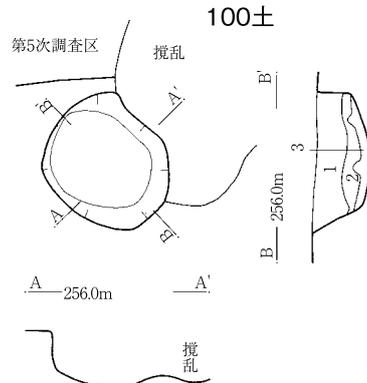
98号土坑

1. 暗茶褐色土 (しまりやや有り、壁面付近にはローム粒少量含む)
2. 黄褐色土 (しまり弱い、茶褐色土ブロック含む)
3. 茶褐色土 (しまり弱い、ローム粒含む)
4. 茶褐色土 (しまり弱い、ロームブロック含む)



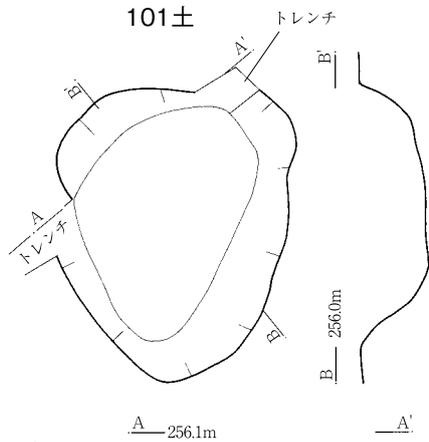
99号土坑

1. 暗茶褐色土 (しまり弱い、ローム粒微量含む)



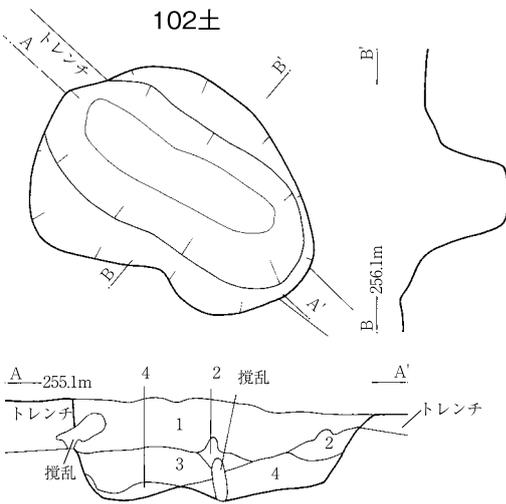
100号土坑

1. 暗茶褐色土 (しまりやや有り、ローム粒微量含む)
2. 黄褐色土 (しまり無し、黒色土少量含む)
3. 黒色土 (しまり無し、ローム粒微量含む)



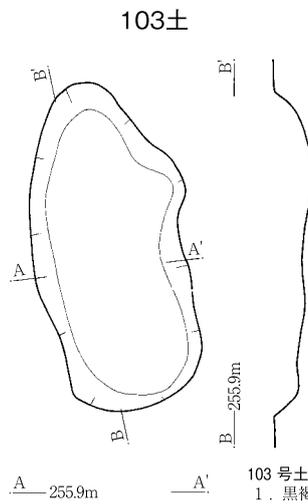
101号土坑

1. 暗茶褐色土 (しまり弱い、ローム粒少量含む)



102号土坑

1. 暗茶褐色土 (しまり弱い、ローム粒少量含む)
2. 暗黄褐色土 (しまり弱い、ロームブロック含む)
3. 茶褐色土 (しまりやや有り、ローム粒・炭化粒少量含む)
4. 黄褐色土 (しまり弱い、ロームブロック多量含む)

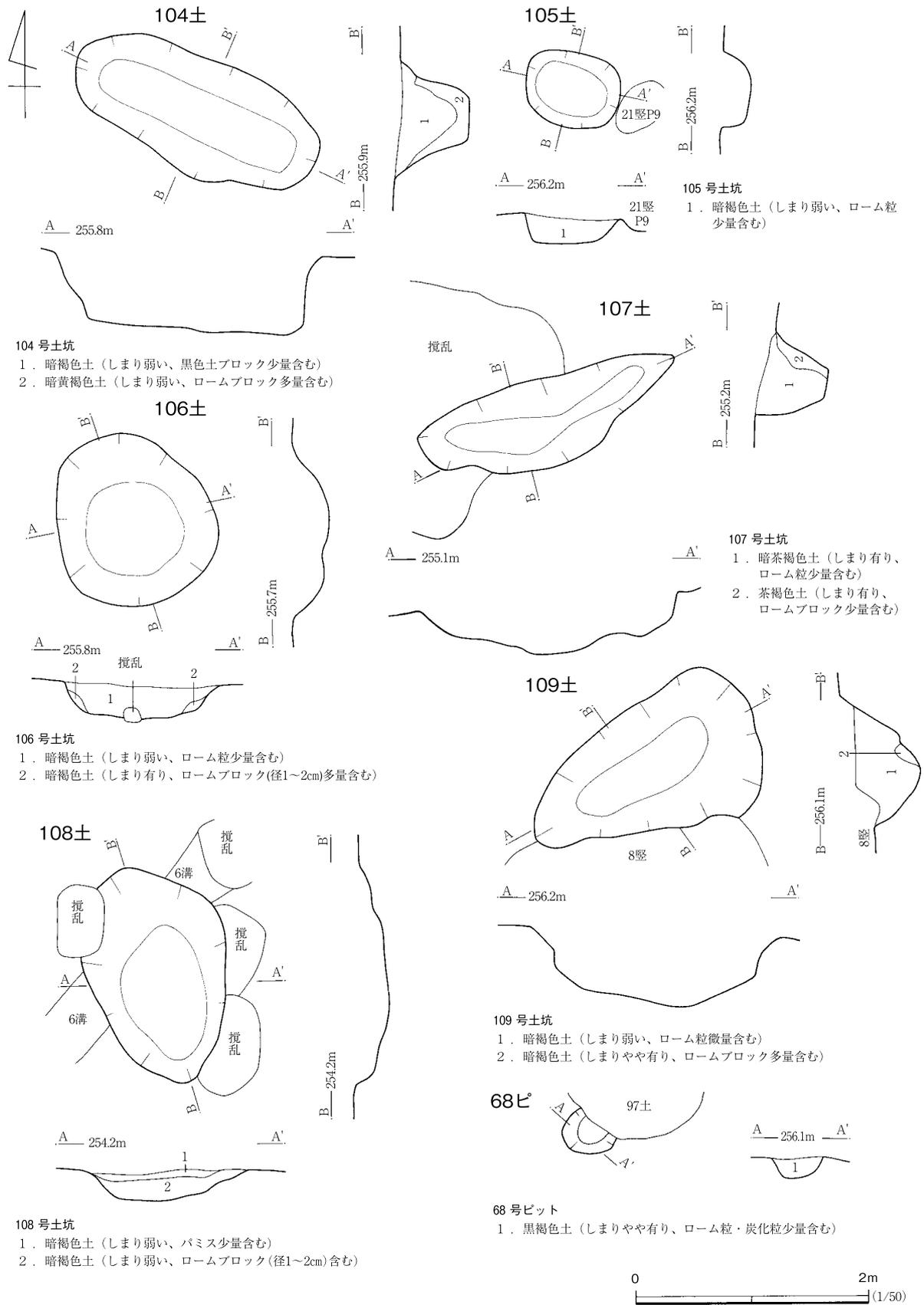


103号土坑

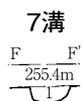
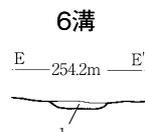
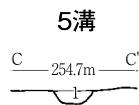
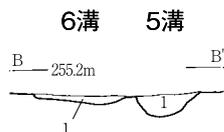
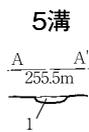
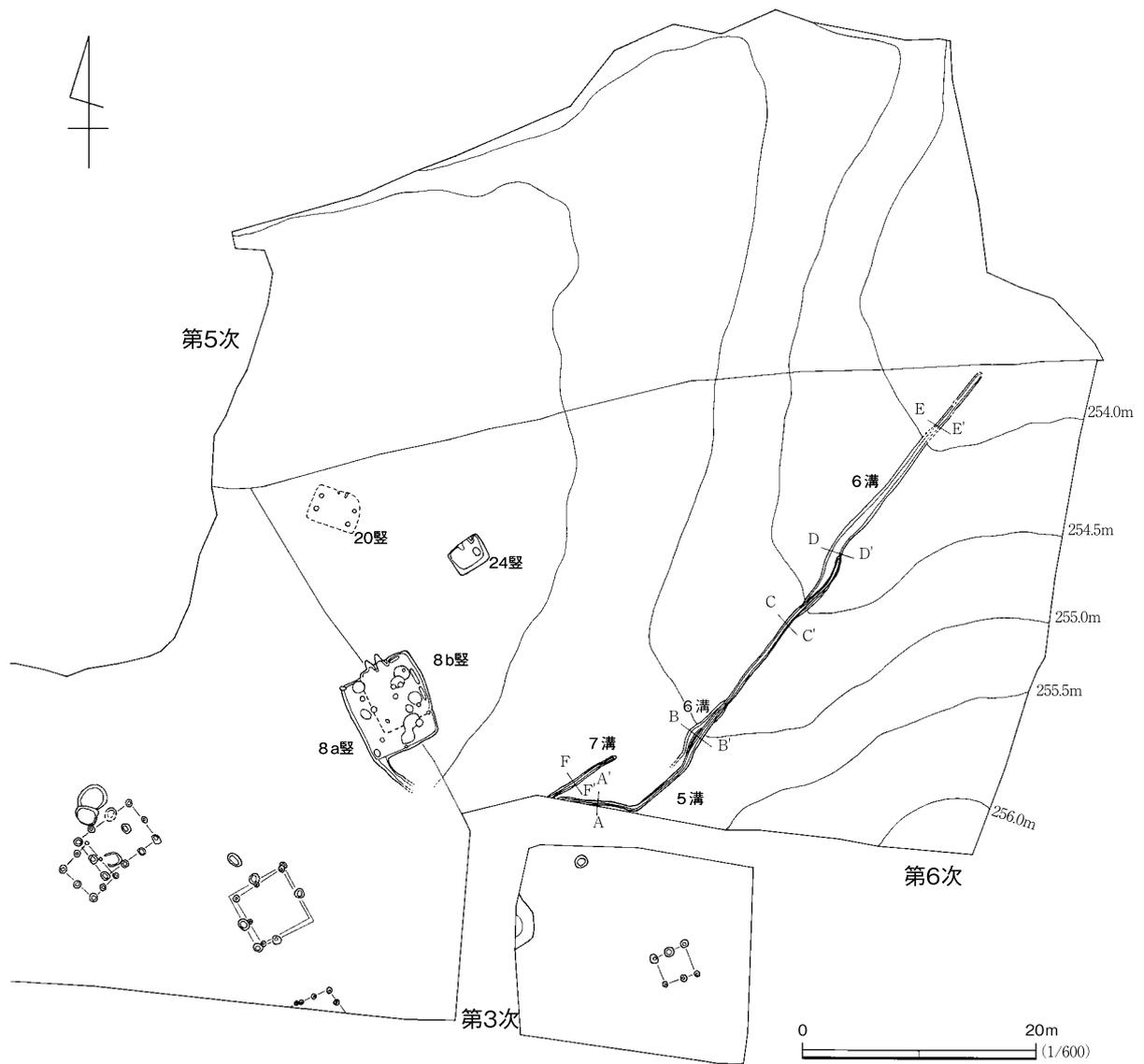
1. 黒褐色土 (しまり弱い、バミス少量含む)
2. 暗黄褐色土 (しまりやや有り、ロームブロック多量含む)



第37図 96~103号土坑



第38図 104~109号土坑・68号ピット



- 5号溝**  
1. 暗褐色土 (しまり弱い、パミス含む)
- 6号溝**  
1. 暗褐色土 (しまり弱い、パミス少量・ローム粒微量含む)
- 7号溝**  
1. 暗褐色土 (しまり弱い、パミス・ローム粒微量含む)



第39図 5～7号溝

102号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-12グリッドで確認した。平面は長円形である。壁の立ち上がりは下部で急角度であり、上部ではおおむね緩やかに開く。

103号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-14グリッドで確認した。平面は不整形で、壁の立ち上がり角度は一定しない。

104号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、H-13・14グリッドで確認した。平面は上面では長円形であり、底面では西小口側は円形基調、東小口側は方形基調となる。壁の立ち上がりはおおむね急角度だが、上部は部分的に開く。

105号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、I-13グリッドで確認した。平面はややつぶれた円形で、壁の立ち上がりはおおむね急角度である。

106号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-14グリッドで確認した。平面は円形で、壁の立ち上がりは緩やかである。

107号土坑 調査区東側の北向き斜面、I-17・18グリッドで確認した。平面は不整形で、底面は凸凹し、壁の立ち上がり角度は一定しない。

108号土坑 調査区東側の北東に開く谷底付近、G-17グリッドで確認した。平面は不整形で、壁の立ち上がりは緩やかである。

109号土坑 調査区西側の微高地上の北先端付近、I-13グリッドで確認した。平面は不整形で、底面は凸凹し、壁の立ち上がり角度は一定しない。

68号ピット 調査区西側の微高地上の北先端付近、G-12グリッドで確認した。重複する97号土坑により、北西側が大きく失われている。平面は円形基調とみられ、深さは浅い。

5・6・7号溝 5号と6号は、調査区東側の北東に開く谷の底をおおむね直線的に伸びる。両溝はほぼ同じ場所にあり、6号→5号の新旧関係が確認できた。5号は斜面上部の調査区南端付近で西方向に屈曲する。7号は、調査区東側の北東に開く谷の上部を斜面に沿って直線的に伸びる。この5号と7号は、調査区外において接続する可能性がある。その場合、5～7号溝は一連の遺構となり、場所をずらしながら継続して機能したことになる。これらの溝と関連しそうなのが、8b号竪穴住居から伸びる排水溝である。この排水溝は、現状では3mほど南東に伸びたところで失われている。しかし、周辺の地形や遺構の配置状況などを勘案すれば、5～7号溝と接続する可能性がある。

### 第3節 遺物

第6次調査で出土したのは、縄文土器・土師器・須恵器・瓦・石器である。このうち縄文土器は、早期後半・前期前半・前期後半に大別できる。以下、まずは遺構出土の遺物を遺構ごとに報告し、続いて遺構外から出土した遺物を種類別・時期別に報告する。なお、出土遺物の無かった遺構や、特徴的な遺物の出土しなかった遺構については立項していない。

8号竪穴住居 土師器15点(168～182)、須恵器5点(183～187)、砥石2点(188・189)を図示し、併せて第3次調査(調査時の2区)の出土遺物を小縮尺で再録した。168～179の土師器坏は、いずれもロクロを使用している。169の外面底部には「三宅鋪」、170の外面体部には「上」の墨書がある。176は

底部の中心付近にのみ、179は底部の全面に回転糸切痕が残る。180～182の土師器甕はロクロを使用していない。183～187は須恵器で、186・187は底部回転糸切痕が明瞭である。

**9号竪穴住居** 縄文土器11点(190～200)、石鏃2点(201・202)を図示した。190～196は胎土に繊維を含む。190は口縁端部に刻みをいれ、口縁部外面に斜位に絡条体圧痕が施され、その下位に刻みを入れた隆線が波状にめぐる。191・192は内面に条痕が認められる。193は外面に太い撚糸がランダムに施される。194は細い撚糸で山形の文様を描く。195は撚糸圧痕による区画内に短沈線を充填する。196の地文はループ文である。197は口縁部に横方向に太い沈線が平行する。198～200は半裁竹管により幾何学的な文様が描かれる。201・202の石鏃は無茎で、基部に微かな抉入がある。

**20号竪穴住居** 土師器4点(203～206)を図示した。いずれもロクロを使用している。203の坏は口縁部と底部が接合していないが、同一個体と判断した。底部糸切痕が残る。

**21号竪穴住居** 縄文土器3点(207～209)を図示した。いずれも胎土に繊維を含む。207は口縁端部に刻みをいれ、竹管による刺突を隆線をつないで文様とする。内面には条痕が認められる。208・209は内外面ともに条痕が認められる。

**22号竪穴住居** 縄文土器5点(210～214)を図示した。210・211は胎土に繊維を含む。210は大小の竹管による刺突で文様が描かれる。211は節の大きい縄文が一部羽状に施される。212・213は沈線により幾何学的な文様が描かれる。214は平行する横沈線の下位に細い撚糸が縦に施される。

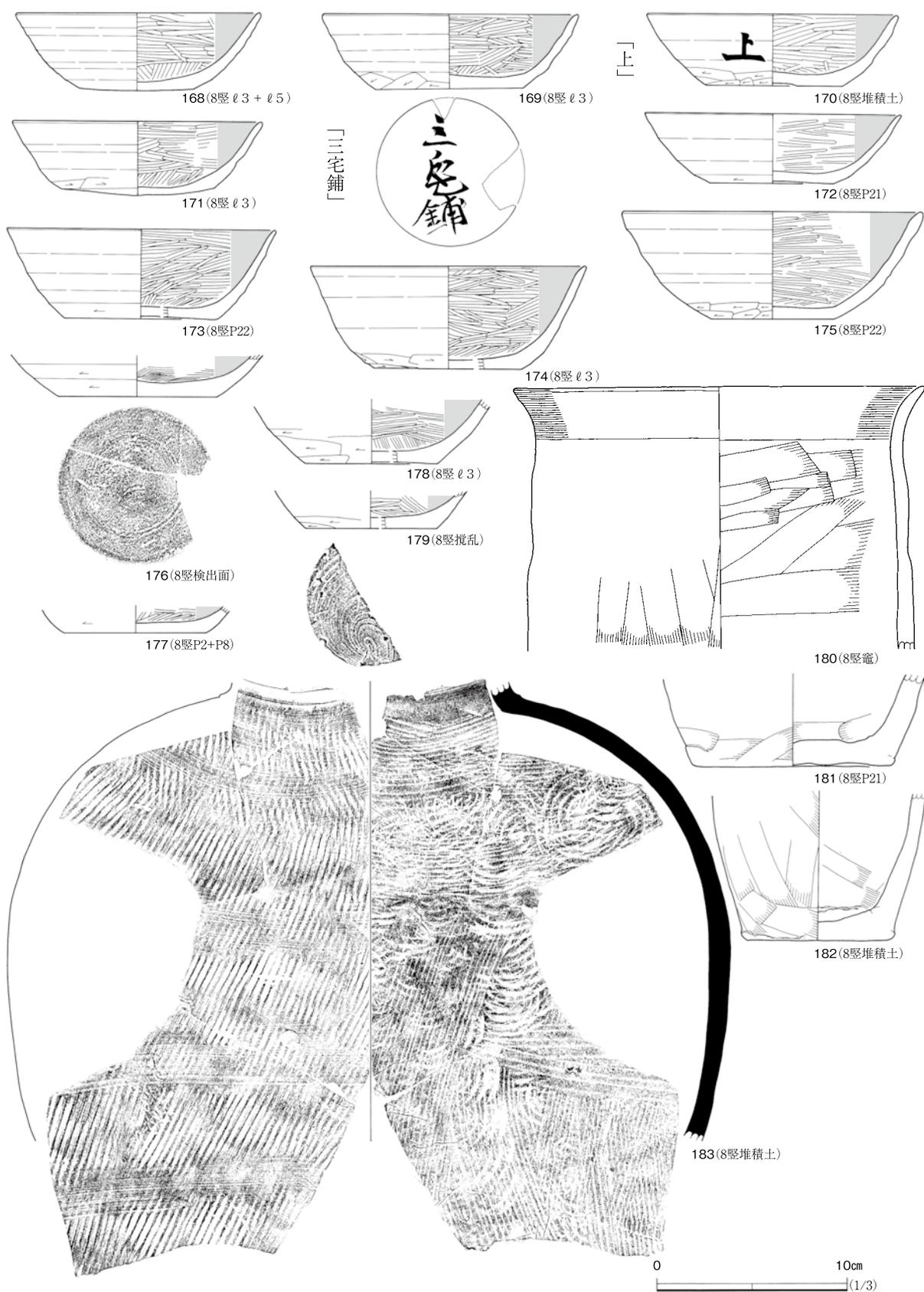
**23号竪穴住居** 縄文土器19点(215～233)、石匙1点(234)を図示した。縄文土器の215～230は胎土に繊維を含む。215～219は大小の竹管による刺突が顕著で、口縁の内外端部には刻みが入り、内面は不明瞭な破片もあるが条痕が施される。220は外面に太いランダムな撚糸が認められる。221・222は口縁の内外端部に刻みを入れ、外面口縁部に太い竹管もしくは棒状工具で円弧を描き、そのあいだを細い竹管の刺突で充填する。内面には条痕が認められる。223～225は太い竹管で刻みや刺突を施した隆線の上位と下位に、同じ工具で文様を描き、細い竹管による刺突を施す。内面の条痕は一定方向に施した後、斜格子状にして装飾的効果をはかっているようにみえる。226は外面に撚糸、内面に条痕が施される。227～230は内外面に条痕が認められ、227・228では隆線に刻みがある。231は半裁竹管により横方向の沈線と連弧文が描かれる。232は地文の縄文のみである。233の底部には文様は認められない。

**24号竪穴住居** 土師器1点(235)と砥石2点(236・237)を図示した。235の土師器甕はロクロを使用し、外面胴部に叩き目が認められる。

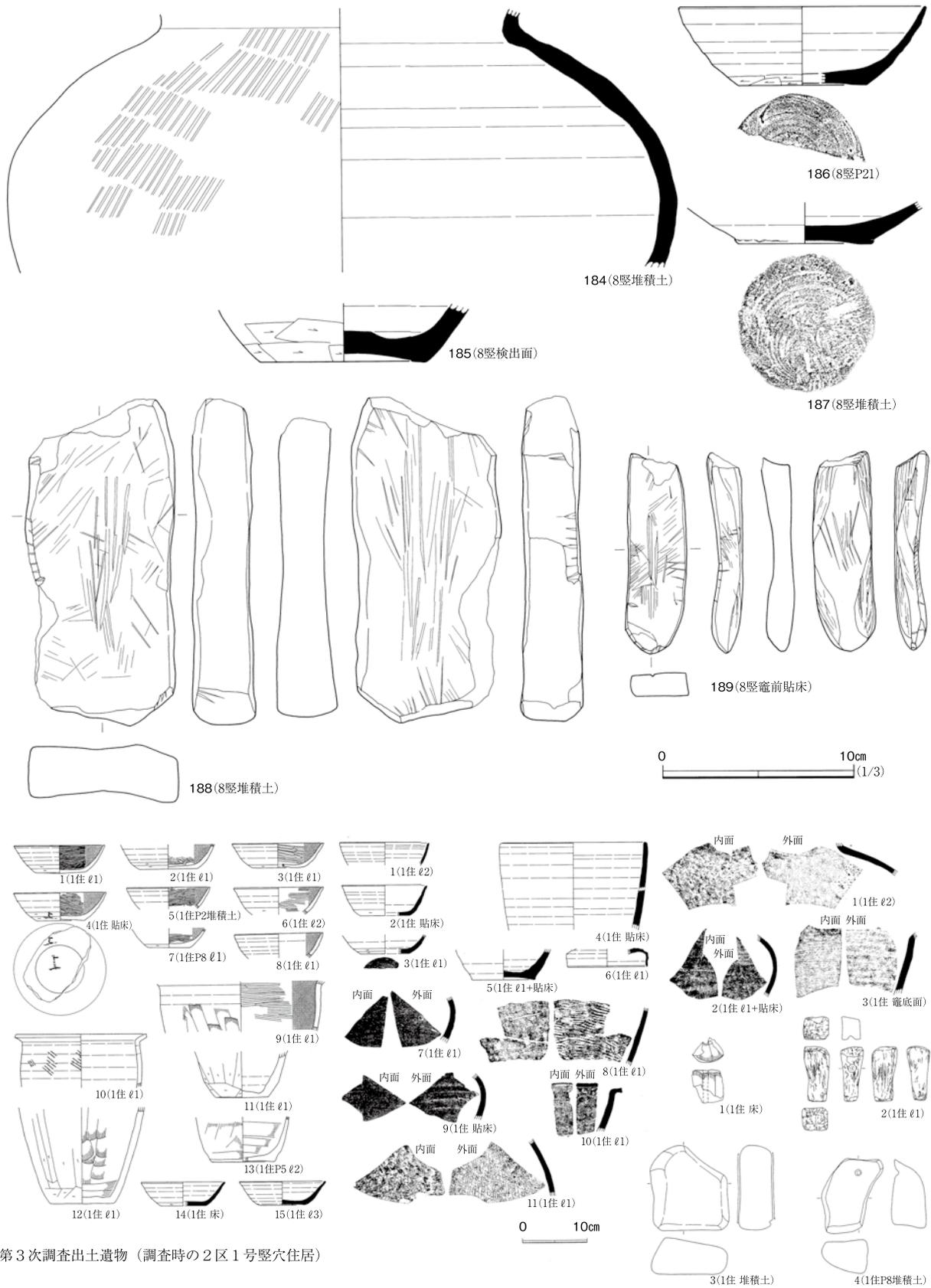
**25号竪穴住居** 縄文土器2点(238・239)を図示した。238は胎土に繊維を含み、内外面に条痕が認められ、隆線には刻みがある。239は胎土に少量の繊維を含み、S字状連鎖文が施される。

**26号竪穴住居** 縄文土器3点(240～242)、石鏃1点(243)を図示した。240・241は胎土に繊維を含み、竹管の刺突で文様を描く。いずれも内面には条痕が施されていると思われるが、240は不明瞭である。242は胎土に繊維を含み、2本の半裁竹管で横方向に2本の沈線押し引きする。243の石鏃は基部が欠失する。

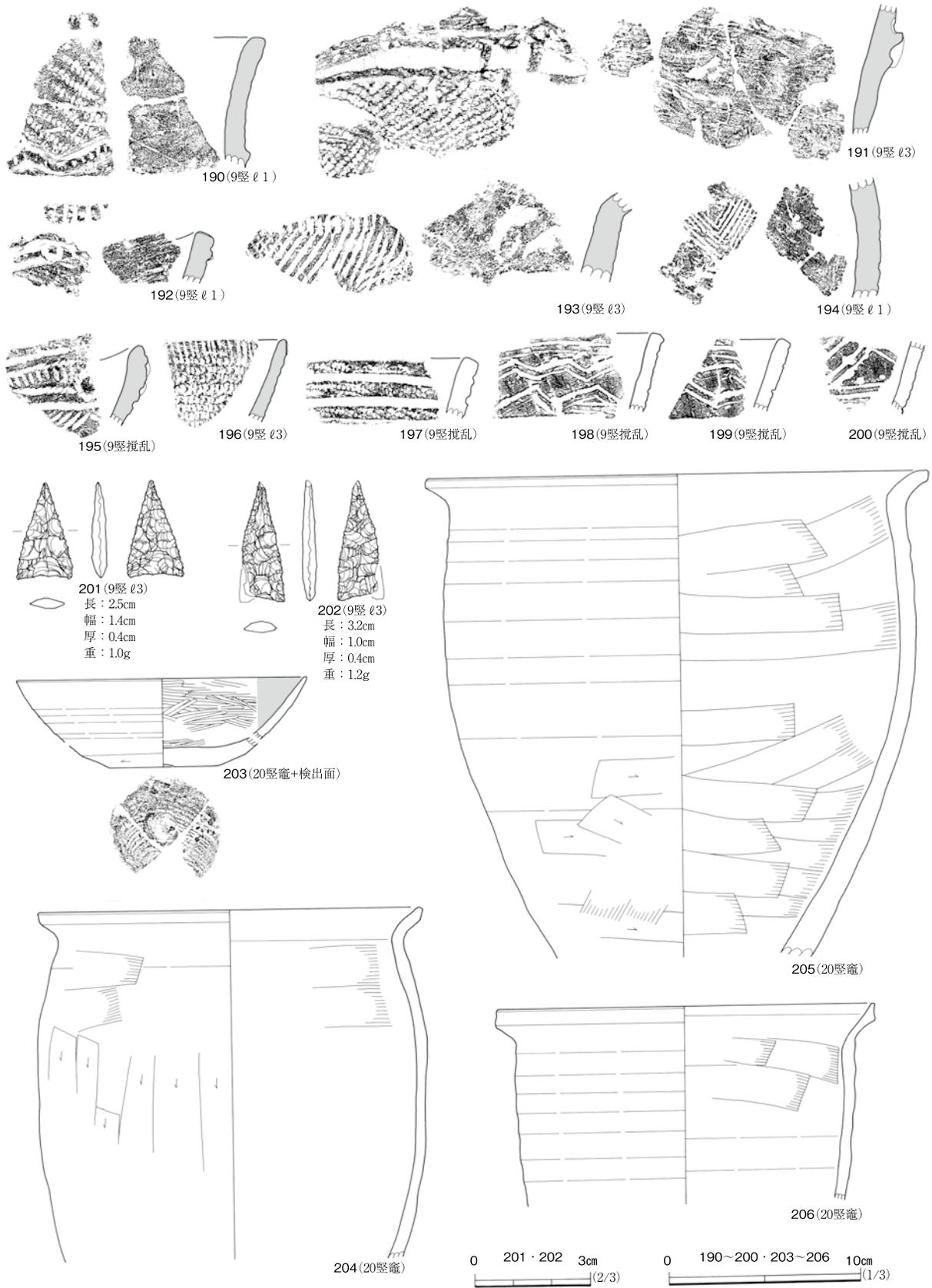
**土坑** 縄文土器7点(244～250)を図示した。244・245は96号土坑の出土である。いずれも胎土に繊維を含み、地文の縄文のみが認められる。246は98号土坑の出土である。胎土に繊維を含み、地文に複節縄文が施される。247は99号土坑の出土である。胎土に繊維を含み、4ヵ所に小突起が付く。口縁部



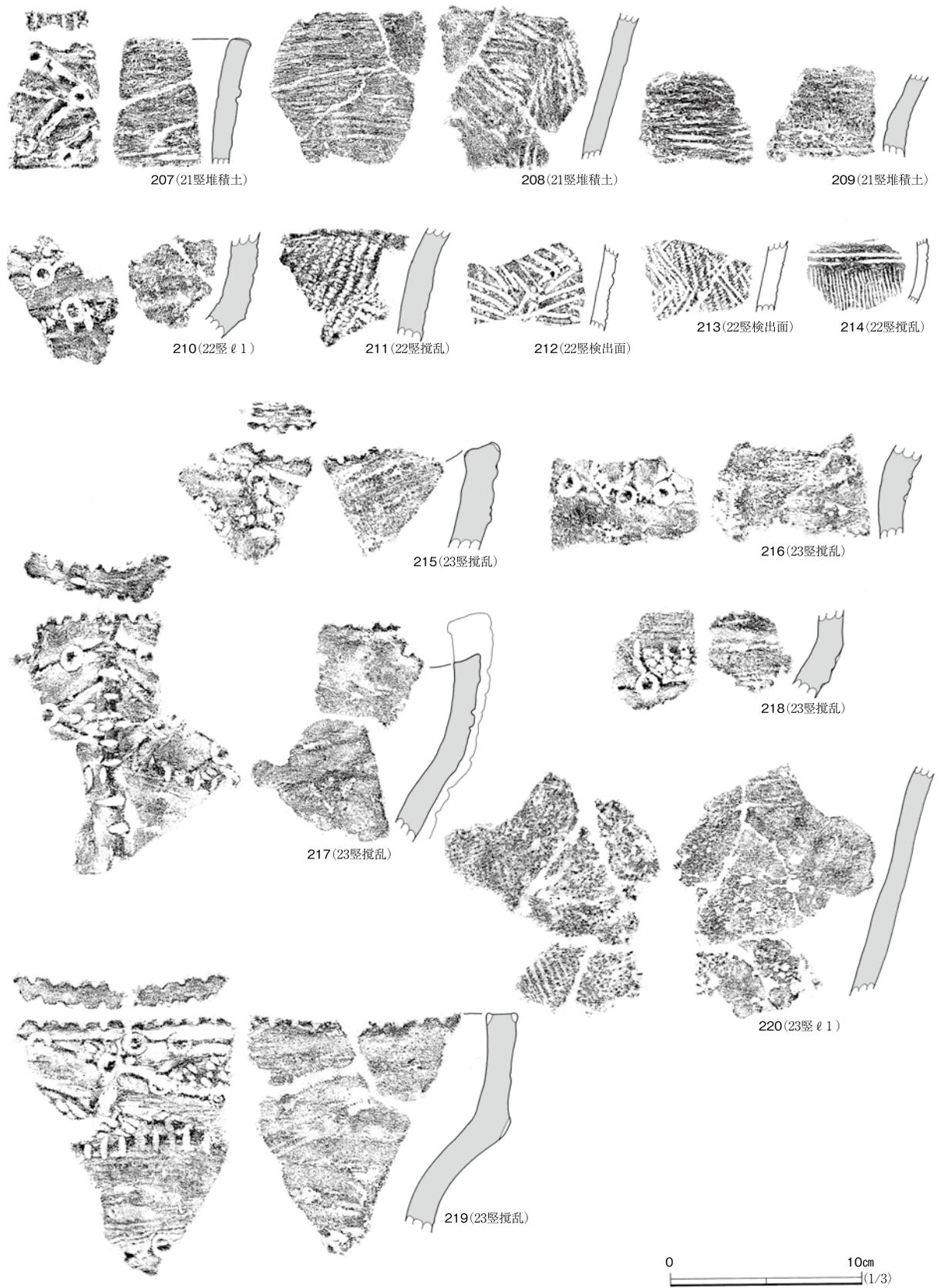
第40図 8号竖穴住居出土遺物



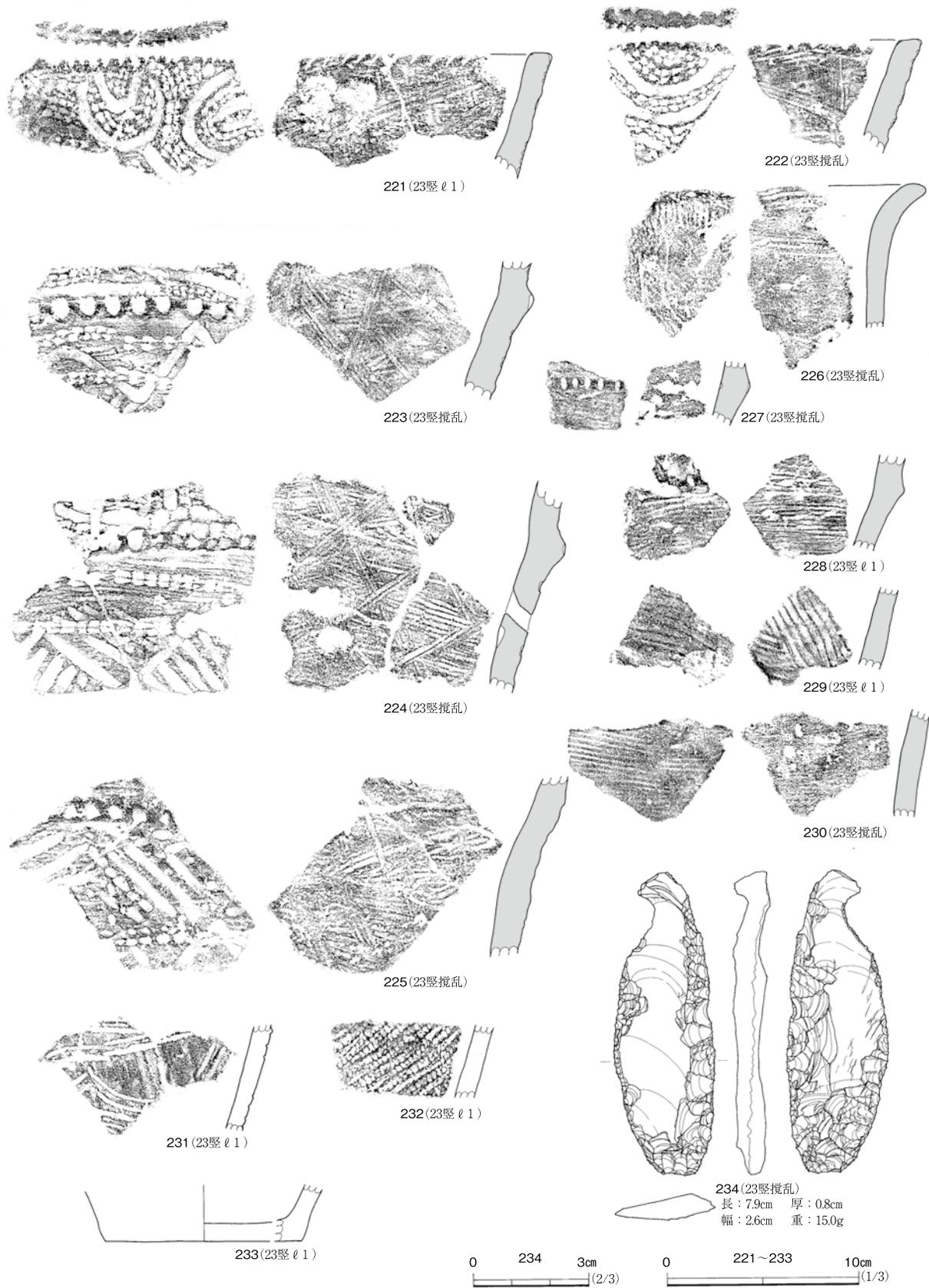
第41図 8号竈穴住居出土遺物(2)



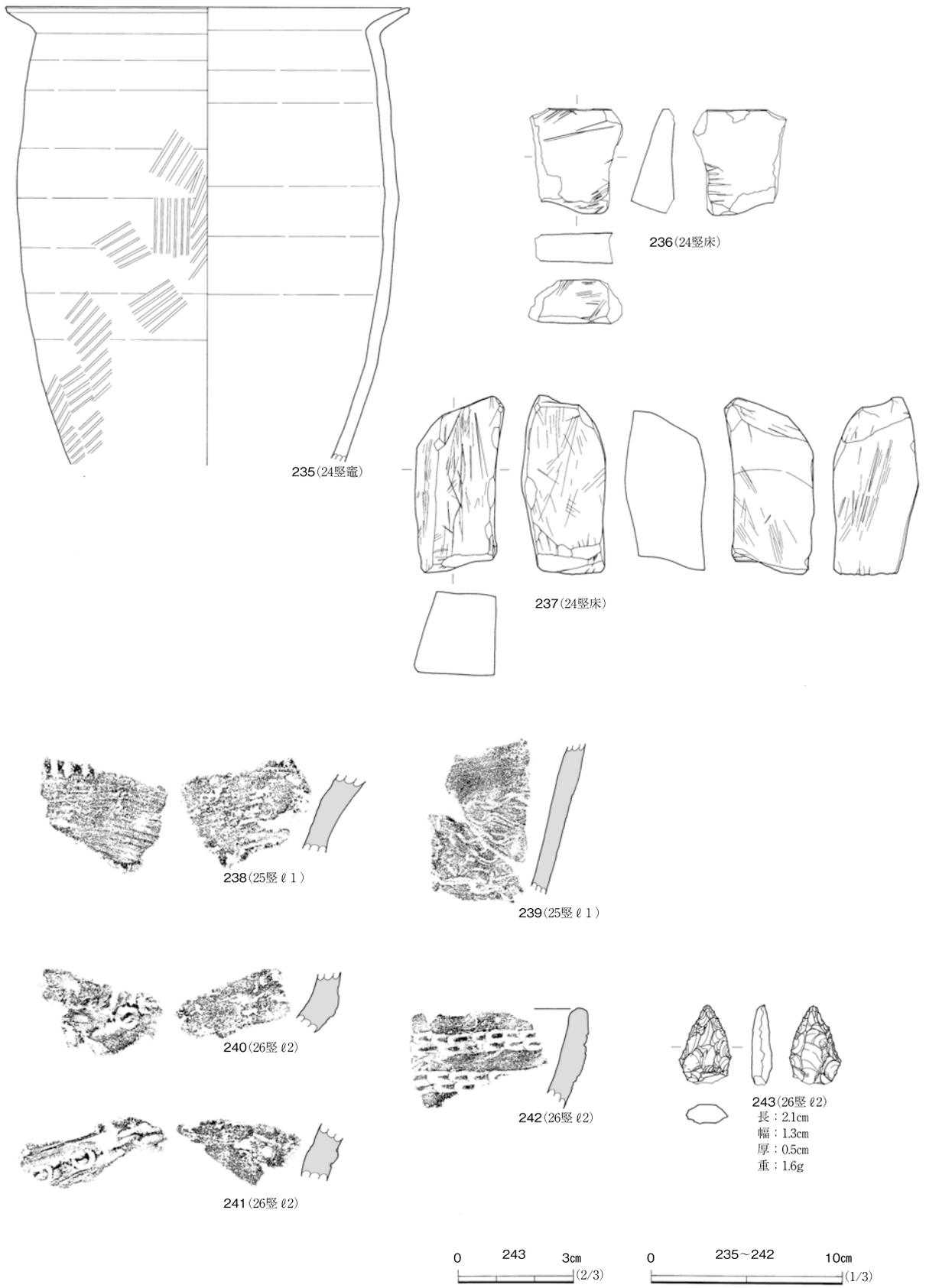
第42図 9・20号豎穴住居出土遺物



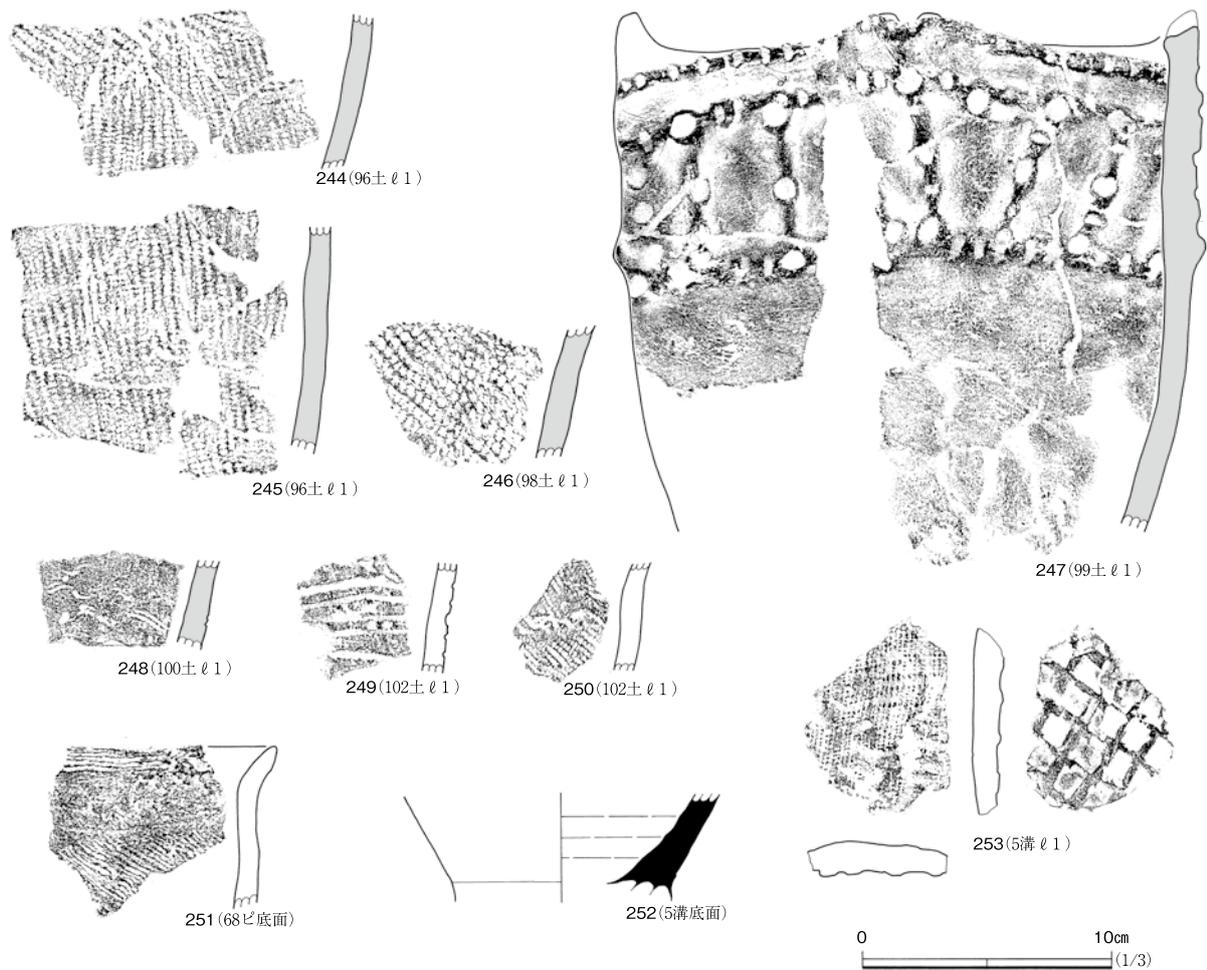
第 43 圖 21·22·23 号豎穴住居出土遺物



第44图 23号竖穴住居出土遺物 (2)



第 45 図 24・25・26 号竖穴住居出土遺物



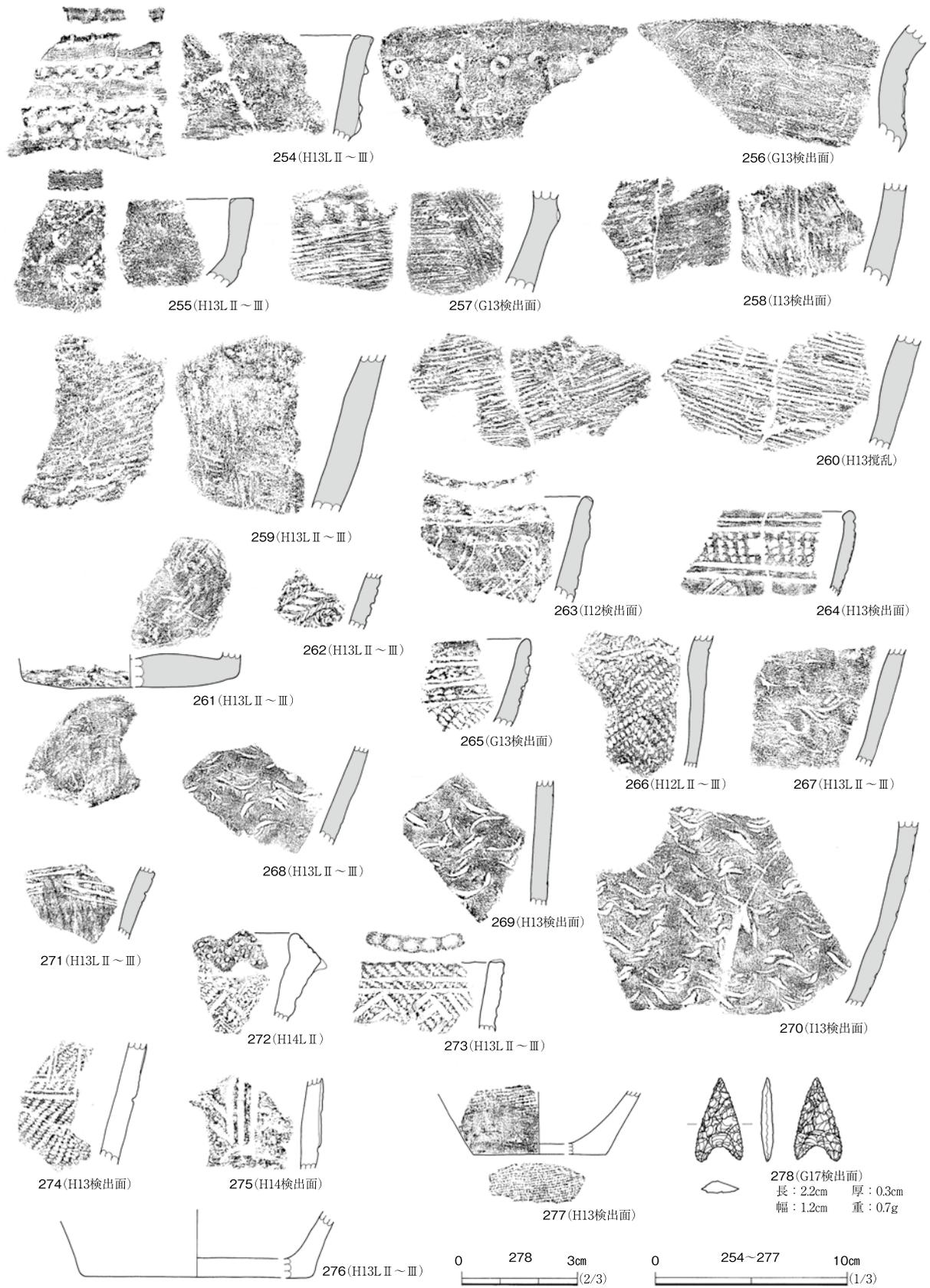
第46図 土坑・ピット・溝出土遺物

に梯子状の隆線が横方向に施され、その稜線には指頭による押圧と棒状工具による刻みがはいる。内面には条痕が認められる。248は100号土坑の出土である。胎土に繊維を含み、S字状連鎖文が施される。249・250は102号土坑の出土である。249は半裁竹管により横方向の文様が描かれ、250は綾繰文がみられる。

68号ピット 縄文土器1点(251)を図示した。口縁部は横方向に撚糸、胴部は斜方向に撚糸が施され、頸部は無文となる。

5号溝 須恵器1点(252)と平瓦1点(253)を図示した。252は須恵器壺の底部破片であろう。253の平瓦は、凹面に布目、凸面に格子の大きい正格子の叩きが認められる。

遺構外 縄文土器23点(254~276)、弥生土器1点(277)、石鏃1点(278)を図示した。縄文土器のうち、254~261は早期後半、262~271は前期前半、272~276は前期後半であろう。254~270は胎土に繊維を含み、271も不明瞭ながら含むとみられる。254は半裁竹管の刺突が施された隆線が横方向にめぐる。255は口縁端部に刻みをいれ、外面口縁部に大小の竹管による刺突で文様を描く。256は竹管による刺突を隆線につなぎ、内面には条痕が認められる。257は隆線に太い半裁竹管による刻みをいれ、その上位には同工具で文様を描く。隆線の下位の外面と内面には条痕が認められる。258~261は内外面に条



第47図 遺構外出土遺物

痕が認められ、このうち258・259は不明瞭ながら内面の条痕が一部格子状となる。262は縄圧痕で蕨手状の文様を描く。263は口縁端部に刻みをいれ、半裁竹管の押し引きで文様を描く。264は2本の横方向に平行する沈線で区画帯をつくり、櫛歯状工具の刺突を充填する。265は半裁竹管で3本の横方向の沈線をひき、沈線間には半裁竹管の刺突が連続する。266は縄文を羽状に施す。267～270はS字状連鎖文を施す。271は細い横沈線で文様を描く。272は口縁端部に細い刺突の施された連続山形の装飾が付き、その下位には沈線で幾何学的な文様が描かれる。273～275は沈線で幾何学的な文様を描く。276の底部は文様が認められない。277は弥生土器とみられ、外面に節の細かい縄文を施し、外面底部には布目の圧痕が認められる。278の石鏃は無茎で、基部に深い抉入がある。

# 写 真 图 版

第5次



南上空より見た第5次調査区



西上空より見た第5次調査区



真上上空より見た第5次調査区



真上上空より見た第5次調査区主要部



12号竖穴住居



13号竖穴住居



14・18号竖穴住居



15号竖穴住居



16・17号竖穴住居



19号竖穴住居



1号烧土遺構



2号烧土遺構



3・4号烧土遺構



53号土坑



54号土坑



55号土坑



56号土坑



57号土坑

第5次



58号土坑



59号土坑



60号土坑



61号土坑



62号土坑



63号土坑



64号土坑



65号土坑



66号土坑



67号土坑



68号土坑



69号土坑



70号土坑



71号土坑



72号土坑



73号土坑

第5次



74号土坑



75号土坑



76号土坑



77号土坑



78号土坑



79号土坑



80号土坑



81号土坑



82号土坑



83号土坑



84号土坑



85号土坑



86号土坑



87号土坑



88号土坑 (第6次調査時撮影)



89号土坑



90号土坑



91号土坑



92・95号土坑



93号土坑



94号土坑



発掘調査前風景



発掘調査作業風景



出土遺物 1 ~ 27



出土遺物28~54



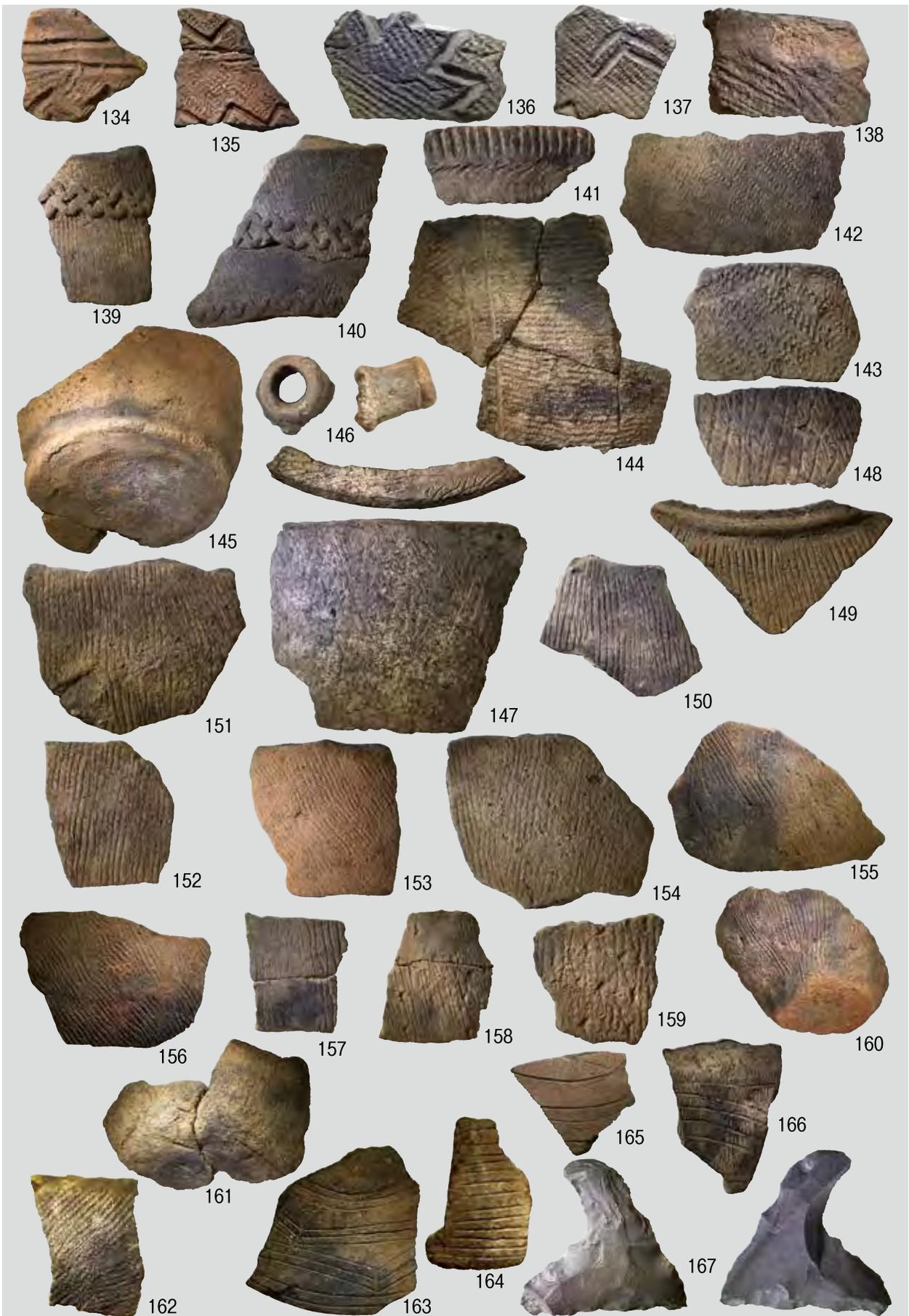
出土遺物55～82



出土遺物83~105



出土遺物106~133



出土遺物134~167



東上空より見た第6次調査区



南上空より見た第6次調査区

第6次



真上上空より見た第6次調査区



真上上空より見た第6次調査区主要部



8a・b号竖穴住居



8a号竖穴住居竈天井崩落状况



8a号竖穴住居竈



8b号竖穴住居遺物出土状况



8b号竖穴住居P22断面



9号竖穴住居



20号竖穴住居



21号竖穴住居



22号竖穴住居



23号竖穴住居



24号竖穴住居



25号竖穴住居



26号竖穴住居

第6次



96号土坑



97号土坑



98号土坑



99号土坑



100号土坑



101号土坑



102号土坑



103号土坑



104号土坑



105号土坑



106号土坑



107号土坑



108号土坑



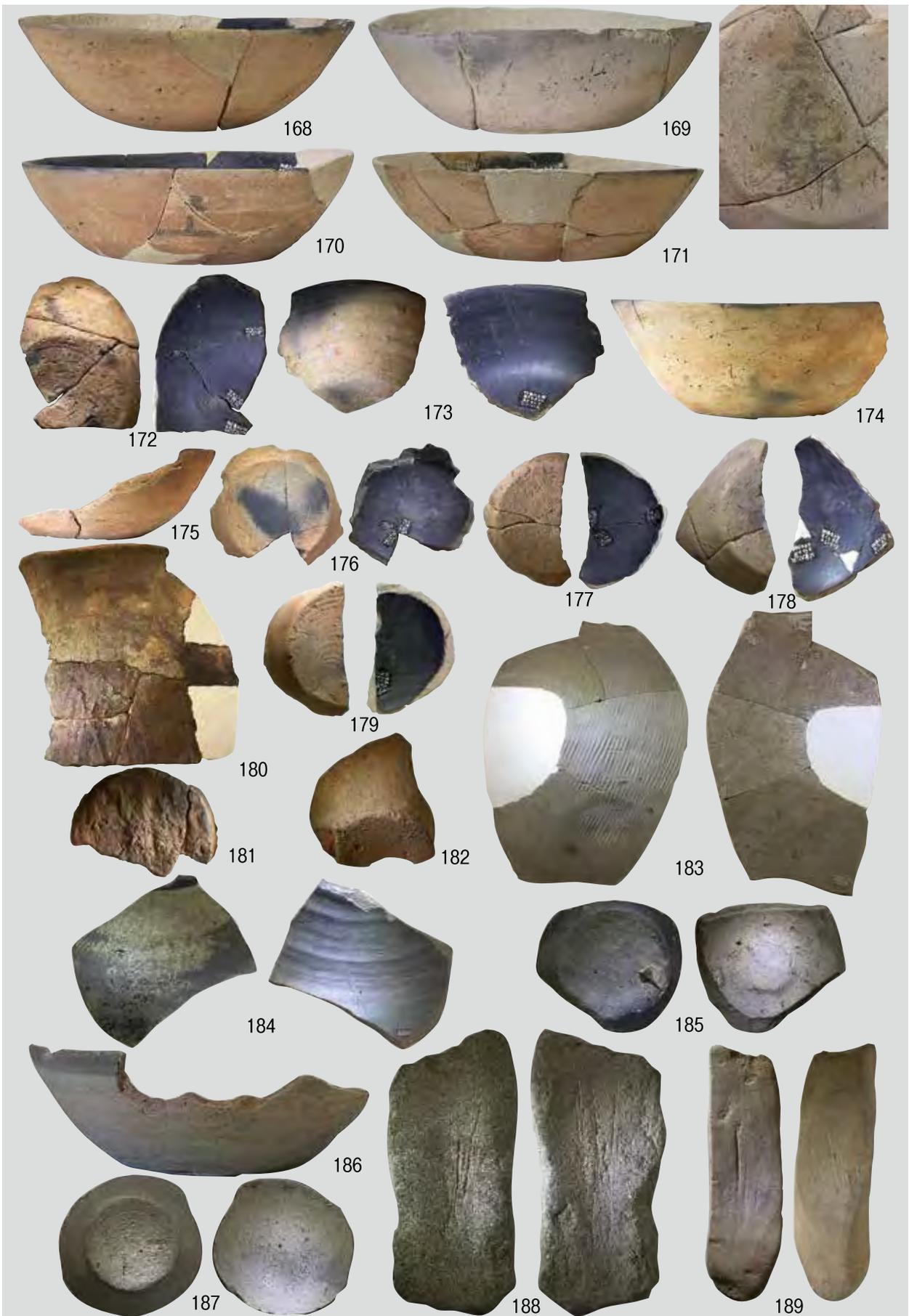
109号土坑



5·6号沟



5号沟断面



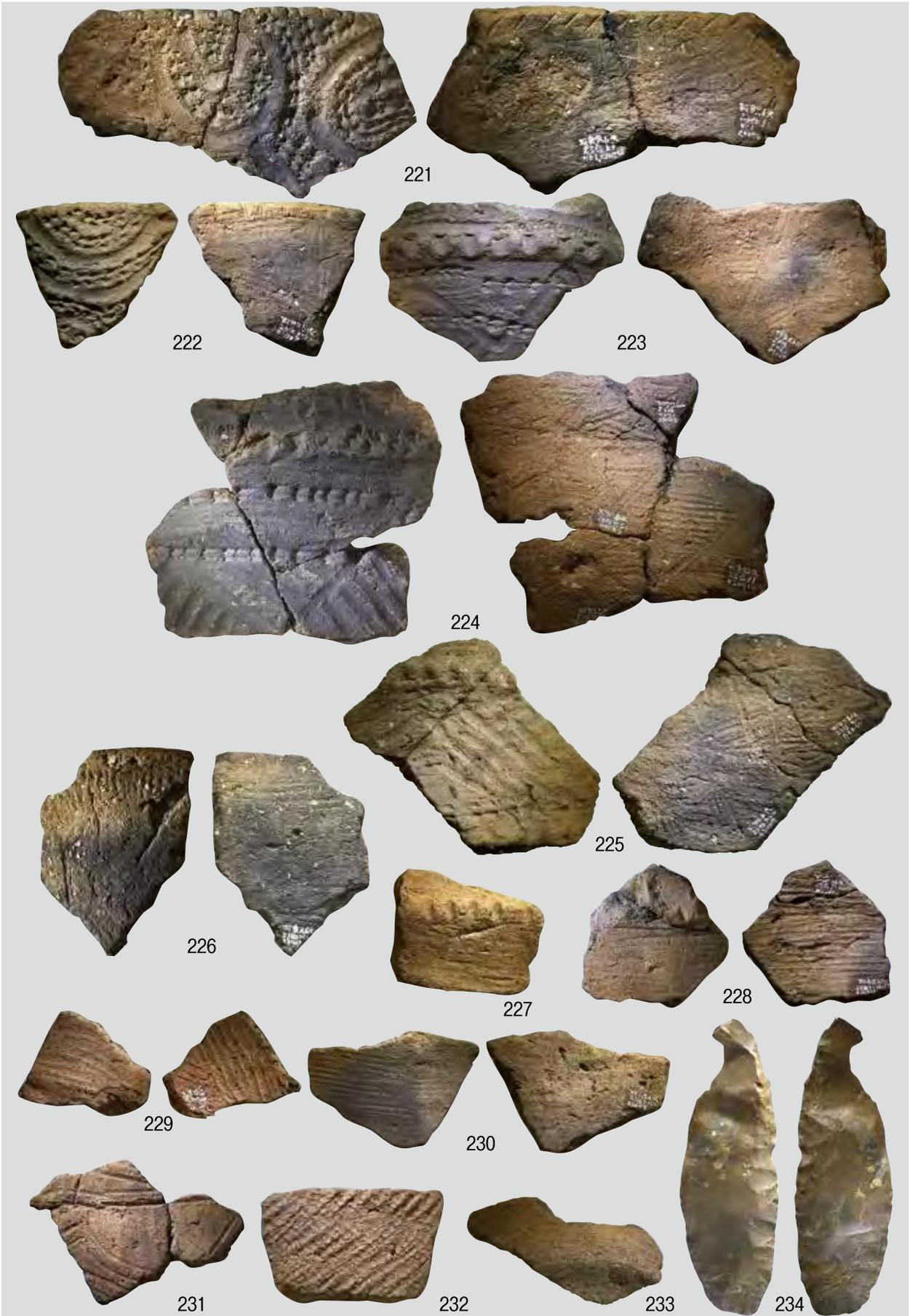
出土遺物168~189



出土遺物190~206



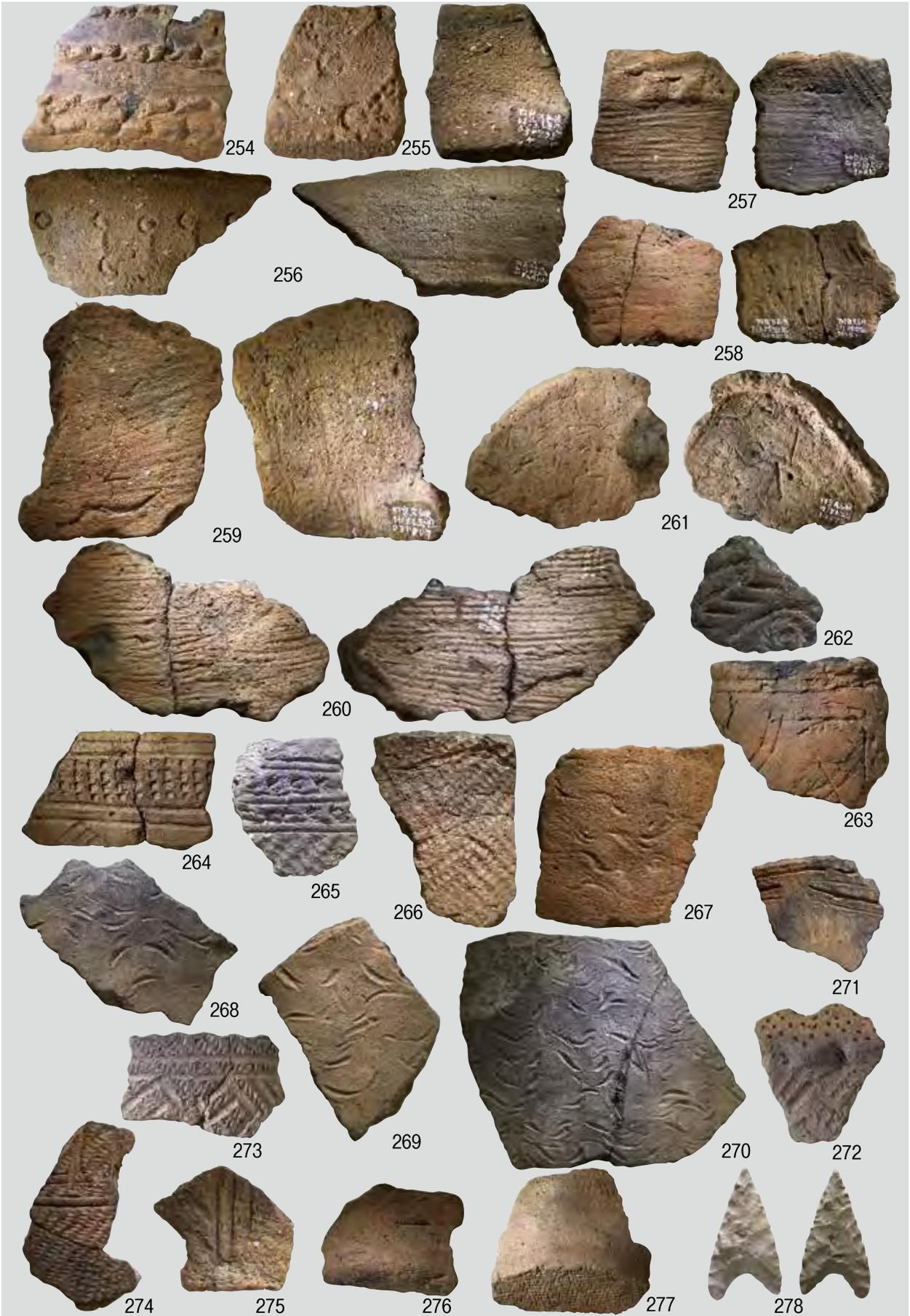
出土遺物207~220



出土遺物221~234



出土遺物235～253



出土遺物254~278

# 報告書抄録

書名	考古資料整備活用業務 阿良久遺跡 第5・6次発掘調査報告書							
編著者	垣内和孝							
編集機関	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター							
所在地	福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番							
発行機関	郡山市教育委員会							
所在地	福島県郡山市朝日一丁目23番7号							
発行年月日	令和6年(2024)2月29日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あらくいせき 阿良久遺跡 (第5次)	福島県郡山市大槻町 字東阿良久	2036	0916	37°	140°	20030120 )	1,500㎡	区画整理
あらくいせき 阿良久遺跡 (第6次)				23'	20'	20030331		
			3"	7"	20030728 )	2,500㎡		
					20031130			
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代・時期	主な遺構	主な遺物		特記事項		
あらくいせき 阿良久遺跡 (第5次)	集落	縄文早・前・晩期 平安前期	竪穴住居 焼土遺構 土坑 ピット 溝	縄文土器 土製品 石器 土師器 須恵器 瓦 石製品				
あらくいせき 阿良久遺跡 (第6次)								
要約	縄文時代早期・前期・晩期と平安時代前期の集落を発掘調査した。							

考古資料整備活用業務

## 阿良久遺跡

—第5・6次発掘調査報告書—

令和6年(2024)2月29日

編集 公益財団法人郡山市文化・学び振興公社  
文化財調査研究センター  
〒963-0541 福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番

発行 郡山市教育委員会  
〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号

印刷 株式会社やまと印刷  
〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字本町2-6



